

1. 事業の具体的内容について

(1) 自治体における取組

① 協議会について

1. 構成員

全員で21人

(内訳：学校保健技師・大学教授（放射線腫瘍医学）・県医師会理事・小中高校長6名・県福祉医療政策部疾病対策課課長・県教育委員会事務局学校教育課課長・県教育委員会事務局保健体育課課長）

2. 開催時期、検討内容

- ・第1回推進会議（6月）：事業の推進に向けた計画の検討
- ・第2回推進会議（10月）：事業の中間報告と計画の確認
- ・第3回推進会議（2月）：事業成果の報告と検証・課題の検討

② 教育委員会としての取組

●高等学校における「外部講師を活用したがん教育」

モデル校が7校となり、初めて取り組む学校も半数あったため、まずは経験校に依頼して公開授業を開催した。そのため、イメージをしながら各校でのがん教育に取り組むことが出来た。また、来年度以降は更に実施校を拡大するために、高等学校保健体育科教員を対象に公開講演会を開催し、「外部講師によるがん教育」の取組や外部講師を活用するための準備等について周知した。



●中学校におけるがん教育

中学生向けのがん教育リーフレットの活用方法や補助教材（ワークシート）についてワーキング会議にて協議し、その内容を各中学校へ周知した。



●小学校におけるがん教育

小学生用リーフレットを見直し、短時間で展開できるがん教育の活用例と共に「10月10日奈良県がんと向き合う日」に合わせて配布した。ワーキング構成員がリーフレットを活用したがん教育の検証を行い、子どもたちの理解や反応を確認した。

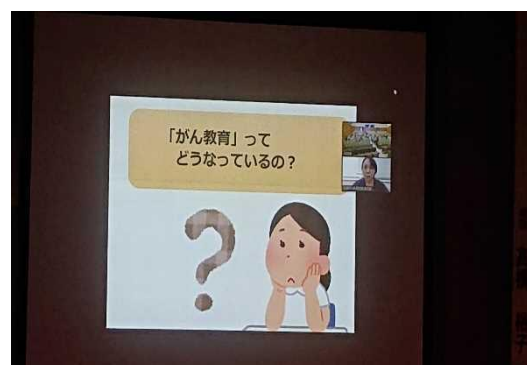


●系統立てたがん教育について

上記のように、子どもの発達段階に応じたがん教育の指導内容について検討し、系統立てたがん教育の展開に取り組んだ。

●がん教育研修会

学校におけるがん教育を指導するにあたり、「本人や家族にがん患者がいる場合の配慮」を気にする教員が多いため、「学校におけるがん教育の進め方—児童生徒への配慮事項など—」と題して研修会を開催した。また、がんへの影響が明らかになっている喫煙についても、同時に研修会を開催することで、教科横断的にがん教育の指導が出来るよう図った。(悪天候のため飛行機が運行せず、講師が会場に来られなくなり、ZOOMを利用して初のリモート研修会となった。)



③ 保健部局や地域の専門機関等との連携

「外部講師リスト」を作成するにあたり、県福祉医療政策部疾病対策課の勧めにより、奈良県がん対策推進会議の座長であり本事業の協議会の委員でもある県立医科大学長谷川教授から、がん診療拠点病院の医師に外部講師への参加を募っていただくことで、外部講師の確保を円滑に行うことが出来た。

外部講師の派遣については、前述の長谷川委員が講師の窓口、県教育委員会事務局保健体育課が学校の窓口となり、派遣依頼と研修内容の事前打合せなどを行ったため、全校のがん教育研修会の内容について把握することが出来た。

(2) モデル校における取組

モデル校7校（県立磯城野高等学校・県立畝傍高等学校・県立奈良北高等学校・県立山辺高等学校・県立奈良情報商業高等学校・県立青翔高等学校・県立郡山高等学校）では、主に「がん教育講演会（1時間）+保健（1時間）」の形式で実施した。がん教育講演会では、外部講師によるがんに関する基礎的知識を

話していただき、保健では、講演会の内容の確認と「がん検診の大切さ」を主なテーマとして授業を行っていただいた。

保健の授業では、グループワークをしたり、文部科学省推薦の DVD やモジュールを使って、クイズ形式での振り返りをしたりと、各校の生徒の実態に応じた取組を行っていただいた。

外部講師との事前打合せでは、生徒の実態や興味の分野について情報提供をしておくことで、分かりやすい内容となった。また、保健の授業時間を確保できなかったモデル校では、事前に生徒から「がんについて聞きたいことのアンケート」を実施し、その内容を外部講師に伝えておくことで、1 時間の講演会でも内容の濃い研修会となった。



(3) その他

特記事項なし

2. 事業の達成度について

当初、計画していた事業目標に対して、ほぼ計画通りに実施することが出来た。

令和元年度がん教育の取組状況調査（県独自調査、令和元年10月実施）において、中学校では89.3%から92.2%へ増加した。高等学校では87.3%から78.9%へ減少し、小学校では、71.5から71.8%ほとんど変化はなかった。

高等学校における外部講師を活用したがん教育の拡大実施に当たり、奈良県のがん治療拠点病院の医師の協力をいただき、外部講師リストを作成することが出来た。

3. 今後の課題及びその取組の方向性（今回の事業により新たに見えた課題など）

各校でのがん教育について、指導にあたる教員の知識不足やがん教育の必要性について理解を得られるよう研修会の充実や周知の方法を効果的にするなど工夫し、がん教育の実施率が向上するように努める。

また、外部講師を活用したがん教育を更に拡大展開するにあたり、外部講師を派遣するための様式（依頼書）を作成するなど、連絡調整の円滑化が課題である。また、各校での授業時間の確保のため、早期に学校保健計画に位置づけるよう、年度が始まるまでに周知徹底を図ることが必要である。

4. モデル校以外での取組について（課題や今後整理すべき事項など）

令和4年以降、教科「保健」の中でがん教育を指導することとなり、がん教育に特化した授業時間の確保が益々困難になることが予想されるため、授業の中で活用できる形でのがん教育教材の作成や、外部講師の専門性を生かしたがん教育の展開について検討していく必要がある。

1. 事業の具体的内容について

(1) 自治体における取組

① 協議会について

1. 構成員

全員で15人

内訳：がん専門医（呼吸器内科・腫瘍内科）1人、県学校医会（小児科）1人、県連合小学校長会1人
 県中学校長会1人、県立学校長会1人、県学校保健主事研究会1人、県養護教諭研究会1人

モデル校担当教員3人、健康局健康推進課1人、学校教育局健康体育課4人（事務局3人を含む）

2. 開催時期、検討内容

【第1回協議会】

・日 程：令和元年8月8日

・協議内容：平成30年度のがん教育の実施状況調査の結果から課題等を見出し、がん専門医、学校医、
 県福祉保健部健康推進課、学校関係者等でがん教育推進のための事業計画について協議した。

【第2回協議会】

・日 程：令和2年2月6日

・協議内容：令和元年度の事業内容について報告するとともに、事業内容等に関する評価を行った。
 各委員からは、それぞれの立場による意見をいただくとともに、次年度の計画（案）について
 も協議した。

② 教育委員会としての取組

○普及・啓発

教職員及び医療・保健関係者を対象に、本県におけるがんの状況及びがん教育の実施状況、がん教育推進に係る法的根拠、学習指導要領の趣旨、外部講師依頼時の要点、各発達の段階における取扱い等について説明を行うとともに、がん専門医による講演で文部科学省の教材を活用した外部講師によるがん教育の推進について働きかけた。



実施時期	実施内容	対象	備考
11月 1日	がん教育研修会（講演、説明②）	教職員	参加者10名
12月 26日	がん教育研修会（講演、説明①、説明②）	教職員・外部講師	参加者54名
1月 9日	がん教育研修会（講演、説明①、説明②）	教職員・外部講師	参加者56名

【講演】演題：「がんについて知っておくべきこと」

講師：和歌山県立医科大学呼吸器内科・腫瘍内科 病院教授 上田 弘樹 氏

【説明①】演題：「本県のがんの状況について」

講師：健康推進課がん・疾病対策班 主任 梅山 岳人 氏

【説明②】演題：「がん教育について」

和歌山県教育庁学校教育局健康体育課健康教育班 指導主事 野田 裕子

③ 保健部局や地域の専門機関等との連携

- ・がん教育総合支援事業協議会に委員として出席し、本県におけるがん教育の推進について協議
- ・本県のがんに関する現状等について教材を作成するための検討
- ・外部講師を確保するため、がん診療拠点病院及びがん患者連絡協議会との連携
- ・和歌山県医師会等と連携を図り、外部講師リストの作成
- ・和歌山県がん患者連絡協議会主催の「がん教育」外部講師実践のための研修会にパネリストとして出席

(2) モデル校における取組

○和歌山県立笠田高等学校

テーマ：「がんについて理解しよう」(講義)、「健康と命の大切さについて主体的に考えよう」(演習)

日 程： 令和元年10月3・4日

講 師： 学校医 前田 至規 氏

対 象： 1年生120名

内 容： 生徒の理解を促すため、文部科学省作成の教材を活用し、講義（1コマ）及びワークショップ（1コマ）で実施した。

○和歌山市立木本小学校

テーマ：「がんを学ぼう！あなたと大切な人の命のために」

日 程： 令和元年10月31日

講 師： 学校医 上中 保博 氏、学校医 竹井 慎 氏

対 象： 6年生94名

内 容： 授業は各学級で行うとともに、児童の理解を促すため、文部科学省作成の教材を活用し、担任と外部講師によるQ & A方式で講義を行った。

○和歌山県立桐蔭高等学校

テーマ：「Learn about cancer！」

日 程： 令和元年12月6日

講 師： 和歌山県立医科大学附属病院 病院教授 上田 弘樹 氏

対 象： 1・2年生生徒保健委員40名

内 容： 生徒の理解を促すため、文部科学省作成の教材を活用した講義とワークショップを取り入れて実施した。また、高校生であることから、講義においては、キャリア教育の観点も踏まえた内容とした。



○印南町立印南中学校

テーマ：「大切な人をがんでなくさないために」

日 程： 令和2年1月16日

講 師： 和歌山県立医科大学附属病院 病院教授 上田 弘樹 氏

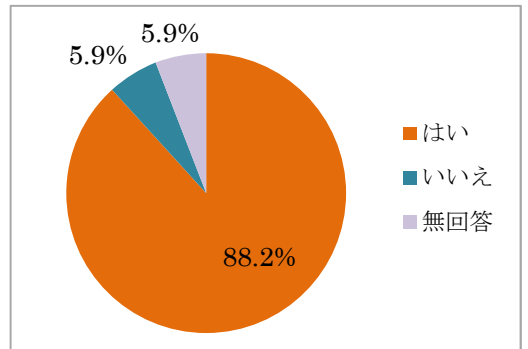
対 象： 3年生

内 容： 生徒の理解を促すため、文部科学省作成の教材を活用した講義とワークショップを取り入れて実施した。

2. 事業の達成度について

○協議会の果たす役割についての評価

協議会としての支援について、令和元年度のがん教育の実施状況調査の結果から課題等を見出し、がん専門医、学校医、県健康推進課、学校関係者等が連携を図り、外部講師リストの作成、学校医と教職員の連携の促進、外部講師を活用した効果的ながん教育の在り方、授業の中での教材の活用方法等を検討することができた。さらに、研修会においては、委員が講師を務めて普及啓発を行う等協議会として十分な支援を行うことができた。一方で、教育活動全体を通じてがん教育を実施するに当たっては周知が十分でないため、継続して周知をしていく必要があるという意見もあげられた。



○がん教育研修会についての評価

研修会の参加者について、開催要項を関係機関にも周知したことで、学校関係者だけではなく、市町村の保健師や医療機関の看護師、がん診療拠点病院の職員等職種に広がりが見られた。

研修会の内容については、参加者に記述式の事後アンケートを実施し、意見や感想等を集約した。

・がん専門医による講演

文部科学省が作成した教材の活用方法についても理解が深まり、教員が実施する授業においても積極的に活用するとともに、医師等外部講師による指導によって、さらに理解が深まることがわかったため、学校医等と連携を図っていききたいとの意見が出された。さらに、外部講師としての講師自身の実践も踏まえていただいたため、実際の授業の展開例や事前の打合せの必要性、演習等を取り入れることの効果について理解を深めることができたとの評価を得た。

・県福祉保健部局による行政説明

本県のがんの状況については、児童生徒が身近に感じるデータであり、小学生であっても理解できるため、がん教育を実施する際にスライドに追加するとともに、保健だより等で教職員や保護者にも啓発すると効果的である。また、県の状況から課題が明確になり、特にがん検診の受診率については児童生徒等に意義を伝えていく必要があるとの意見が得られた。

・健康体育課による行政説明

本県のがん教育の実施状況調査の結果やがん教育推進に係る法的根拠、学習指導要領の趣旨、外部講師依頼時の要点、各発達段階における取扱等について理解できたとの意見が多かった。また、教職員以外の参加者からは、「まずは学習指導要領の内容を理解することが重要であり、教育機関と連携を図りがんについての普及・啓発活動ができるよう、協力体制を整備していきたい」との意見も得られた。

○外部講師リストに関する評価

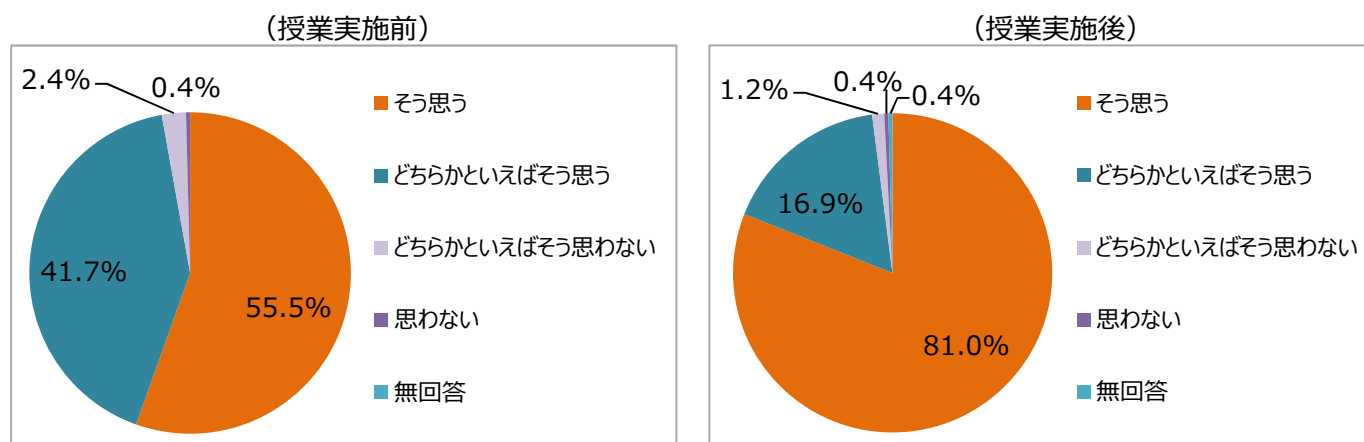
外部講師リストについては、県医師会の会員に周知をし、88名の開業医が外部講師として登録されているが、引き続き、関係機関等と連携を図り、外部講師リストの充実及び派遣のための窓口を設定する。

○モデル校における評価

がん専門医を活用したがん教育モデル授業では、外部講師を活用する際の事前準備から取組を行ったことにより、打合せの内容や配慮を要する児童生徒への対応等について、今後の参考となる実践を行うことができた。また、生徒を対象とした事前事後アンケートの結果から、がんについて正しく理解することができ、生活習慣や検診の受診等今後の行動変容につながるような意見が得られた。

本県においてはがん検診受診率が低いことも踏まえ、事前事後アンケートの項目のうち、「がん検診を受けられる年齢になったら、検診を受けようと思う」について検証したところ、受けようと思う児童生徒等の割合が大幅に増加している（図1参照）

【がん検診を受けられる年齢になったら、検診を受けようと思う（図1）】



3. 今後の課題及びその取組の方向性（今回の事業により新たに見えた課題など）

- ・ 出席者の職種には広がりが見られるようになったが、全体の参加者数は少なかったため、県内全域でがん教育を推進する上で研修会の開催地方を検討する。また、教職員については養護教諭の参加が多かったため、保健体育科教諭や管理職、市町村教育委員会の担当者の出席を促す。
- ・ モデル校については、校種や外部講師の種類、取り扱う時間等により様々なモデルケースを蓄積し、がん教育の在り方や協力体制の整備について検討するとともに、モデル校での実践を先進的な事例として、啓発していく方法についても検討していく。
- ・ 文部科学省が作成した教材だけではなく、児童生徒がより身近なこととして捉えることができるよう、和歌山県のがんに関するデータを授業で活用できるような資料を作成する。
- ・ 外部講師リストについて、県医師会の会員に登録をいただいたが、今後は、がん診療連携拠点病院等の医療関係者やがん経験者等にも登録していただけるよう働きかけるとともに、作成した外部講師リストの運用方法を整備していく。

4. モデル校以外での取組について（課題や今後整理すべき事項など）

- ・ 外部講師を活用することにより、がんについて正しく理解し、自らの行動を変容させようとする意識が見られるなど指導効果が高まっていることから、外部講師を活用したがん教育の実施率や課題等を踏まえ、外部講師の活用の在り方について提示する必要がある。
- ・ 外部講師を活用しなかった理由として、「講師リスト等がなく、講師を探すのが難しい。」や「講師との打ち合わせを事前に行わないと、講師の話す内容と学校の要望にギャップが生じる。」が多いことから、関係機関等と連携を図りながら外部講師リストを充実させるとともに、研修会等外部講師活用のためのガイドラインの内容について具体例を示しながら研修会等で周知する必要がある。
- ・ がん教育の実施について、市町村教育委員会及び県立学校に対し、さらに周知を徹底していくとともに、外部講師を活用したがん教育の実践を行い、内容の充実を図っていく。
- ・ 事業全体を通して、関係機関等と連携を図りながら、本県における外部講師を活用したがん教育も少しずつ軌道にのり始めていることから、今後も継続して事業を推進していきたいと考える。

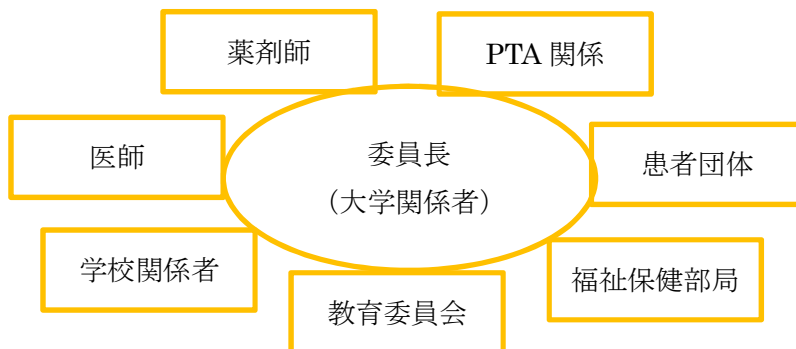
1. 事業の具体的内容について

(1) 自治体における取組

① 協議会について

1. 構成員

全員で19人（大学教授1人、医師（内科医）1人、薬剤師1人、がん患者団体1人、PTA関係者2人、校長会代表4人、保健体育主事部会代表1人、養護教諭部会代表1人、県職員（福祉保健部含む）7人）



2. 開催時期、検討内容

- ・第1回がん教育推進協議会（7月）
主にがん教育指導参考資料の掲載内容等について協議した。
- ・第2回がん教育推進協議会（1月）
主に作成したがん教育指導参考資料の今後の活用方法等について協議した。

② 教育委員会としての取組

実施時期	がん教育に関する計画	参加者
4月	公開授業実施校の決定	
7月26日	第1回がん教育推進協議会	17名（欠席2名）
9月12日	公開授業の実施（大山町立名和中学校） 対象学年：2年生	15名（養護教諭、がん経験者等）
10月3日	鳥取県がん教育啓発研修会 （倉吉未来中心 小ホール）	102名（管理職、養護教諭、薬剤師等）
10月4日	公開授業の実施（県立米子工業高等学校） 対象学年：1年生	10名（教諭、県福祉保健局等）
1月30日	第2回がん教育推進協議会	17名（欠席2名）

③ 保健部局や地域の専門機関等との連携

福祉保健局が主催する「出張がん予防教室」を活用することで、学校のニーズにあった講師を依頼することができた。県医師会と県教育委員会でがん教育の推進に向けて協議を行うなど連携を図っている。

(2) モデル校における取組

・大山町立名和中学校におけるがん教育

実施前後 がんに関するアンケートの実施

9月12日 がんに関する講演会の実施

講師：県外 がん経験者「健康な生活と病気の予防」

・米子工業高等学校におけるがん教育

実施前後 がんに関するアンケートの実施

10月4日 がんに関する講演会の実施

講師：県外 がん経験者「がん患者への理解と共生」

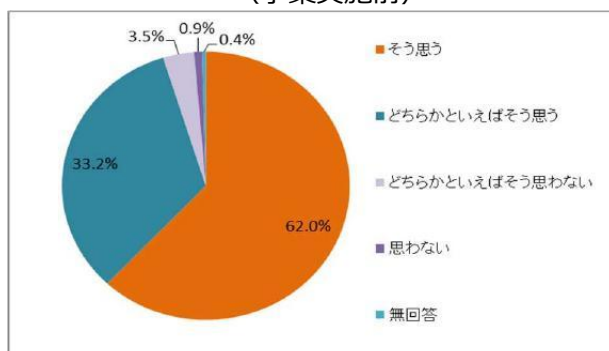


2. 事業の達成度について

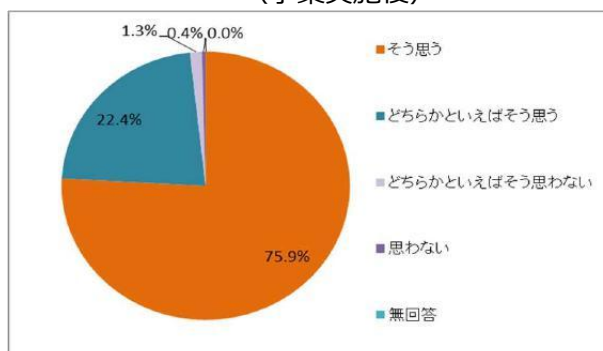
- ・がん教育研修会の参加者の感想では、年間指導計画に位置付けた計画的な実施や配慮事項の重要性やこれからの子どもたちにがんを通して生きることをの意を考えさせるというがん教育で大切にしていることが伝わったなどの意見が多かった。
- ・児童生徒は、公開講演会を通じて、がんを通して命の大切さを感じることができた。
- ・協議会の設置により、医師やがん経験者、福祉保健部等と連携することができた。

＜がんの授業は、健康な生活を送るために重要である＞

(事業実施前)

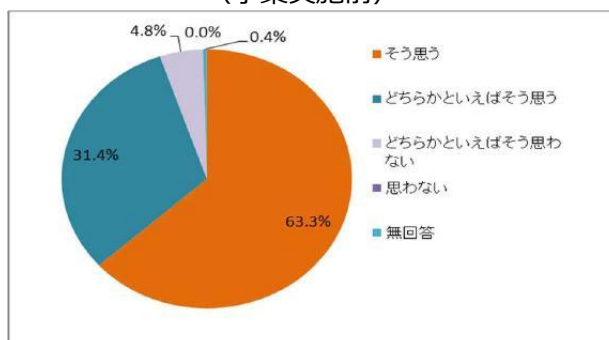


(事業実施後)

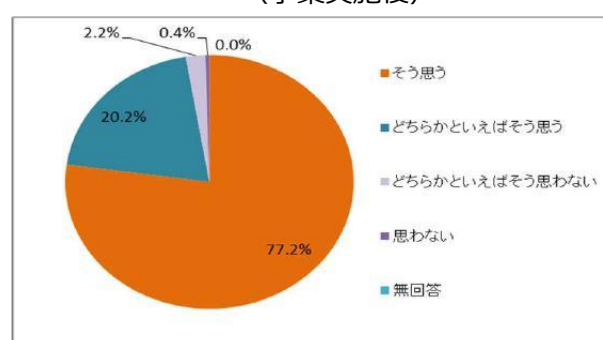


＜がんの授業は、健康な生活を送るために役に立つ＞

(事業実施前)



(事業実施後)



3. 今後の課題及びその取組の方向性（今回の事業により新たに見えた課題など）

児童生徒にとって効果的な授業となるよう、引き続き研修会等を通じて教職員の理解を図る必要がある。
令和元年度に作成した指導参考資料の学校現場での活用が十分図られるよう周知等が必要である。

4. モデル校以外での取組について（課題や今後整理すべき事項など）

先進校以外でも取組が広がるように、研修会等の機会を通じて周知をしていく必要がある。

1. 事業の具体的内容について

(1) 自治体における取組

① 協議会について

1. 構成員

全員で19人

内訳

- (委員) ○医療関係者…学校医師会1人、拠点病院(小児科)医師1人、緩和ケアセンター医師1人
 ○学識経験者…大学准教授1人
 ○がん経験者…がんピアサポーター1人
 ○学校関係者…高等学校長1人、中学校長1人、保健主事部会長1人、養護教諭代表1人
 ○教育委員会…市町村担当1人
- (実践校) ○モデル校校長(必要に応じて実践者の教諭も参加)
- (事務局) ○県教育委員会…保健体育課長1人、健康づくり推進室5人
 ○県知事部局…健康福祉部健康推進課がん対策推進室1人

2. 開催時期、検討内容

	期 日	内 容
第1回協議会	令和元年7月12日(金)	・事業概要の説明 ・モデル校での取組計画 ・がん教育推進に向けた意見交換
第2回協議会	令和2年1月24日(金)	・今年度の事業報告 ・モデル校の実践報告 ・今後の課題等についての意見交換

② 教育委員会としての取組

島根県がん教育研修会の開催

日時：令和元年12月3日(火)

目的：がんに対する正しい理解とがん患者に対する正しい認識及び命の大切さに対する理解を深めるとともに、モデル校における実践を通して、学校におけるがん教育の充実を資する。

対象：東部地区の中学校・高等学校・特別支援学校の保健体育科担当教員と希望者、小学校の希望者、がん教育推進協議会、教育事務所希望者 【参加者121名】

内容：○事業説明

○モデル校の実践発表

○講演 「今、学校で始まる『がん教育』」

講師：東京女子医科大学がんセンター長 化学療法・緩和ケア科 教授 林 和彦氏



外部講師活用の整備

知事部局の健康推進課がん対策推進室と連携して、外部講師リスト作成に向けた検討を重ねた。また、外部講師の活用方法についても検討した。

外部講師派遣事業の活用

がん対策推進室が行っている外部講師派遣事業は、学校が保護者を対象としたがんに関する研修会や講演会を開催する際、講師選定や費用を支援する事業である。モデル校の外部講師活用には、この事業を活用した。外部講師を活用したモデル校の授業を参観し、がん対策推進室と授業内容の充実と課題の共有を図った。

③ 保健部局や地域の専門機関等との連携

外部講師リストの作成

がん対策推進室と連携して外部講師リストを作成した。がん教育を実施する学校が、がん教育の内容や目的に合わせた外部講師を選定できるようにするため、講義内容や校種、派遣可能地域などがわかるリストにした。がん対策推進室がつなぎ役となり、拠点病院や患者団体などと連携して取り組んだ。

島根県がん教育外部講師養成研修会の開催

日時：令和2年2月15日（土）

目的：外部講師の実践に必要な知識と技能を学ぶ。

対象：医療従事者（医師、薬剤師、看護師等）＊がん患者・経験者、教育、行政関係者も参加可

内容：○講演 「がん教育外部講師の実践に向けて」

講師：国立がん研究センターがん対策情報センター センター長 若尾文彦 氏

○行政説明

(2) モデル校における取組

県立松江農林高等学校

○取組テーマ

「がんについて正しい理解と共に支え合う社会について考える」

教員と外部講師を活用した授業の展開

○公開授業

◇第2学年 保健体育科（科目保健）

单元名「さまざまな保健活動や対策」

目 標・様々な保健活動や対策について、資料を見たり、読んだりして、課題の解決に向けて学習活動に意欲的に取り組むことができるようにする。

・様々な保健活動や対策について、我が国の活動を踏まえ、資料等を見たり、読んだりしたことを基に、個人の課題を見つけたり、比較したりすることができるようにする。

〈導 入〉・がんの現状について理解する。

〈展 開〉・がんの予防について考える。

・がん検診について理解する。

・がん検診の受診を高める方法を考える。

〈まとめ〉・大切な人にがん検診を進めるメッセージを記入する。

◇第2学年 外部講師を活用した授業（T.Tによる授業）

「がん検診の重要性について」外部講師：健康推進課保健師

・がん対策について知る。

・島根県のがんの現状について知る。

・がん検診について理解する。

・がん検診の受診率を上げるための対策を考える。



◇第3学年 総合学科福祉サービス系列（福祉）外部講師を活用した授業（講演会）

单元名「こころとからだの生活支援技術」

目 標・がんの治療における緩和ケアについて理解し、どのように支援していけばよいか考える

・がん患者の思いを理解し、暮らしやすい社会を目指すためにはどうしたらよいか意欲的に考える。

「緩和ケアについて」外部講師：看護師

・がんの治療における緩和ケアについて理解する。

緩和ケアの内容、進め方、患者や家族と接する際に心がけていること など

・患者や家族をどのように支援していけばよいか考える。

「がん患者の生活の質について」外部講師：がん経験者

・がん患者の思いや共に暮らしやすい社会について考える。

がん告知から現在までの気持ち、周囲の人に求めること など

・共に暮らしやすい社会を目指すためにはどうしたらよいか考える。

出雲市立河南中学校

○取組テーマ

「がんについての正しい知識を身につけ、命を大切にできる心を育む」

○位置付け

「2019 河南中学校 学校経営方針」に基づき、『命の大切さ』を学ぶ3大プロジェクトの1つとして位置づける。

○PTA 教育講演会「がんとともに生きる」
講師：三好 綾氏（NPO 法人がんサポートかごしま）

○公開授業

◇第3学年 保健体育科（保健分野）

単元名「健康な生活と疾病の予防」

目 標・課題の解決に向けての話し合いや意見交換などの学習活動に意欲的に取り組もうとする。
・がんの発生要因とその予防について理解することができる。

〈導 入〉・教育講演会の内容を振り返る。
・がんは身近な病気であることを知る。

〈展 開〉・がんの疾病概念を理解する。
・がん予防について、私たちができることを班でテーマ別に話し合い、議案書を作成する。

〈まとめ〉・本時を振り返りながら、未来の自分へ向けた「がん予防」のメッセージをワークシートに記入する。



2. 事業の達成度について

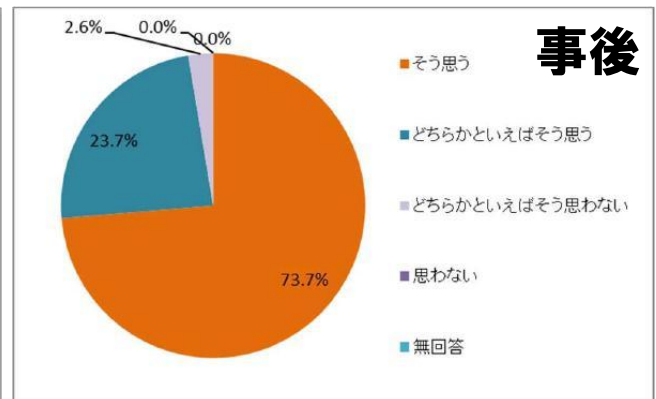
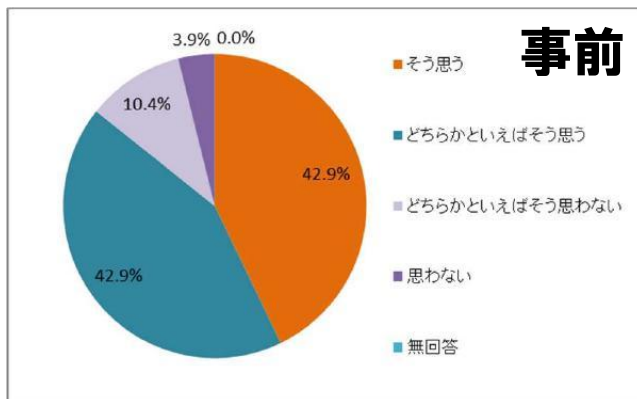
モデル校における成果

○県立松江農林高等学校

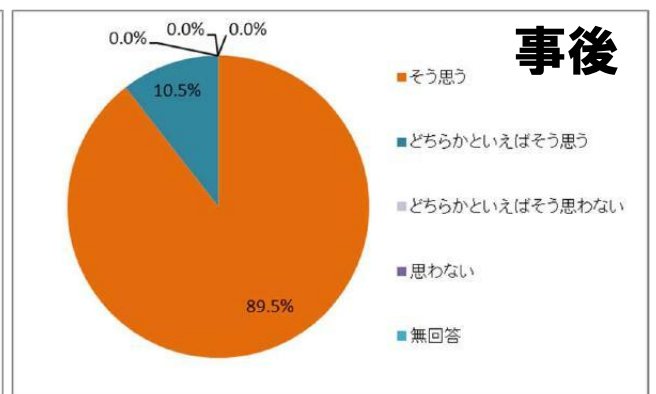
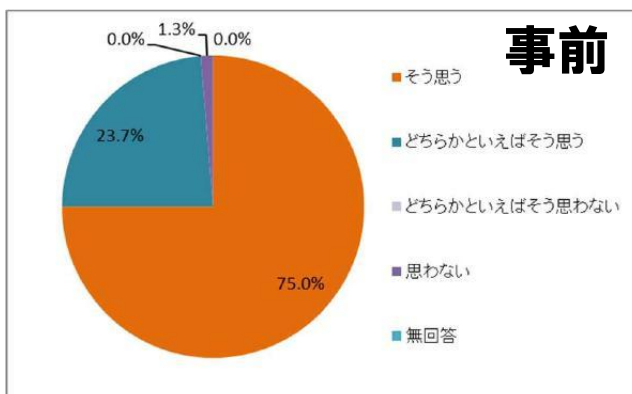
〈保健体育科による授業〉

- ・がんの知識が習得できた。
- ・「がん検診」を積極的に受診したいという生徒の割合が増加した。
- ・大切な人に対してがん検診への呼びかけを考えたことで、思いやりの心の醸成ができた。

Q:がん検診を受けられる年齢になったら、検診を受けようと思う。



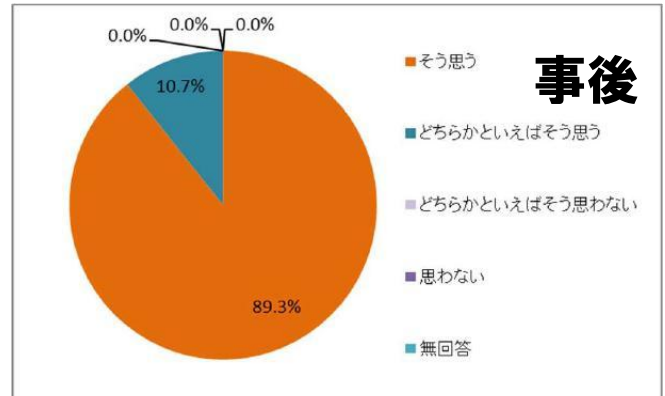
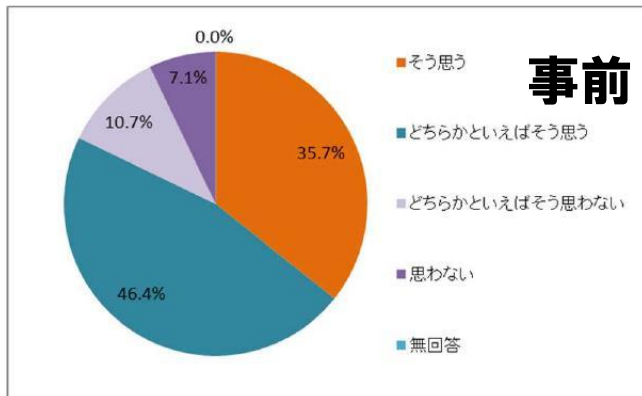
Q:がんの学習は、健康な生活を送るために役立つ。



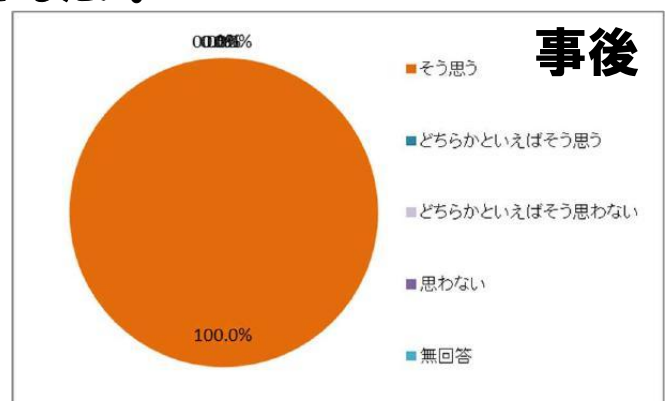
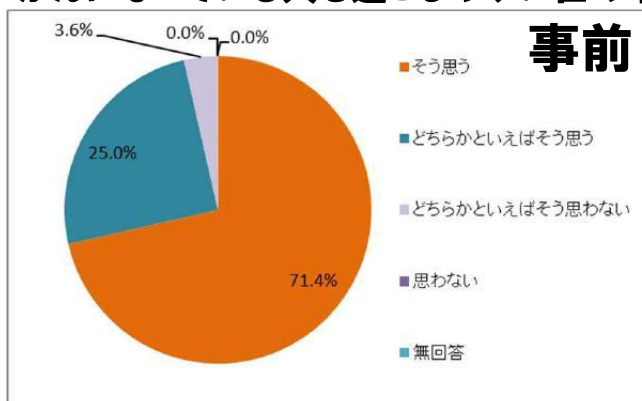
〈福祉サービス系列による授業〉

- ・看護師とがん患者の立場から直接話を聞いたことで、がんについて積極的に学ぼうという姿が見られた。
- ・それぞれの話を聞き、がんになっても「自分らしく」生きることの重要性が理解でき、また共に暮らしやすい社会を作っていこうとする態度が育成できた。
- ・生徒の感想から、がんは重く暗いイメージではなくなっていた。

Q:がんになっても生活の質を高めることができる。



Q:がんになっている人も過ごしやすい世の中にしたい。



生徒の感想

- ・がんなどの病気について知っておくことがより大切だと思った。
- ・がんが見つかり手術をすることになっても、1つの病院だけでなくいくつか受診して自分が納得できるやり方が大切だと改めて思った。
- ・最期まであきらめずに今の状態を把握し理解して、少しでもいい方向に考えられるように自分自身も知識をつけることが大切だと思った。

○出雲市立河南中学校

- ・がんについて正しく理解できた生徒が大幅に増えた。
- ・講演会で、実際にがん経験者の方の元気な姿を見たり、話を聞いたりしたので、がんになっても生活の質を高めることができると考える生徒が増えた。
- ・自分ががんになる可能性があると感じる生徒が増えた。これは、生徒自身ががん予防への意識の高まりにつながると考える。
- ・学校の教育活動全体に位置付けた取組を行ったことで、人権教育やキャリア教育などにつながるなど、生徒にとって実りの多い取組となった。

〈PTA 講演会〉

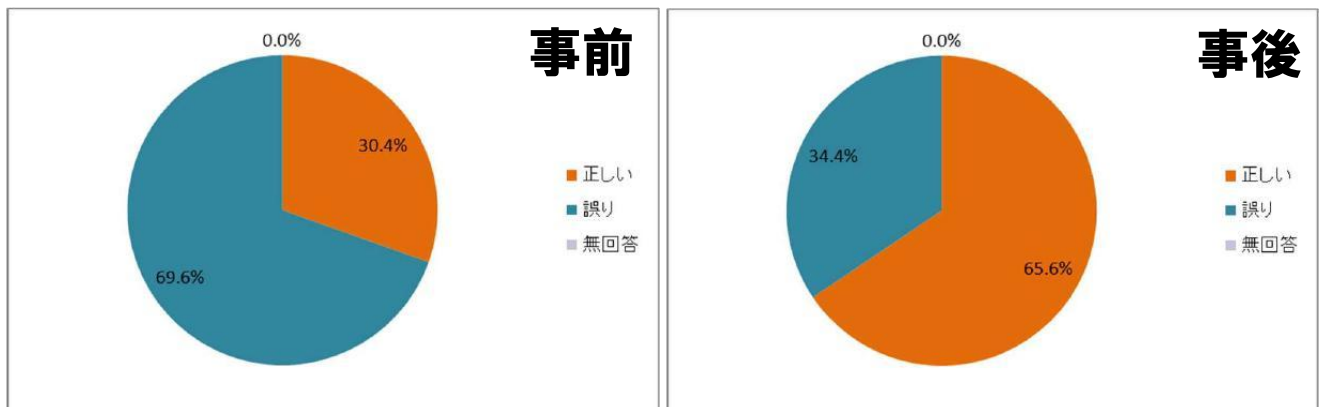
〈保護者の感想〉

- ・がんは、私たちの身近な病気であるし、家族・親戚にがん患者がいる場合もたくさんあります。自分の身内にもがん患者がいましたが、何をどうしてよいか分からないこともたくさんありました。中学生の時期にこのような話を聞いたり学習したりすることは、子どもたちにとって、とても有意義であると感じました。また、講師の三好さんの明るくたくましい姿に、私も元氣と勇氣をもらいました。今日の講演会をきっかけに、これから家庭でも命の大切さについて考えていけたらいいなと思いました。

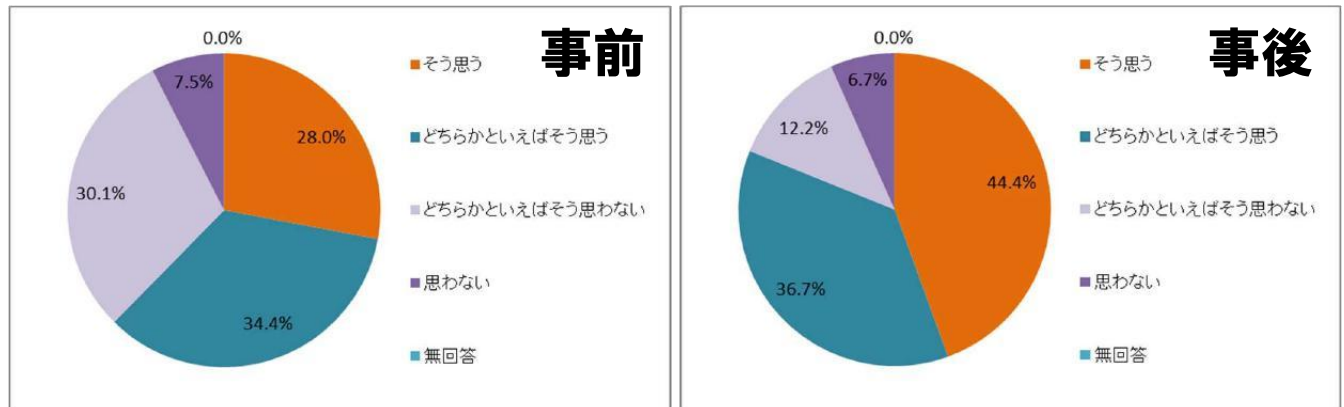
〈生徒の感想〉

・私は三好さんのお話を聞いて「なるほど」と思ったことがありました。それは、がんと生きる三か条の1つ「どうせやるなら楽しくね」です。私は三好さんのお話を聞くまでは、自分の嫌なことは「やりたくないなあ、早く終わらないかなあ、などと思いながらやっていました。しかし、これからは、「楽しく」を意識してがんばってみようと思います。そして、今、自分が生きていることに感謝して、日々を大切に過ごしていきます。誰かが生きたかった日、バトンタッチをくださった大事な一日を、周りの人を大事にし、自分の好きなところが発見できる、そんな日々を送っていきたいと思いました。本当に貴重なお話が聞けて良かったし、がんに対する考え方、命の大切さ、今自分が生きている尊さなどについて、あらためて向き合えることができました。

Q:がんは日本人の死因の第2位である。



Q:がんになっても生活の質を高めることができる。



がん教育研修会の成果

- ・モデル校の実践発表では、受講者から今後のがん教育を行っていく上で参考になったという声がたくさんあった。
- ・林先生の講演会では、がん教育の必要性について理解し、それぞれの学校での何ができるかを考えることができる機会を提供できた。
- ・今回、保健体育科担当者を主な対象として開催したが、がん教育への意識を高めることができた。

〈実践発表に対しての受講者の感想〉

- 今後のがん教育を行っていく上で参考になった。
- 外部講師の活用が有効だと感じた。
- 「未来の自分へのメッセージ」「大切な人にごがん検診をすすめるメッセージ」ただ知識を得るだけでなく、今後の自分の生活や生き方につながるような内容で、ぜひ自校でも実践していきたい。
- がん経験者の方を外部講師に招く点が参考になった。
- 授業の中でがん検診について深めていきたいと感じた。
- 学校経営方針に基づくプロジェクトは大きな成果があったと思った。

〈講演に対しての受講者の感想〉

- 「知識」を伝えることも大事だが、がんについての「意識」を持たせることを大事にしていきたいと思った。（「意識」の教育が必要との感想が多数あり）
- 健康をしっかり考えさせること、がんを知ることとはとても大切なことであり、知ることから学ばせていかないといけないと感じ、がん教育をやっていききたいと思った。
- がん教育の必要性について考えることができた。
- 健康教育は生きる力の根本で基礎であることを改めて認識できた。がん教育を通してがんだけでなく命や健康の大切さを伝える教育ができると思うことができた。
- 自分の授業の在り方を考えさせられた。教科書の1つの時間ではなく、どう伝えていくかを考えていかないといけないと思った。
- 実態に合った伝え方が仕事である教員と、より専門的な知識を持っている外部講師が連携して子供の未来をよい方向へ導きたい。がん教育を通して自分自身の大切さや他人を思う気持ちを学ばば、いじめ問題などの諸課題への対応にもつながると感じた。
- 生徒達に“がん”についてもっと身近なものとして考えさせないといけないと感じた。
- やることの多い学校現場で、職員にも「大切な教育」と思ってもらえるよう、校内で今回の研修伝達をしたい。教職員の意識を高めることから始めたい。

3. 今後の課題及びその取組の方向性（今回の事業により新たに見えた課題など）

- ・令和元年度は、東部地区の学校を中心にがん教育の推進を行ったので、次年度は西部地区の学校をモデル校に指定し、引き続き推進を図る。
- ・教職員を対象としたがん教育研修会も継続して実施し、モデル校の実践発表を通して、がん教育の更なる普及啓発を進めていく。
- ・来年度のモデル校は、今年度がん対策推進室と作成した外部講師リストの講師を活用した授業を行い、実践例としてがん教育研修会で紹介してもらおう。また、その取組は、ホームページ等に掲載して周知していく。
- ・全教職員ががん教育の必要性について理解でき、取組が進むように啓発資料（リーフレット）を作成し、協議会で検討して各校へ配布をする。
- ・モデル校から島根県のデータがなくて困ったという指摘を受け、授業に島根県のデータが活用できるように、がん対策推進室と連携して指導資料を充実させていく。
- ・拠点病院や学校医とも連携をし、外部講師活用の支援体制の充実も図っていく必要がある。
- ・がん教育を実施する上で、「配慮を要する生徒をどのように把握するのか」「相談体制づくりをどのようにし、対応していくのか」などの配慮事項について不安がある学校も多いので、協議会等で検討していく。
- ・研修会での様子（モデル校の実践や講演会の様子）を県内へ広めるために、ホームページに公開したり、研修会で紹介したりするなど、今後さらなる普及に努めていきたい。

4. モデル校以外での取組について（課題や今後整理すべき事項など）

- ・外部講師を活用するときは、学校が主体であること、打合せや振り返りをする必要があるなど、外部講師の活用方法について周知していく必要がある。
- ・モデル校以外でも取組が広がるように、研修会等を通じて周知をしていく必要がある。
- ・今後、学習指導要領に位置付けられていない小学校における指導について検討していく必要がある。

1. 事業の具体的内容について

(1) 自治体における取組

① 協議会について

1. 構成員

全員で20人

【内訳】

県医師会1名、県学校薬剤師会1名、大学教授1名、大学准教授1名、がん経験者1名、校長6名
県保健主任会1名、県養護教諭会1名、推進地域健康増進課1名、推進地域教育委員会1名
県医療政策課1名、事務局4名

2. 開催時期、検討内容

7月18日（木） 第1回協議会

- ・ 本県におけるがん教育の実施状況や実施に係る課題等に関する検討
- ・ 「がん教育に関する計画」についての検討
- ・ 児童生徒の発達の段階に応じた指導内容・方法の充実を図るための手立てに関する検討
- ・ 指導者育成に資するための研修会の持ち方に関する検討

2月 6日（木） 第2回協議会

- ・ 協議会及び推進校指定による授業実践、ワーキンググループによる教材作成、研修会の開催等を通じて得られた成果の普及・啓発の方法及び今後の課題に関する検討
- ・ 評議会委員へのアンケートの実施

② 教育委員会としての取組

- ・ モデル校に外部講師（大学准教授、がん経験者）を派遣
- ・ がん教育推進地域（長門市）において教育講演会を開催

長門市の教職員及び地域を対象として「いのちの授業～いのちを大切に作る心を育む～」と題して教育講演会を実施。小児がんを患った子供の保護者の視点から、いのちについて講演を行い、がん教育の必要性について講演

- ・ 学校におけるがん教育研修会を開催（山口市）

県内の教職員及び学校保健関係者を対象として、「学校におけるがん教育の考え方・進め方」と題した講演会の開催。講師は、がん教育に造詣の深い大学教授に依頼

③ 保健部局や地域の専門機関等との連携

- ・ 県健康福祉部医療政策課に、「学校におけるがん教育推進協議会」の委員を依頼し、助言を得るとともに、県や国の動向についての情報提供や、外部講師の紹介など全面的な協力を得た。
- ・ 長門市市民福祉部健康増進課で実施しているがん教育の事業と連携して、指導案作成やがん教育の進め方を検討した。

(2) モデル校における取組

・ 公開授業・教育講演会

○ 10月24日(木) 長門市立油谷小学校 ※長門市立向津具小学校5・6年生も参加

公開授業(小学5年生 特別活動 公開授業参加者数44名)

指導者 5年生担任、山口県立大学准教授、養護教諭

題材名 がんについて考えよう

目 標 がんの原因や予防について知り、自分と家族のためにできることを考える

教育講演会(小学校5・6年生 52名 教職員・地域住民51名)

演 題 「がん患者の私が伝えたいこと」

講 師 NPO 法人がんサネットジャパン 認定

乳がん体験者コーディネーター 井上裕香子 氏

<講演の概要>

がん患者への理解、検診の必要性(早期発見)、がん患者への支えの必要性、治療の過程や治療法などを伝えていただいた。



○ 11月19日(火) 長門市立菱海中学校

公開授業(中学2年生 保健体育科 公開授業参加者 41名)

指導者 保健体育科教諭、山口県立大学准教授、養護教諭

单元名 健康な生活と疾病の予防

目 標 がんの原因や予防について正しく理解し、自他の健康と命の大切さについて主体的に考えることができる。

教育講演会(全校生徒 75名、教職員・地域住民44名)

演 題 「がんを経験して」

講 師 急性骨髄性白血病経験者 現役フットサルプレイヤー 中平 雄介 氏

<講演の概要>

中学2年生で急性骨髄性白血病を患われ、治療法に関してや、その当時の心境、病気を乗り越えて夢の実現についてなど、中平先生の体験を中心に講演していただいた。その後、生徒からの質問に答えていただいた。



2. 事業の達成度について

(1) 協議会の評価について

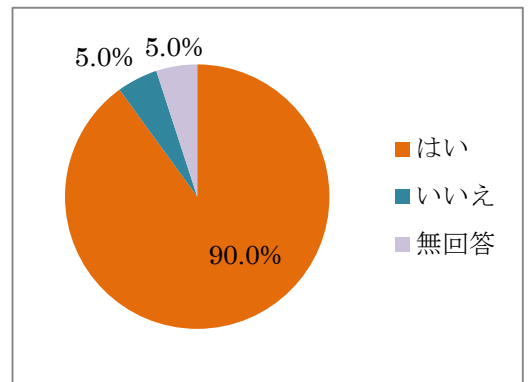
第2回協議会のアンケートで「協議会として十分な支援を行ったか」の質問に90%の方が「はい」と回答された。

「いいえ」と回答された方からは、「更に良いスキーム作りが必要。地域で考えることが重要」と助言をいただいた。

また、

- ・今年度の取組が、次年度につながるが必要だと感じている。指導案や資料の提供後、どんな支援を教育庁としてされるのか、協議会としてどう支援につなげていくのかご検討させることを期待しています。
- ・積み重ねが大切。毎年実施できる時間を確保してほしい。
- ・小学校、中学校、高等学校と段階的に教えることで効果が上がると思われる。

といった、御意見をいただいた。



(2) 児童生徒の事前・事後アンケート結果（主なもの） 令和元年度

がんの学習について

※「そう思う」「どちらかといえばそう思う」「どちらかといえばそう思わない」「思わない」から選択

事前 事後

- | | |
|--------------------------------|---------------|
| a がんの学習は、健康な生活を送るために重要だ（そう思う） | 71%→83% (+12) |
| b がんの学習は、健康な生活を送るために役に立つ（そう思う） | 71%→79% (+8) |

がんについて当てはまるもの（知識）

※「正しい」「誤り」から選択

事前 事後

- | | |
|---|---------------|
| a がんは誰もがかかる可能性のある病気である（正しい） | 71%→79% (+8) |
| b がんは進行すると、今まで通りの生活ができなくなったり、命を失ったりすることがある（正しい） | 81%→97% (+16) |
| c がんは日本人の死因の第2位である（誤り） | 59%→40% (-19) |
| d たばこを吸わないこと、バランスよく食事をする、適度な運動をすることなどによって、予防できるがんもある（正しい） | 81%→91% (+10) |
| e 早期発見すれば、がんは治りやすい（正しい） | 83%→94% (+11) |
| f 体の調子が良い場合は、定期的に検診を受けなくても良い（誤り） | 89%→95% (+6) |
| g がんの治療法には手術治療しかない（誤り） | 70%→84% (+14) |
| h がんの痛みは我慢するしかない（誤り） | 88%→85% (-3) |

がんについて当てはまるもの（意識）

※「そう思う」「どちらかといえばそう思う」「どちらかといえばそう思わない」「思わない」から選択

事前 事後

- | | |
|---|---------------|
| a 自分はがんにならないと思う（思わない） | 29%→37% (+8) |
| b 将来、たばこは吸わないでいようと思う（そう思う） | 88%→90% (+2) |
| c 日頃から、バランスの良い食事や適度に運動を行うなど健康な体づくりに取り組もうと思う（そう思う） | 65%→72% (+7) |
| d がん検診を受けられる年齢になったら、検診を受けようと思う（そう思う） | 65%→78% (+13) |
| e がんの治療方法はいくつかあるが、医師が決めるものである（思わない） | 18%→30% (+12) |
| f がんになっても生活の質を高めることができる（そう思う） | 33%→32% (-1) |
| g がんになっている人も過ごしやすい世の中にしたい（そう思う） | 73%→82% (+9) |
| h がんと健康について、まずは身近な家族から語ろうと思う（そう思う） | 47%→62% (+15) |
| i 家族や身近な人が健康であってほしいと思う（そう思う） | 87%→94% (+7) |
| j 長生きをするために、健康な体づくりに取り組もうと思う（そう思う） | 83%→87% (+4) |

多くの質問で向上が見られた。特に「がんの治療法には手術治療しかない」「がんの治療方法はいくつかあるが、医師が決めるものである」の質問は、教育講演会で触れた内容であり、がん経験者の話を正しくとらえている。

一方で、「がんは日本人の死因の第2位である」では誤答の割合が高くなっていた。後日、改めての指導を要した。正しい知識の確かな定着を求めていく必要がある。

3. 今後の課題及びその取組の方向性（今回の事業により新たに見えた課題など）

（１）各学校におけるがん教育の推進を図る更なる授業開発

がん教育の目標を達成するためには、体育科や保健体育科の保健学習によるがんに関する正しい知識の習得に留まらず、特別活動や人権・道徳教育等、学校の教育活動を通じて、「命の尊さ」やがん患者への正しい理解、自己の在り方や生き方を考え、共に生きる社会づくりに寄与する資質や能力の育成を図っていくことが必要である。今後もがん教育の考え方、進め方についての理解・浸透を図りつつ、体育科や保健体育科の保健学習を中核に、他の教育活動や教職員の連携した取組について、モデルとなる実践を提供していく必要がある。

（２）学校におけるがん教育推進のための研修会等の充実と普及

学校教育の取組を県内全域に普及させていくため、引き続き推進モデル地区を設けて公開授業や授業検討会、教育講演会を実施し、普及、推進に努めていく必要がある。

また、小・中・高の系統性のある指導計画の作成を研究するために、校種のバランスの取れた指定にも努めていく必要がある。

本年度の研修会では、養護教諭の多くの参加者が得られたが、管理職を含め、幅広く教職員の参加を促し、校内で推進を図るリーダーを育成していく必要がある。

4. モデル校以外での取組について（課題や今後整理すべき事項など）

○ がん対策を担当する関係諸機関との連携の強化と外部講師の活用

がん専門医やがん経験者団体、学識経験者を含めた山口県がん教育推進協議会を設置し、がん教育推進に係る指導、助言を受けながら、課題解決に向けた方向性や協力を得ることが可能となったが、外部講師（がんに関する専門家やがん経験者）となる人材の紹介を受けながら、学校への講師派遣体制を構築していく必要がある。

また、外部講師の育成や連携を図るために、関係諸機関との連携によるがん教育指導者の研修を行う必要がある。また、学校教職員の参加も促していく必要がある。

1. 事業の具体的内容について

(1) 自治体における取組

① がん教育総合支援事業協議会委員 16名

1 構成員

(内訳)

県医師会1名, 県歯科医師会1名, 県薬剤師会1名

がん診療連携センター長1名, 県看護協会1名

がん患者会1名, 県保健福祉部1名

中学校長4名, 県教育委員会5名

2 開催時期、検討内容

○第1回協議会 令和元年7月16日(火)

議事: ・徳島県がん教育総合支援事業について

- ・平成26年度～平成30年度の取組(成果と課題)について
- ・令和元年度モデル校でのがん教育授業実践について
- ・外部講師派遣サポートについて
- ・外部講師リスト作成について
- ・研修会における講演会の開催について
- ・指導者講習会及びシンポジウムについて
- ・事業報告書, リーフレット作成・配布について

○第2回協議会 令和2年1月30日(木)

議事: ・徳島県がん教育総合支援事業取組について

- (取組報告・モデル校2校における授業実践の内容・今後の課題)
- ・成果と課題について
- (生徒の授業前後のアンケート結果と考察・今後の課題)
- ・アンケート実施(協議会委員にがん教育に関するアンケート)

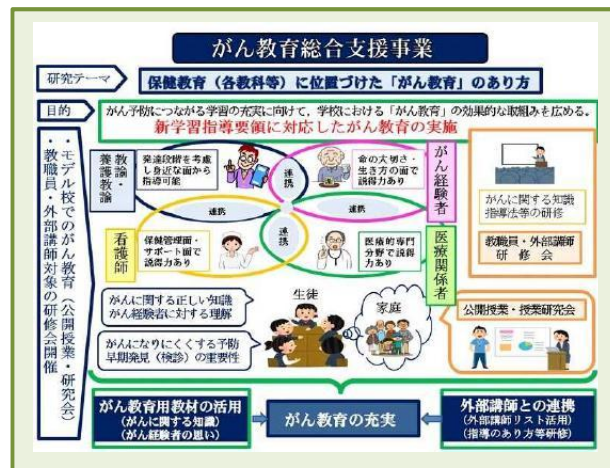
② 教育委員会としての取組

1 モデル校を選定し, がん教育実践

- ・保健体育科の中で「がん教育」のあり方を研究する。

(内容・教材・指導資料等)

- ・外部講師を派遣し, 外部講師と連携したがん教育を実践する。



2 各種研修会の開催

○認定学校医研修会（県内医師・養護教諭等181名参加）

- ・日時 令和元年11月14日（木）
- ・講義 「膵臓がんの早期発見と内科的治療」
徳島大学病院がん診療連携センター長 宮本 弘志
- ・講義 「学校におけるがん教育実践について—外部講師の効果的活用のために—」
徳島県教育委員会体育学校安全課 防災・健康教育幹 田村 浩康

○教職員研修会（校長、副校長、教頭、教諭、保健主事、養護教諭279名参加）

- ・日時 令和元年12月10日（火）
- ・講演 「がん教育で何を伝えることができるか？」
- ・講師 JA 徳島厚生連 阿南医療センター
病院長補佐（教育担当）・緩和ケア内科部長 寺嶋 吉保

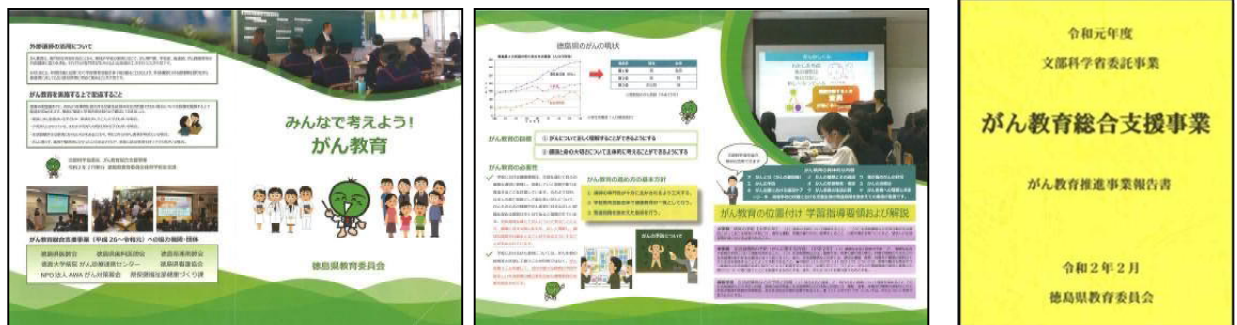


【受講者の感想】

- ・がんについて違った認識をしている部分があった。母が乳がんで亡くなり、遺伝をすごく心配していたが、それよりも先に検診や生活習慣の方を見直したいと思った。
- ・幅広い知識が得られた。がん検診の重要性が理解できたので、受診をすすめたいと思う。がん検診を親や大切な人へメッセージを添えて進める授業は、有効だと感じた。がんのイメージが変わった。
- ・がん教育について、次年度から本格的に実施していかなければならないが、小学校、中学校、高校の内容の確認等校種間の連携、地域の学校間の連携が必要であると思った。

3 事業報告書の作成・配布

- ・事業の報告書、リーフレットを作成し、市町村教育委員会及び学校等へ周知、配布。



③ 保健部局や地域の専門機関等との連携

- ・がん教育実践の際、外部講師としてがん診療連携センター医師やがん経験者を依頼。
- ・県保健福祉部の事業「こころに響け！がん検診メッセージ事業」「次世代健康教育事業」を参考に県教育委員会の事業「徳島県がん教育総合支援事業」のあり方を検討。

(2) モデル校における取組

学校	鳴門教育大学附属中学校	つるぎ町立半田中学校
テーマ	がんについて理解を深め、外部講師を活用した効果的ながん教育のあり方	
	がんを学び、がんから学び、がんを考える	がんを予防するための生活を考えよう
講師	がん経験者	医 師
指導	①教科担任・養護教諭によるTT授業	①養護教諭による授業
	②外部講師・養護教諭・教科担任による授業	②外部講師・養護教諭による授業
対象	中学3年生	中学3年生
授業 単元	保健体育科「健康な生活と病気の予防」	保健体育科「健康な生活と病気の予防」
	第1次 がんとその予防 第2次 がんと向き合うために	第1次 がんを正しく知ろう 第2次 がんの知識を深めよう
工夫	・「がんに関する知識」は、文部科学省教材を活用し視覚的にわかりやすい指導を心がけた。 ・がん経験者の方に質問内容を考えることで、がんという病気がより身近にあることを意識させた。 ・身近な人にがん治療中やがんで亡くなった人がいる場合に配慮できるよう、家庭へ文書を配布し配慮が必要な生徒には、個別に話をした。	・外部指導者との事前の打ち合わせの時間を確保し、生徒からの質問の整理に努めたことで、限られた時間の中で効果的に指導することができた。 ・「がんに関する知識」と「医学的専門分野に基づいた現状」を組み込んで指導することにより、生徒のグループでの話し合いを深めることができた。
成果	・がん教育を通して自分の生活習慣を見直すことでがんを予防することや、健康診断への受診の意識が高まった。 ・がん経験者の方の体験談を聞き、健康と命の大切さを再認識し、がんに向き合ったときの対応について考えることができた。	・がん治療に携わっている医師から、がんに関する正しい知識を教えていただき、将来のがん検診の受診や現在の生活習慣の見直しを深く考えるきっかけとなった。 ・公開授業として、教職員やがん患者等多くの人が参観し研究協議したことで、今後のがん教育を進める参考になった。
課題	・がん教育をするための時間の確保をどうするのか。（保健体育科でがんについてだけに2時間を使うと、他の単元にも影響があるのではないかな。） ・授業で指導する「がんに関する知識理解」についての内容の精選が難しい。 ・講師の体験からがん患者の心情を理解し、自分の生き方につなげるためにも、発問内容などの教師側の授業力の向上が必要である。 ・地域ごとに外部講師になっていただける医師がいると、外部講師とともに行うがん教育が進むのではないかな。 ・外部講師を活用しての授業では、道徳や総合的な学習で実施することにより、担任や他の教員と連携してがん教育に取り組むことができ、生徒のがん教育に対する理解が深まるのではないかな。 ・保健体育科の授業としては学習指導要領の範囲をしっかりと意識し、学校の教育課程の中で「どの時間に何を目的として学習させるのか。」の位置づけを明確にすることが肝要である。	

(3) その他

モデル校でのがん教育実践（生徒・授業参観者の感想）

鳴門教育大学附属中学校 生徒の感想①

話の中で、「がんについて知らない自分だった。」という言葉が心に残りました。確かに、周りの人や医師から大丈夫と言われても、自分が自分を理解して信じないとがんと闘うことが難しいと思います。これからもっとがんになる確率が増えて、もし自分が将来がんになっても、正しく強い行動ができるようにしたいです。そのためには、中学生・高校生の時からがんについてきちんと知って「がんについて知っている強い自分」になれるように学習したいと思います。私の祖父もがんで亡くなったので、あのとき自分にどんなことが出来たのだろうか、考えさせられることが多かったです。

生徒の感想②

今回、がん経験者の方の話を聞いて、治療のことや生活の変化など、実際に経験しないとわからないことをたくさん聞くことができたと思います。その話の中で、入院をしなくても治療できる場合があることと、まだ治療中であることに驚きました。私は、がんの学習をするまで、がんは私にとって他人事のように思っていました。決して他人事ではないと知ることができてよかったです。これから、がんに対する正しい知識を持ち、予防していくために考えていく必要があると思います。そして、少しでも多くの人に知ってもらうために、まずは家族や身近な人に伝えていきたいです。自分の大切な人ががんになっても、心の支えになれるような存在になりたいと思いました。

生徒の感想③

がんは、決して自分に関係のない病気であるとは思わないことが大切だと思います。もし、自分の周りの人ががんになってしまったとしたら、特別扱いをすることはせず、いつも通りの日常を過ごしていくことが大切だと思います。自分がなってしまったときには、ネガティブなことは考えずにとりあえずポジティブなことを考えていきたいと思います。

半田中学校 生徒の感想①

この学習を通して、がんの予防をしっかりと行っていきたいと思いました。自分は野菜不足、塩分摂取、夜更かしと、がんにつながりそうな3つの行動をしています。ですが、今日、友達からもらったアドバイスを参考にしてこの3つの行動を改善していけたらいいなと思います。

そして、この授業で驚いたことは、赤ちゃんでもがんになるリスクがあるということです。あれほどにも小さな体にがんができるなんて信じられませんでした。将来、がんにならないためにもしっかりと予防しておきたいです。

生徒の感想②

がんは2人に1人がなると知ってびっくりしました。がんの原因となるのは、塩分摂取、野菜不足、運動不足などなので、たくさん野菜を食べ、適度な運動をしたいと思います。また、徳島県はがん検診を受ける人が少ないと聞いて、私は受けてみたいと思いました。これからがんにならないように、生活習慣に気をつけていきたいです。

生徒の感想③

がんの原因や治療方法について、具体的なことは知らなかったので、この機会に知ることができて良かったです。普段の生活の中でがんの可能性を上げる習慣があって、ドキッとしました。2人に1人という自分もなる可能性がある病気なので、自分の生活の中で気をつけていかなくてはならないなと思いました。友達からのアドバイスも、実践してみようと思いました。

参観者の感想①

がんは、検診のあるものと確立されていないものがあります。残念ながら早期発見が叶わないがん種もあります。また、早期発見・早期治療することで根治や解決へと単純に進んでいかない道があるということを知らせることも重要だと思います。予防することは大切ですが、それをしていなかったから「がん」になったと思わせてしまうことは、がんへの偏見を生むのではないかと感じます。前向きなことで乗り越えられることがある、乗り越えられないこともある。学生の皆さんの質問からも感じられたことですが、がんへの知識の理解度については、吸収も早いと感じました。痛みや生活について自分の気持ちだけではどうにもならないことについても話し合える機会があれば、より命の大切さへつながるのではないかと思います。

感想②

がん体験者として講師に出向いた経験がありますが、今回のように事前に生徒さんが考えた質問に講師が答える講義方法は効果が大きいと思いました。自分のペースで経験や気持ちの変化を話すよりは、生徒さんの疑問に答える方ががん教育には大切なかなあと感じました。

感想③

保健体育科の授業は、学習指導要領から逸脱しない範囲で知識を理解させるとともに、それをもとにした活用の場面を設定する必要があります。「がんの予防」の単位については、日本の現状や課題を踏まえた内容の学習が必要と言えますが、生徒が自分事として捉え、予防の観点から適切な生活習慣について考えるための工夫を行う難しさが課題であると考えます。

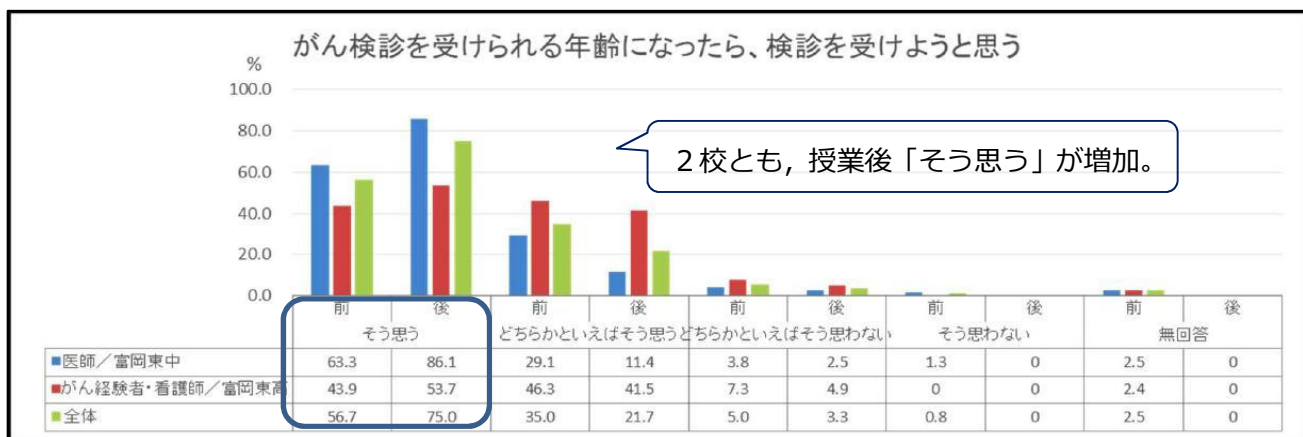
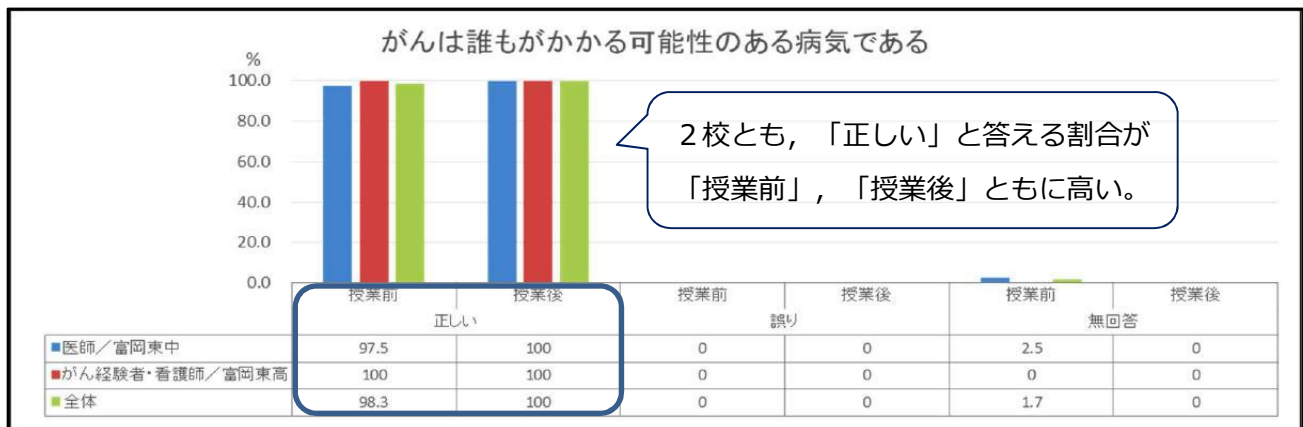
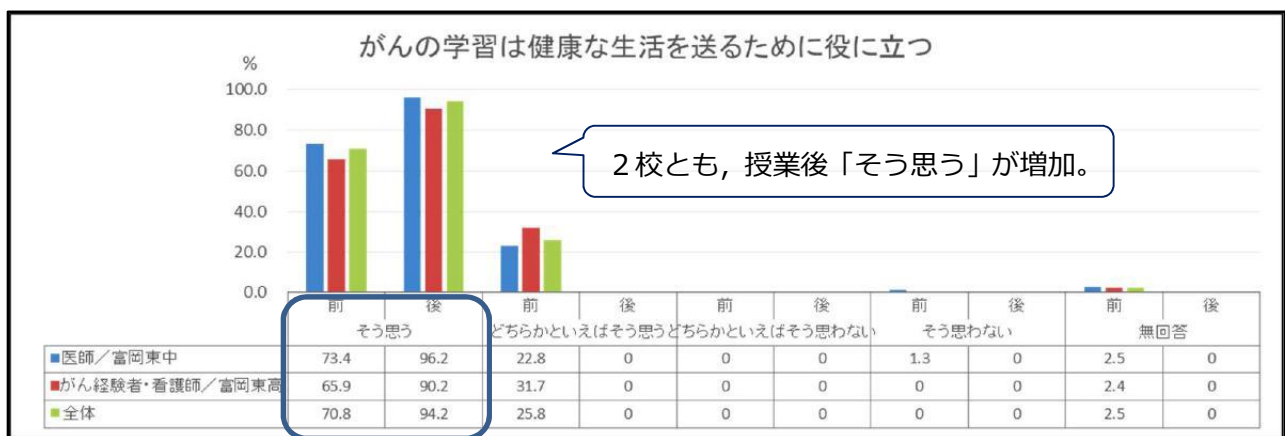
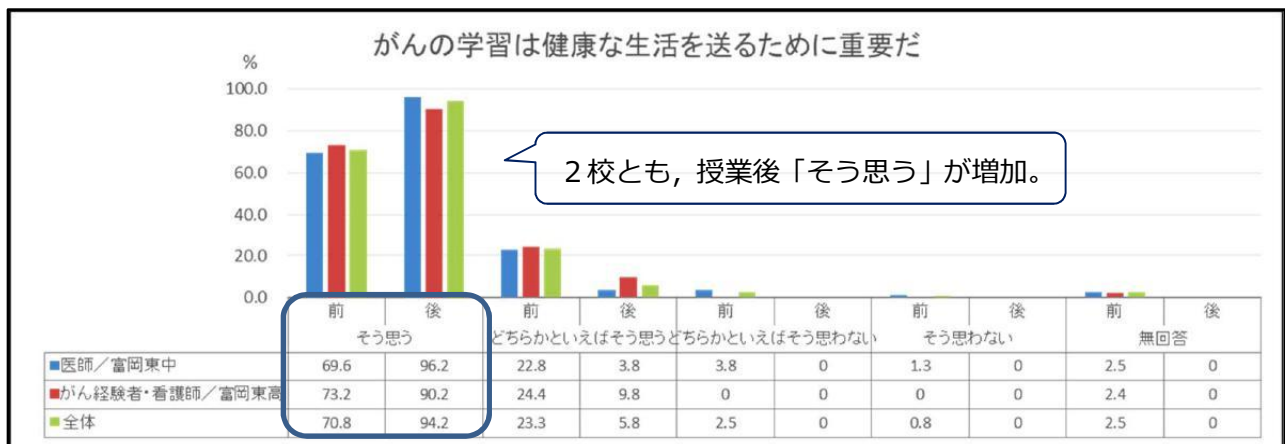
本日の授業では、がん患者の方へ生徒が質問をする中で、がんの知識はもちろんのこと御本人や家族の苦悩に触れることができました。がん教育の観点からすると、とても意味のある内容だと考えます。しかし、教育過程の位置付けで見えていくと、保健体育科としてのねらいからは若干離れてしまうことになるかもしれません。いずれにしても、「がんの予防」が疾病の現代的課題であることは間違いないので、学校の教育課程上、どの時間に何を目的として学習させるのかを明確にする方がよいと思いました。私自身は、今後の社会の動向に合わせ、中学生の理解を念頭においた授業づくりを進めていきたいと考えます。

感想④

がん教育にどう取り組んでいくべきか悩んでいたもので、今回何か参考にしたいと参加させていただきました。がんに対する専門的な知識も必要ですが、がん患者さんの経験や思いを伝えていくことで、子供たちの中に、がんや命に対する感情や気持ちが芽生えてきていることを感じました。子どもそれぞれ思いは違いますが、その思いを持ち始めることが大切だと思いました。最後に発言した女子生徒が、簡単に死にたいとか言わないようにすると言っていたのが、この授業の一番のよさだと思いました。

2. 事業の達成度について

がん教育についてのアンケート集計結果（モデル校の生徒）



がんの治療方法はいくつかあるが、医師が決めるものである

%

2校とも、授業後「そう思わない」が増加。



がんになっても生活の質を高めることができる

2校とも、授業後「そう思う」が増加。



がんになっている人も過ごしやすい世の中にしたい

2校とも、授業後「そう思う」が増加。



3. 今後の課題及びその取組の方向性（今回の事業により新たに見えた課題など）

外部講師を活用したがん教育を無理なく続けていくために、外部講師として協力していただける方を県内各地域で確保していくことが必要。また、県や関係機関など、外部講師を支援する体制が必要。

4. モデル校以外での取組について（課題や今後整理すべき事項など）

新学習指導要領を踏まえたがん教育を行うために、養護教諭だけでなく、体育科・保健体育科教諭を中心に、教材や指導案、参考資料の紹介、がん教育への正しい知識の普及啓発を図る。

1. 事業の具体的内容について

(1) 自治体における取組

① 協議会について

1. 構成員（11名）

- ・香川県医師会代表（外科医）
 - ・香川県学校医代表（小児科医）
 - ・香川県在宅保健師会代表（会長）
 - ・香川大学医学部附属病院がん相談支援センターがん看護専門看護師
 - ・香川県小学校教育研究会（学校保健部会長）
 - ・香川県中学校教育研究会（学校保健部会長）
 - ・香川県高等学校教育研究会（保健体育部会長）
 - ・香川大学医学部代表（大学教授）
 - ・香川大学医学部代表（大学准教授）
 - ・保健所（保健センター）代表（職員）
 - ・香川県PTA連絡協議会代表（副会長）
- （関連組織） 香川県医師会 香川県保健担当部局 香川県PTA連絡協議会

2. 開催時期、検討内容

○第1回協議会（10月：「学校におけるがん教育の学校医等への連絡協議会」と兼ねる）

○第2回協議会（1月）

- ・令和元年度ゲストティーチャー派遣事業の実施状況について
- ・新学習指導要領の改訂について
- ・ゲストティーチャー等対象の研修会について
- ・香川県内におけるがん教育の実施状況等について
- ・今後のがん教育の方向性について

② 教育委員会としての取組

○「授業者研修会」

香川県では、県健康福祉部と連携し、在宅保健師会やがん診療連携拠点病院等の協力を得て、希望する中学校に保健師や看護師をゲストティーチャーとして派遣している。そこで、6月にゲストティーチャーとして派遣される保健師や看護師などを対象に、「授業者研修会」を開催し、新学習指導要領におけるがん教育の位置づけや授業での留意点等を説明した。

○「学校におけるがん教育の学校医等への連絡協議会」

（対象：香川県医師会所属の学校医代表、香川県がん教育推進委員、事務局）

要配慮（がんで家族を亡くしている、現在家族ががんで闘病中である、児童生徒が小児がんで闘病中である等）の児童生徒及び保護者の相談窓口及び教職員へのアドバイザーとして、また教職員や保護者のがん教育への理解を深めるために、学校保健委員会等における講話等の講師として学校医からの協力が得られるよう、学校医等への連絡協議会を開催した。

○がん教育研修会（対象：小中高の教職員、各市町教育委員会、香川県がん教育推進委員等）

【参加人数：150名】

本研修では、新学習指導要領に対応したがん教育の実施に向けて、教職員のがんに関する知識・理解を深めるとともに、県下の学校におけるがん教育の普及・啓発を図ることを目的として毎年開催している。

（１）「がん教育における確認事項について」

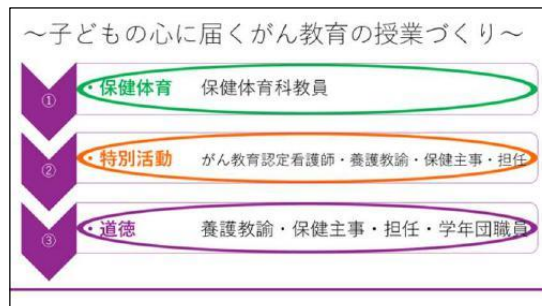
香川県教育委員会事務局保健体育課 主任指導主事

研修会で「香川県がん教育の手引き」及び文部科学省作成の教材及びスライド・映像資料等を各学校の実情に応じて活用し、がん教育を実施するよう周知した。また、各学校へのがん教育実施状況調査から挙げられた課題について、がん教育推進委員会で協議した内容について共通理解を図る場ともなっている。

（２）「学校教育活動全体を通して学びを深める『がん教育』の在り方」

高松市立紫雲中学校 保健主事

- ・外部講師を活用した授業実践を紹介し、連携の在り方を提案した。
- ・「がん教育」に学校教育全体で取り組むことで、共生社会についての考え方や態度を養うことができる。子どもたちは、保健や道徳、特別活動の授業の中で繰り返し学習したことで、広い視点を持って医療や健康、命の尊さについて主体的に考えるようになった。
- ・授業を通じ、「がん教育」は心の中にあるがんに対するハードルを低くする手伝いだと授業者は感じていた。
- ・中学生が、がんについて正しい知識を得ることで、自らががんについて考え、生徒の中にある、がん患者への差別心や特別な病気という思い込みを取り払ってほしい。また、将来の「共生社会」に向けて、中学生が積極的に問題と向き合っていく力を育む普遍的な健康教育としていきたいと授業者は語った。



（３）「がん治療最前線」

香川大学医学部臨床腫瘍学教授（香川大学医学部附属病院 がんセンター長）

- ・がんの種類とがんの発生原因
- ・がんの治療最新情報
（外科治療・放射線治療・緩和ケアなど）
- ・薬の進歩（副作用を抑える薬・抗がん剤）
- ・効く薬の選び方（遺伝子解析）
- ・がんと遺伝子異常
- ・がんゲノム医療の保健診療
- ・免疫療法
- ・香川大附属病院内がんゲノム医療センターについて



③ 保健部局や地域の専門機関等との連携

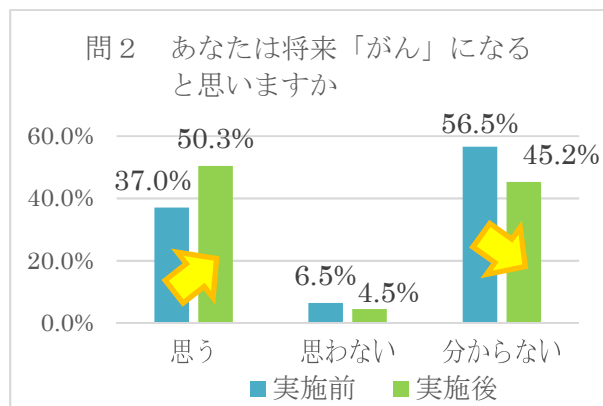
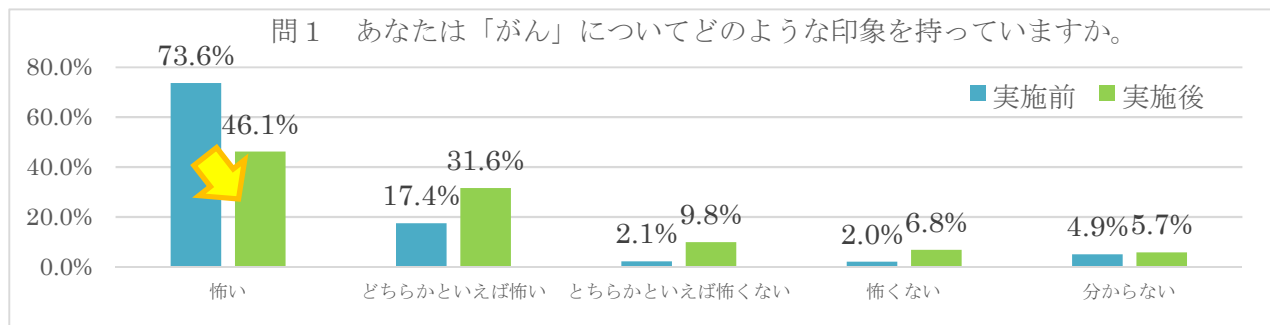
○「ゲストティーチャー派遣事業」

県健康福祉部と連携し、県独自の「香川県がん教育の手引き」を作成している。また、「ゲストティーチャー派遣事業」として、在宅保健師会やがん診療連携拠点病院等の協力のもと、希望する中学校に保健師や看護師をゲストティーチャーとして派遣している。「香川県教育の手引き」で示された指導案や文部科学省のプログラムを活用し、事前に学校と協議を行い、学校や生徒の実態に合わせ、香川県のがんの現状についても授業で触れるようにしている。



2. 事業の達成度について

令和元年度ゲストティーチャー派遣事業実施校による生徒アンケート調査結果より



○ がんについての認識

本生徒アンケート結果から、がん教育実施前と実施後では、生徒のがんに対する印象は大きく変わっていることが分かる。「香川県がん教育の手引き」では、授業者やゲストティーチャーが香川県のがん事情や実体験を話すようになっている。「日本人の2人に1人はがん」「早期発見早期治療」など、授業の中で正しい知識を得ながら、生徒達は、中学生としてがんとう向き合っていくかを考える機会となったという感想が多く寄せられている。

3. 今後の課題及びその取組の方向性（今回の事業により新たに見えた課題など）

○今後の課題及び手立て

1. 高等学校におけるがん教育の普及（国費）

- ・新学習指導要領の内容を踏まえたがん教育の実践が必要であるため、高等学校におけるモデル校を選出し、公開授業を行うことでがん教育の普及をめざす。

2. がん教育研修会の開催（国費）

- ・養護教諭以外の教員の参加率が低いため、特に中学校及び高等学校については多くの保健体育科教員の参加が得られるような働きかけを行う。

3. 外部講師のリスト化推進

- ・「ゲストティーチャー派遣事業」は中学校を対象としているが、今後は、全校種に対応した外部講師リストの作成を検討していく。

1 事業の具体的内容について

(1) 自治体における取組

① 協議会について

県内の学校において、がんに関する教育を推進するための支援体制や具体的な取組についての検討及び県内の学校へ普及啓発を行うための方策等を関係者が協議した。

1. 構成員

全体で8名

(内訳：学識経験者(大学准教授)1名、医療関係者(がん専門医・放射線診断部長)1名、がん患者会関係者1名、学校関係者(県PTA連合会副会長、県立学校長、公立中学校長)3名、モデル校所管の市町教育委員会担当者1名、県保健福祉部健康増進課担当係長1名)

2 検討時期、内容

【第1回がん教育推進協議会】

9月4日(水) 14:00～15:30

協議内容

- ・ 令和元年度事業概要について
- ・ モデル校での具体的な進め方について
- ・ 各学校種におけるがん教育の取扱いについて
- ・ がん教育指導参考資料の活用状況・活用方法について

【参加人数：大学関係者・医療関係者・・・モデル校関係者等 7名】

【第2回がん教育推進協議会】

12月17日(火) 14:00～15:30

協議内容

- ・ 令和元年度事業報告
- ・ がん教育モデル校における実践報告
- ・ 成果と課題
- ・ 学校における今後のがん教育の進め方について

【参加人数：大学関係者・医療関係者・モデル校関係者等 6名】

② 教育委員会としての取組

県内2校(中学校1校、高等学校1校)をがん教育モデル校に指定し、新学習指導要領におけるがん教育の取扱いを見据えた授業のモデルプランを提示し、教職員が、がんに対する知識や理解を深め、指導に生かす取組を支援した。

モデル校における公開授業において、県が作成した指導参考資料と文部科学省が作成したがん教育推進のための教材を活用することで、各学校における具体的な取組につなげた。

モデル校に、がん専門医とがん経験者を派遣し、生徒・教職員対象の講演会、及び教職員対象の研修を実施することで、生徒が、がんに対する正しい理解やがん患者に対する正しい認識及び命の大切さに対す

る理解を深めさせることや、教職員が、がんに対する知識や理解を深め、指導に生かす取組を支援した。

また、研修会にはPTA関係者も参加し、学校の取組を周知するとともに、がんに関する保護者の体験や子どもへの思い等を情報交換する貴重な機会となった。併せて、地域の保健所等の関係者にも講演会開催の案内をし、地域と学校が連携した取組となるよう支援した。

事業成果については、「令和元年度がん教育実践事例集」において、モデル校での実践内容を県内の全市町教育委員会や学校に周知した。

③ 保健部局や地域の専門機関等との連携

- ・ 医療関係者（独立行政法人国立病院機構四国がんセンター）とがん患者会関係者（NPO 法人愛媛がんサポートおれんじの会）委員の協力を得て、モデル校のニーズに応じた外部講師を派遣することができた。また、講演会の講師構成として、医療関係者及びがん患者会の2人講師をモデル校に派遣し、多角的ながん教育を推進した。
- ・ 関係機関等（がん診療連携拠点病院、がん患者会、保健福祉部）との連携により、愛媛県がん対策推進計画に位置付けた施策を推進している。

（2） がん教育推進モデル校における取組

○ 西条市立西条北中学校

- ・ 講演会 9月12日（木）

講師	①四国がんセンター放射線診断部長	菅原 敬文 氏
	②おれんじの会	吉森 公恵 氏
テーマ	①「がんという病気について」	
	②「がん患者として伝えたいこと」	

- ・ 公開授業 9月24日（火）

教科名	保健体育（2年）
テーマ	「がんという病気」 ～大切な人の命を守るために～
授業者	教諭 関口 美香 氏
指導助言	愛媛大学教育学部 教授 日野 克博 氏

○ 愛媛県立川之石高等学校

- ・ 講演会 9月27日（金）

講師	①四国がんセンター緩和ケアセンター長	成本 勝広 氏
	②おれんじの会	吉森 公恵 氏
テーマ	①「緩和ケアの果たす役割について」	
	②「がん患者として伝えたいこと」	

- ・ 公開授業 10月10日（木）

教科名	保健体育（1年）
テーマ	生活習慣病とその予防 ～がん患者への理解と共生～
授業者	教諭 松本 富繁 氏
指導助言	愛媛大学教育学部 教授 日野 克博 氏



(3) がん教育指導者研修会の開催

新学習指導要領を見据えたがん教育の進め方等について、学識経験者を招いて県内小・中・高等学校の教職員50名が研修を行った。

また、前年度の研修会での感想に「子どもへの寄り添い方」についての研修希望があったため、国立がん研究センター中央病院緩和医療科ホスピタルプレイスタッフの小嶋リベカ氏に「子どもの気持ちに寄りそうこと」として講話をいただいた。

○ 10月31日(木) 13:30～16:30

- ・ 講演 新潟医療福祉大学健康科学部
准教授 杉崎 弘周 氏
- ・ 講話 国立がん研究センター中央病院緩和医療科
ホスピタルプレイスタッフ 小嶋リベカ氏
- ・ 令和元年度がん教育推進モデル校実践報告

2. 事業の達成度について

[モデル校における成果]

- ・ 専門医から、がんの発生要因や罹患状況、検診の重要性等について、科学的な根拠を示していただきながら説明を聞くことができたので、その後の授業内容の理解がより深まったと思う。
- ・ がんは身近な病気であると捉えていない生徒たちが、保健体育科の授業や専門家の講演を聞くことにより、学習の必要性を感じ、正しい知識を得ることができた。
- ・ 養護教諭との連携を図ることで、命の大切さについて深く考え、自他への思いやりを深めることができた。
- ・ 保健体育科の授業でがんについての知識を学んだり、道徳で生命尊重の内容を扱ったりする機会があったが、今回はより詳しく学ぶことで、生徒は新鮮で新しい学びの多い取組となった。特に、がんについては、これまで「特別な病気」「治らない病気」という認識をしていた生徒が多かったが、がんという病気について正しい知識を持つことができた。
- ・ 生活習慣病の側面から、生徒に「誰でもかかる可能性がある」病気であると理解させることができた。
- ・ がん患者の方が病気と闘いながら前向きに生きる姿勢に感銘を受け、自他の命を大切にしていこうという気持ちや、人と人が支えあっていくことで、患者さんが安心して暮らせる社会を実現していこうという意欲が高まった。また、本当につらい人への声の掛け方などについて、自己を振り返る機会となった。
- ・ 教職員にとっても今後の教育活動に生かすことができる内容であり、貴重な研修の機会となった。

[指導参考資料活用における成果]

- ・ がん教育において取り扱う内容を盛り込んだ参考資料を活用することで、学習内容について、具体的な数値や内容を示すことができた。また、基本的な内容や共通内容が提示されているため、各学校でも取り組みやすく、がん教育の普及啓発ができた。

[がん教育指導者研修会における成果]

- ・ 新学習指導要領におけるがん教育の取り扱いや、学習内容について理解を深めることができた。
- ・ 生活習慣病との関連付けさせ方、学校種間における系統性等について考えるよい機会となった。
- ・ モデル校における実践を聞くことで、県が作成した指導参考資料の活用方法や、授業を行うにあたっての配慮事項など、具体的な流れを知ることができた。
- ・ 指導・助言のお話にあったように、学校体制での取組、全教職員が共通理解のもとで進めていくことの重要性を感じた。
- ・ 教職員全員が正しい知識を持ち、誰でも自信を持って指導ができるように研修体制を整え、学校全体で取り組むことができるよう、管理職と相談をしてみようと思った。
- ・ 寄り添うことの意味、伴走者としての立ち位置などについて考えることができた。

3. 今後の課題（今回の事業により新たに見えた課題など）

[令和元年度の課題]

- ① 各種研修会において、養護教諭の参加が大半を占めている現状から、保健体育科教員への啓発が必要である。
- ② がん教育の必要性についての意識には個人または学校において大きな差があるため、意識啓発が必要である。
- ③ モデル校が実践した具体的事例を普及啓発し、各学校が取り組みやすいがん教育のモデル提示が必要である。
- ④ 資料の活用方法や内容について、今後も更新・検討を重ねていく必要がある。
- ⑤ 家族にがん患者がいる生徒や家族をがんで亡くした生徒、治療中の生徒等への配慮について教職員の共通理解が必要である。
- ⑥ 生活習慣とがんを直接的に関連させた指導で終わらないよう、生活習慣病が主な原因にならないがんもあることを伝えていかなければならない。
- ⑦ 教科等横断的ながん教育を推進していくために、各学校の実態に応じて、全教職員を対象とした研修が必要である。
- ⑧ 外部指導者の活用について啓発するとともに、体制の整備を進める必要がある。

[令和元年度の課題を踏まえた令和2年度の取組]

- ① 各種研修会の案内をする際、「保健体育科教員の積極的な参加」を明記し、各市町教育委員会を通して各学校へ送付し、参加状況に応じてモデル校の域内の学校へ再度、募集をかける。
- ② 各種研修会の中で「がん教育推進」について啓発をする時間を設け、学校全体で取り組むことへの意識啓発を行う。
- ③ モデル校の取組をまとめた実践事例集の中に、資料の活用方法等を具体的に示し、より分かりやすい資料作成を行う。
- ④ 平成28年度に県が作成した「指導参考資料」の更新について、2年度モデル校の実践結果などを踏まえて検討する。
- ⑤ モデル校への配慮例を、公開授業における研究協議の中で示し、各学校での実践へとつなげていく。
- ⑥ モデル校の講演会の中で、専門医から「生活習慣病が主な原因とならないがん」について説明を受けるとともに、保健体育科の授業においても資料を使って触れることとした流れを「がん教育指導者研修会」の実践発表に盛り込む予定である。
- ⑦ 公開授業や保健主事部会において全校職員が共通理解の上で取り組む重要性について啓発し、モデル校公開授業に管理職や教務主任等が積極的に参加するよう伝達していく。
- ⑧ 現在は、講演会講師として活用している外部講師を、今後は実際の授業においてT2の立場で活用していく方向で検討中である。また、各学校における積極的な活用につなげるため、体制の整備を進めていきたい。

4. モデル校以外での取組について（課題や今後整理すべき事項など）

- ・ 養護教諭と連携した授業実践
- ・ 外部講師を積極的に活用した授業実践
- ・ カリキュラムマネジメントを充実させ、教科横断的ながん教育の実践
- ・ 学校・家庭・地域が連携した取組
- ・ 県下各地区の保健体育科教員で「がん教育推進チーム」を編成し、資料や外部指導者の活用について実践・検証を重ね、「がん教育推進リーダー」を育成する。

1. 事業の具体的内容について

(1) 自治体における取組

① 協議会について

1. 構成員（全員で12人）

高知大学医学部教授（がん拠点病院外科医師）、がんセンター長（がん診療拠点病院放射線科医師）、がん診療拠点病院院長（循環器内科医）、県医師会理事（小児科医）、大学教授（看護学部）、がん患者会代表、健診機関（外科医、事務局代表）、県健康政策部健康対策課課長、がん教育推進校を所管する市町村教育委員会指導主事3名

2. 開催時期、検討内容

〔第1回協議会〕

開催日：令和元年8月29日

協議内容：県内のがん教育実施状況とそれに基づくがん教育推進計画について情報共有し、意見をいただいた。その後、外部講師リストの作成と外部講師派遣の体制整備、高知県がん教育教材の内容について協議した。

〔第2回協議会〕

開催日：令和2年2月3日

協議内容：作成した外部講師リストと外部講師派遣体制についての確認を行い、高知県がん教育教材について協議した。また、事業報告に基づき成果と課題について検証し、次年度の計画について確認した。

② 教育委員会としての取組

各地域や県内全域の教職員を対象とした研修会で、授業参観後や講演を聴いた後に、推進校での教科横断的ながん教育の計画とその実践についての発表を聞いて、自校での取組にどのように取り入れられるかをその場で協議してもらうことで、翌年度の具体的な実践につなげられるように取り組んだ。

高知県独自のがん教育に関する指導者用資料や校種別のがん教育教材を作成し、外部講師派遣体制を整えることで、どの学校においても学習指導要領に示されている内容について指導を行うことができる教職員の指導力の向上が図られるよう取り組んだ。

また、地域連携推進事業として地域の保健部局や学校医、がん診療拠点病院等と連携を図りながら地域の課題を解決していくためにどのようながん教育を実施していくことができるか、協議会を設置して外部講師を活用したがん教育の内容や校種間連携、外部機関との連携体制について協議し、地域の課題や実態に応じたがん教育の実施に取り組んだ（四万十市に委託）。

③ 保健部局や地域の専門機関等との連携

県健康政策部健康対策課と連携を図り、講師派遣事業を行った。学校への事業説明や受付窓口を教育委員会が、教育委員会が聞き取った各校の要望に基づいた講師の調整や報償費等の支払いを健康対策課が行う等、役割分担を行って取り組んだ。また、事前打ち合わせや授業には可能な限り両課で参加し、内容の充実と共有を図ることができるように取り組んだ。

(2) モデル校における取組

〔高知県立室戸高等学校 2年生対象 テーマ：健康教育に位置づけた「がん教育」の推進について〕

・全体計画 3 時間

①科目保健 1 時間

事前アンケートを活用しながら、がんに関する正確な基礎知識を学習した。事前アンケートの結果から捉えられたがんに対する意識を全体で整理しながら、次時のがん経験者のお話へつなげる授業とした。

②特別活動 1 時間：外部講師を活用した授業（公開授業）

県健康対策課保健師及びがん経験者を講師に迎え、県内のがんに関する現状や対策、がん経験者によるお話を聞き、自分や自分の周りの大切な人の命を守るためには何ができるのかを考えた。

③特別活動 1 時間

外部講師による授業で学んだことをもとにがんの現状について再確認し、関心が高かった事項を補足。その後、家族ががんになったときのシミュレーションを行うことでがんについて主体的に考える時間を設け、命の大切さや家族について考えさせた。

〔高知県立高知国際中学校 2年生対象 テーマ：健康教育に位置づけた「がん教育」の推進について〕

・全体計画 4 時間

①保健体育科保健分野 1 時間

「傷害の防止」の単元で、生活習慣病やがん等の予防等について知り、啓発リーフレットを作成する。その中で、公開授業前にがんについての興味関心を高めるため、事前の意識調査及びディスカッションを行った。

②③特別活動 2 時間：外部講師を活用した授業（公開授業）

がん診療拠点病院から医師を迎え、がんの基礎知識やがんの治療法、医療における国際貢献について知り、それを踏まえて、早期発見・早期治療の重要性や将来の生き方について考えた。

④道徳 1 時間

がん教育推進のための教材の中の「命あるかぎり、あなたに伝えたい」を活用し、これまでのがんについての学習も踏まえ、命の大切さやこれからの自分の生き方について考えた。

〔安芸市立安芸中学校 3年生対象 テーマ：健康教育に位置づけた「がん教育」の推進について〕

・全体計画 3 時間

①保健体育科保健分野 1 時間

「生活習慣病とその予防」の学習で、がんを予防するための日々の生活習慣の重要性について学んだ。

②特別活動 1 時間：外部講師を活用した授業（公開授業）

がん専門家とサバイバーを迎え、がんの基礎知識やがんの向き合い方について知り、それを踏まえて、生きること（命）の大切さやがんで大切な人を失わないためにできることについて考えた。

③特別活動 1 時間

外部講師による授業を振り返りながら、どのように向き合えばよいかについてまとめた。

〔南国市立鳶ヶ池中学校 2年生対象 テーマ：健康教育に位置づけた「がん教育」の推進について〕

・全体計画4時間

①保健体育科保健分野1時間

事前アンケートを活用し、がんについての知識や意識、がん教育の必要性を問うことで、次時に向けて、興味関心を引き出す授業とした。

②特別活動1時間：外部講師を活用した授業（公開授業）

がん診療拠点病院から3名の医師を迎え、事前アンケートの結果や生徒からの質問事項を踏まえながら、それぞれの専門分野である「がんの基礎知識」「たばことがん」「子宮がん検診」についてお話しいただいた。

③特別活動1時間

外部講師による授業を振り返りながら、感想文の作成を行った。

④保健体育科保健分野1時間

「喫煙と健康」の学習で、常習的な喫煙によりがん等の疾病を起こしやすくすることを学び、自身の望ましい行動選択について考えた。



(3) その他

いずれの学校においても、外部講師を招聘した授業については、公開授業とし、授業参観後、外部講師によるがん教育についての講話と推進校での取組についての実践発表、それらを踏まえ、参観者の所属校でがん教育を展開するための課題や実施に向けてできる工夫について意見交換を行った。

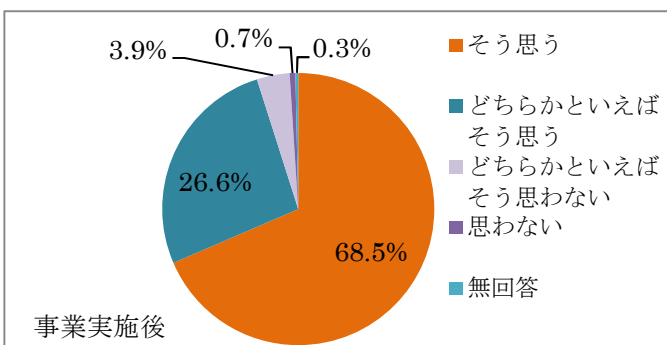
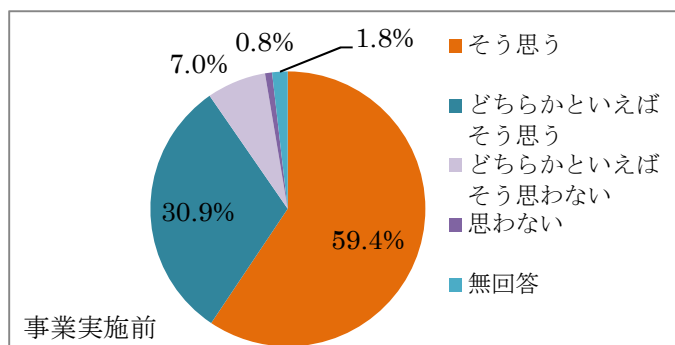
2. 事業の達成度について

推進校での公開授業を実施した後に、がん教育の計画的な実践についての発表や外部講師と参加者による研究協議等を実施し、今後の各学校でのがん教育の進め方について意見交換をすることで、教職員のがん教育に対する意識の変容が見られた。令和2年度に外部講師を活用したがん教育の実施を希望する学校は、令和元年度と比較すると3倍近くとなっている。

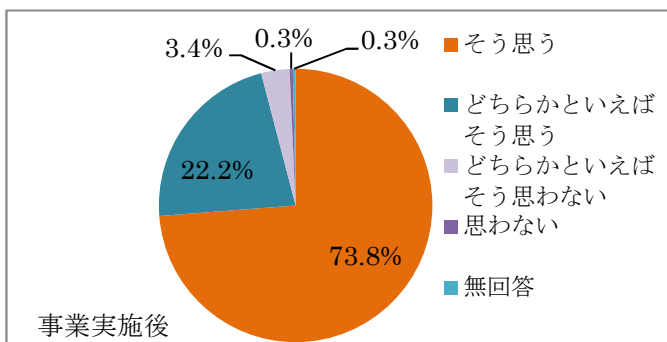
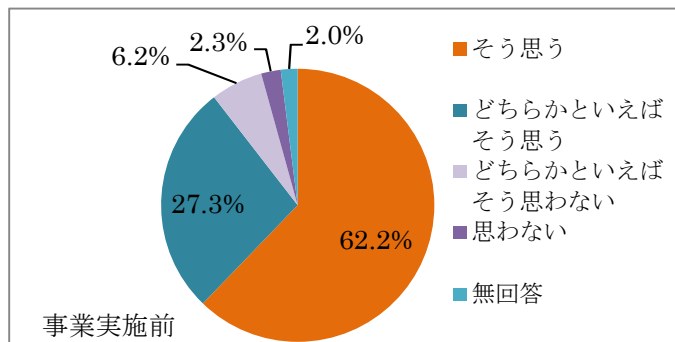
各校での実施内容についても、外部講師の派遣を希望する学校には、打合せ時にがん教育の概要や計画の在り方等について説明を行い教科横断的に実施してもらうことで、深まりのある指導ができています。

また、生徒の事後アンケートからは、本県が目標としている「がんを教材とした健康教育の展開」、「児童生徒から家族への伝達・啓発」に関する項目が肯定的に変化している様子が分かり、ねらいに迫る効果的な指導が展開されていることが分かる。

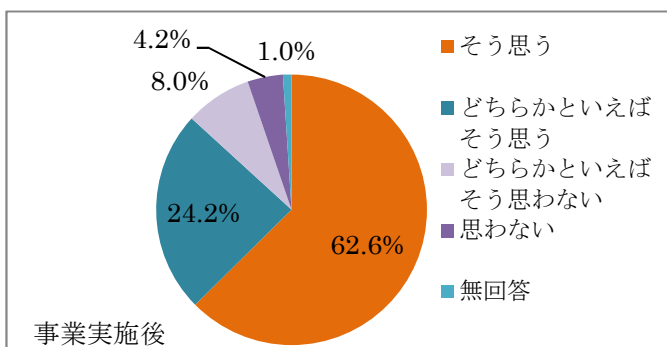
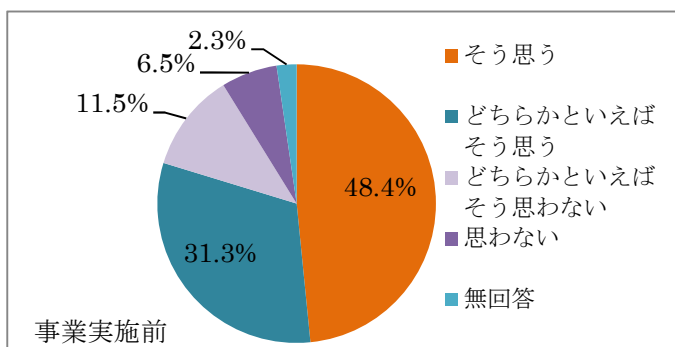
【日頃から、バランスの良い食事や適度に運動を行うなど健康な体づくりに取り組もうと思う】



【がん検診を受けられる年齢になったら、検診を受けようと思う】



【がんと健康について、まずは身近な家族から語ろうと思う】



3. 今後の課題及びその取組の方向性（今回の事業により新たに見えた課題など）

令和元年度に国費を活用して開催したがん教育推進協議会において、外部講師の確保及び講師依頼体制について協議し協力を仰いだことで、医療関係者の外部講師リストを作成することができた。また、学校と外部講師の連携についても検討し、体制整備ができた。さらには、同会で協議し作成した県独自の指導資料及び各校種別の指導教材を、令和2年度に県費で製本し、令和2年5月に各校へ配付した。

令和2年度は、これらの成果物や国費により行っているがん教育推進協議会での協議、研修会の開催等により、令和元年度の課題であった、教職員のがん教育への意識や指導力の向上に継続的に取り組んでいる。また、外部講師の確保、取組状況の地域差の解消という課題に対しては、県費によりがん教育外部講師派遣事業を実施し、外部講師による授業を希望する学校全てに、希望する内容に応じた外部講師を派遣し、がん教育への理解を深め継続的な実施が定着していくように取り組んでいる。

今後の課題としては、成果物の活用や研修会の開催を通して、どの学校でも学習指導要領に示されている内容について過不足なく指導を行うことができる教職員の指導力の向上があげられる。外部講師を活用した指導と教員による指導のバランスを図りながら、各校で行われるがん教育の質の向上を目指していきたい。

4. モデル校以外での取組について（課題や今後整理すべき事項など）

外部講師によるがん教育を希望する学校においては、どの学校も事前事後アンケートの活用や打合せ資料の作成に取り組んでいるが、外部講師との打合せで学校が希望する授業内容を十分伝えきれていない場合や外部講師に依頼したい内容を具体的に考えることができていない場合があり、外部講師による授業の効果的な活用にまで至っていない場合が見受けられる。今後は、①学校が主体となって運営すること、②外部講師による授業により明確なねらいを持つこと、③学校が希望する内容に迫る授業を依頼できる外部講師の確保、に取り組んでいく必要がある。

また、外部講師を活用していない学校においても、がんに関する正しい知識を指導できるように、教材や指導資料の作成・配布を行ったので、その活用状況やがん教育実施状況・児童生徒の反応等も整理していく。

1. 事業の具体的内容について

(1) 自治体における取組

① 協議会について

1. 令和元年度福岡県がん教育推進委員 構成員

県医師会の医師 1 人、大学教授 2 人（がん専門医師 1 人含む）、保健所長（保健監） 1 人、県保健医療介護部がん感染症疾病対策課 1 人、がん患者団体代表 1 人、県小学校体育研究会会長（学校長） 1 人、県中学校保健体育研究会会長（学校長） 1 人、県高等学校保健体育研究部会会長（学校長） 1 人、県高校教育課指導主事 1 人、県義務教育課指導主事 1 人、教育事務所指導主事 2 人、事務局（体育スポーツ健康課） 5 人

2. 検討時期、内容

第 1 回協議会：6 月 6 日（木）

- 【説明】 ・平成 26 年度から平成 30 年度の取組及び令和元年度の事業について
・がん教育推進委員会について
- 【協議】 ・がん教育指導資料集の構成について
・外部講師依頼先のリスト作成について

第 2 回協議会：1 月 22 日（水）

- 【報告】 ・がん教育指導資料作成委員会について
・外部講師派遣事業について
- 【協議】 ・「福岡県がん教育指導資料集」について

② 教育委員会としての取組

1. がん教育指導資料作成委員会の設置（年 3 回開催）

新学習指導要領に対応したがん教育の取組を推進するための教師用指導資料の作成
（令和 2 年 2 月発行）

ア 構成員（内訳）

大学教授 1 人、教諭（小学校） 1 人、主幹教諭（中学校） 1 人、教諭（高等学校） 2 人、町教育委員会指導主事 1 人、教育事務所指導主事 1 人、県高校教育課指導主事 1 人、県義務教育課指導主事 1 人、事務局（体育スポーツ健康課） 4 人

イ 検討時期、内容

第 1 回作成委員会：9 月 10 日（火）

- 【説明】 ・福岡県がん教育推進事業について
・福岡県がん教育指導資料作成委員会について
- 【協議】 ・関係教科等の作成する指導資料の内容と形式等について

第2回作成委員会：10月16日（水）

- 【協議】 ・各教科等における本時展開例について
・「がん教育」の年間指導計画例について
・各校種における指導例について

第3回作成委員会：11月22日（金）

講師 日本女子体育大学 教授 助友 裕子 氏

- 【各教科等における本時展開例について】 ・道徳科、特別活動、家庭科について
【全体協議】 ・「がん教育」の年間指導計画例について
・各校種における指導例について
【各教科等における協議】 ・授業展開例作成について

2. 外部講師派遣事業

県立高等学校等へ外部講師を派遣し、がん教育を推進する。（10校へ派遣）

○福岡県立朝倉東高等学校

令和元年9月12日 特別活動 講師：がん経験者 第2学年（生徒180人・教職員14人）

＜がん教育の内容＞

- ・がんとはどのような病気か ・がんの予防 ・喫煙と飲酒について ・がんからの贈り物

○福岡県立ありあけ新世高等学校 定時制課程第1～4年学年（生徒31人・教職員14人）

令和元年9月20日 特別活動 講師：薬剤師

＜がん教育の内容＞

- ・がんとはどのような病気か ・我が国におけるがんの現状 ・がんの治療法 ・がんの予防
・がんの検診と早期発見 ・がんの治療における緩和ケア ・がん患者への理解と共生

○福岡県立香椎工業高等学校

令和元年11月20日 特別活動 講師：医師 全学年（生徒790人・保護者2人・教職員60人）

＜がん教育の内容＞

- ・我が国におけるがんの現状 ・がんの発症と進行について ・がん患者と共に生きる家族

○福岡県立福岡講倫館高等学校

令和元年11月21日 看護（人体と看護） 講師：がん経験者 第3学年（生徒22人・教職員1人）

＜がん教育の内容＞

- ・がんのメカニズム ・がんの予防 ・生活習慣病の予防
・将来医療関係者を目指す生徒へのメッセージ ・いのちの大切さ

○福岡県立田川高等学校

令和元年12月11日 教職員研修 講師：がん経験者 （教職員30人）

＜がん教育の内容＞

- ・がんに関する情報 ・がん教育の指導内容 ・配慮事項

○福岡県立若松商業高等学校

令和元年12月12日 特別活動 講師：薬剤師 3学年（生徒26人・教職員1人）

＜がん教育の内容＞

- ・がんとはどのような病気か ・我が国におけるがんの現状 ・がんの治療法
・がんの早期発見 ・がんの種類とその経過
・がん患者への理解と共生 ・がんの予防（がん以外の病気の予防も含む）

○福岡県立東筑高等学校

令和2年1月23日 特別活動 講師：がん経験者 2学年（生徒103名・教職員8名）

＜がん教育の内容＞

- ・がんに関する科学的知識（がんの成り立ち、治療法、予防）
- ・がん患者の経験及び闘病経験から感じたこと

○福岡県立太宰府高等学校

令和2年1月28日 特別活動 講師：がん経験者 3学年（生徒280名・教職員20名）

＜がん教育の内容＞

- ・がんに関する科学的知識（がんができる仕組み、日本における罹患率・早期発見、早期治療の重要性）
- ・がん経験者による「命・時間・人のあたたかさ」の大切さについて

○福岡県立ひびき高等学校

令和2年1月30日 保健体育科 特別活動（ホームルーム活動）

講師：看護師・がん経験者1・2学年（生徒69名・教職員14名）

＜がん教育の内容＞

- ・がんとはどのような病気か ・がん発症の仕組み ・がんの治療についての基礎知識
- ・実体験を踏まえた命、時間、人の温かみの大切さについて

○福岡県立香椎高等学校

令和2年2月13日 特別活動（学校行事） 講師：医師 3学年（生徒124名・教職員12名）

＜がん教育の内容＞

- ・がんに関する科学的知識（日本におけるがんの発生率・早期発見の重要性）

3. がん教育に関する研修会の実施

○福岡県立高等学校保健体育科主任会での周知：5月8日

県立学校等の保健体育科主任を対象に、がん教育の説明を行うとともに、がん教育指導資料等の活用を促した。【参加人数：124名】

○県立学校等保健主事研修会での周知：5月14日

県立学校等の保健主事を対象に、がん教育の説明を行うとともに、がん教育指導資料等の活用を促した。【参加人数：148名】

○外部講師研修会：12月11日

がん経験者等の外部講師を対象に、がん教育の目標や内容、実施する上での留意点などの講話を行った。【参加人数：8名】

③ 保健部局や地域の専門機関等との連携

県保健医療介護部がん感染症疾病対策課が平成30年度から実施している、公立中学校への外部講師派遣事業を含む「がん教育を通じた大切なひとからのメッセージカードによるがん検診受診勧奨事業」に向けて、協議や助言を通して連携を図った。

2. 事業の達成度について

<成果>

1 がん教育推進委員会

成果：がん教育指導資料集について様々な立場の委員から意見をいただき、資料集に反映することができた。また、外部講師依頼先のリスト作成に向けて検討することができた。

2 教師用指導資料の作成

成果：新学習指導要領に対応した、体育科・保健体育科をはじめ、道徳科、家庭科、特別活動の指導資料や各校種の年間指導計画例等の資料を作成することができた。また、福岡県 HP にも作成した資料を掲載し、活用を促すことができた。

3 外部講師派遣事業

成果：実施校（県立高等学校 10 校）において、医師や薬剤師及びがん経験者等による授業や講演を通して、正しい知識や健康・命の大切さ、がん経験者等に対する正しい認識を持たせることができた。



3. 今後の課題及びその取組の方向性（今回の事業により新たに見えた課題など）

<令和元年度の実践から>

- ・令和元年度に作成し各学校に配布した「福岡県がん教育指導資料集」を周知するとともにその活用を促す。
→年間指導計画に基づき、体育科・保健体育科の内容と他の教科の内容とを関連付けて行うなど、教育内容の充実を図る。
- ・外部講師の活用の割合が低かったため、外部講師の積極的活用を促す。
→様々な研修会において具体的な活用例を校種ごとに示すなどし、がん教育において外部講師を活用することの有効性について周知するとともに、積極的な活用を促していく。
また、令和元年度は本事業における外部講師派遣の対象が県立学校であったため、高等学校での実施のみであったが、対象を小学校にも拡げて実施し、充実を図る。
さらに、外部講師の派遣体制の整備について九州各県に行った聞き取りの結果を参考に、関係機関との連携や外部講師のリスト化に向けた検討を行う。

<令和2年度の取組>

令和2年度も引き続き「がん教育総合支援事業」を受託し、上記の課題について解決に向けての方策を示すために、下記を実施する。

- ・がん教育推進委員会の設置（年2回開催）
- ・外部講師派遣事業の対象を33校に拡大（小学校16校、県立学校17校）
- ・教職員等を対象とした研修会の実施

※ 上記の内容について取組予定であったが、新型コロナウイルス感染症感染拡大の影響により中止となった。

1. 事業の具体的内容について

(1) 自治体における取組

① 協議会について

1. 構成員

全13名

がんの専門医、医師（佐賀県医師会）、佐賀県PTA連合会事務局長、NPO法人事務局長（がん患者サポート団体）、大学教授、がん患者会代表、健康増進課がん対策推進担当、推進校高等学校校長、推進校中学校長、推進校小学校長、推進校管轄教育委員会指導主事、保健体育課長

2. 開催時期、検討内容

【第1回】令和元年7月3日（水）

協議内容

- 令和元年度 がん教育に関する計画(案)について
- 各推進校の「がん教育総合支援事業に関する推進計画」について

【第2回】令和2年1月23日（木）

協議内容

- 令和元年度がん教育総合支援事業報告について
- がん教育の推進校の実践報告
- 事業の取組評価
 - ・発達段階や学校の実情に応じた内容の検討について
 - ・取組の継続について
 - ・がん教育の外部講師について（人員確保、予算化）
 - ・がん教育の教材について

② 教育委員会としての取組

県教育委員会では、がんに対する正しい理解とがん患者に対する正しい認識及び命の大切さについて考える態度の深化を図ることを目的として、「がん教育に関する計画」を策定し、がん教育を推進している。

令和元年度においては、モデル的な取組を行う推進校として、みやき町立三根東小学校、神崎市立神崎中学校、佐賀県立神埼清明高等学校を指定し、教材、学習指導案等の作成及び授業の実践、公開を行うことで、県内学校におけるがん教育の推進を図った。

また、がん教育指導者研修会として、推進校の授業を教職員や外部講師が参観することで、教職員や外部講師の資質の向上を図った。

さらに、これまでの推進校4校に外部講師派遣を行い、生徒を対象とした講演会等を実施する等して、継続したがん教育の推進を行った。

③ 保健部局や地域の専門機関等との連携

- 推進校において開催した講演会では、がん教育に関する協議会委員である佐賀女子短期大学地域みらい学科准教授 白濱洋子氏、がん診療連携拠点病院の佐賀県医療センター好生館がん相談支援センター認定がん専門相談員 大石美穂氏に講話をしていただいた。
- 外部講師については、がん診療連携拠点病院や NPO 法人と連携し、がんの専門医やがん経験者による講話を行うなど、授業において活用することができた。また、がん教育に関する協議会委員の協力を得て、がんの専門医や地域のがん体験者等の外部講師を推進校にスムーズに派遣することができた。
- がん対策 N P O クレブスサポート主催のがん教育支援員養成講座（がん体験者及びその家族、がん教育に関心のある方対象）において、県教育委員会より佐賀県におけるがん教育の取組について説明を行った。

(2) モデル校における取組

◎印は外部講師を活用した授業、※太字は公開授業

① 小学校の取組

みやき町立三根東小学校

みやき町立三根東小学校においては、「健康と命の大切さに対する理解を深め、心身の健康の保持増進に積極的に取り組む児童の育成」をテーマに、がんの原因になる生活習慣病予防を視野に入れた「健康教育」の授業実践を行った。

【特別活動】

- ・「熱中症から身を守ろう」 対象学年：4年・・・1時間
- ・「かむとよいこといっぱい」 対象学年：2年・・・1時間
- ・「健康と生活について考えよう」 対象学年：5年・・・1時間

【道徳】

- ・「命について考える日」 対象学年：全学年

◎講演会「こども達の心とからだ、今と未来をつなぐ健康教育を考える～がん教育を通して～」

対象：教職員 講師：佐賀女子短期大学准教授



② 中学校の取組

神埼市立神埼中学校

神埼市立神埼中学校においては、「がんの予防と命の大切さを育む～生活習慣病の予防～」をテーマに、保健体育科の授業を中心に授業実践を行った。

【保健体育科】

- ・「運動・食生活・休養・睡眠と健康」 対象学年：3年・・・3時間
- ・「体の発育・発達、呼吸器・循環器の発達」 対象学年：1年・・・2時間
- ・「喫煙・飲酒・薬物乱用と健康」 対象学年：3年・・・4時間
- ・「生活習慣とその予防」 対象学年：2年・・・1時間

【道徳】

◎講演会「いのちの大切さ」 対象：生徒及び教職員 講師：がん患者遺族

※インフルエンザ流行のため中止



③高等学校の取組

佐賀県立神埼清明高等学校

佐賀県立神埼清明高等学校においては、「がんについて正しく理解し、がん患者の生活習慣や価値観を尊重する生徒の育成を図る」をテーマに、生活福祉系列を持つ総合学科の高等学校という特色を生かした授業実践を行った。

【福祉】

・「こころとからだの理解（食事に関すること）」 対象学年：生活福祉系列３年・・・２時間

・「こころとからだの理解（睡眠に関すること）」 対象学年：生活福祉系列３年・・・２時間

◎「こころとからだの理解（障害の理解）」 対象学年：生活福祉系列３年・・・２時間

講師：日本オストミー協会佐賀支部長

【訪問学習】

・佐賀県医療センター好生館訪問学習 対象学年：生活福祉系列３年・・・２時間

◎講演会「佐賀県のがんの要因及びがん患者への支援等について～あなたならなにができる～」

対象：全校生徒及び教職員

講師：佐賀県医療センター好生館認定がん専門相談員

◎講演会「がん患者への理解と共生等について」 対象：生活福祉系列３年

講師：佐賀県医療センター好生館認定がん専門相談員



2. 事業の達成度について

推進校では、各学校、学年の実態に合ったがん教育を実施し、児童生徒へがんやがん患者とその家族等に対する正しい理解へ向けて取り組んだ。授業づくりや教材等の作成については、事前にアンケートを取り、児童生徒のがんに対する疑問や考えを基に、授業を組み立て、文部科学省の教材を効果的に取り入れた。児童生徒向けのアンケートの「がんの治療方法はいくつかあるが、医師が決めるものである」の項目では、事前は、「思わない」「どちらかといえばそう思わない」が３７．３％だったが、事後は５７．２％に増加していた。また、「がんになっても生活の質を高めることができる」の項目では、事前は、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」が４９．１％だったが、事後は６８．３％に増加しており、児童生徒が、がんに対する理解を深めたり、がん患者やその家族の意思決定や生き方について多角的に思考したりすることができた。

なお、がん教育の授業を体育科・保健体育科だけでなく、道徳や特別活動等でも取り組んだことで、横断的な授業展開や外部講師を活用した授業・講演を効果的に関連付けた、新学習指導要領に基づいたがんに関する教材や指導参考資料、年間カリキュラムの作成が行えた。

なお、がん教育指導者研修会について、各推進校での公開授業を参観し、自校でのがん教育に生かすことを研修内容としたことにより、公開授業に参加した多くの教職員に、各学校でのがん教育の授業形態や内容について示すことができ、がん教育の推進が図られた。

3. 今後の課題及びその取組の方向性（今回の事業により新たに見えた課題など）

教職員のがんの知識やがん教育に対する理解は、保健体育科の教諭等や養護教諭、管理職など、少しずつ普及できているものの、教職員全体には啓発できていない。教科横断的な取り組みを行うためには、がん教育担当教員だけではなく、全教職員のがんについて正しい理解を図ることや、がん教育を学校保健計画に確実に位置付けるよう指導するなど、がん教育を普及啓発していくことが必要である。そして、がん教育を病気に対する正しい知識や命の大切さの観点だけでなく、がん患者の家族等への配慮等の視点も取り入れたがん教育の取り組み方等も示していく必要がある。

令和2年度は、前年度に引き続き、県内にがん教育を普及するために、推進校3校を指定して各校の実情にあわせた取組を行うとともに推進校以外の学校にも外部講師（がん専門医、NPO法人、がん経験者、がん患者遺族）を派遣し、講話や授業等を行っており、令和2年度は取組を拡充し、県内の15校に外部講師24名を派遣している。外部講師を選定し、連絡調整をする際には、NPO法人やがん診療連携拠点病院等と連携をしながら進めている。学校と外部講師が事前の打ち合わせをすることで、内容や配慮事項等の確認ができるようにしている。現在は国費で行うことが出来ているが、県独自予算で行わなければならない場合の予算確保を今後考えていかなければならない。

4. モデル校以外での取組について（課題や今後整理すべき事項など）

（1）教職員の研修

教職員のがん教育に関する理解、がんについての基本的知識や情報収集に関して、保健部局や医療関係者の活用及び連携を求める必要がある。

（2）外部講師等の人材確保

県内の各学校での外部講師の活用を推進していくためには、外部講師の確保とともに外部講師のリスト化等の外部講師派遣体制の整備を進めていく必要がある。なお、講師の負担や旅費等の予算面を考えると、地域ごとのリストにしていくとより良いと考える。

また、医師や看護師等については、県内4つのがん診療連携拠点病院の協力を得て派遣を行う体制を作っていく必要がある。

1. 事業の具体的内容について

(1) 自治体における取組

① 協議会について

1. 構成員

全員で14人

内訳

県医師会1人、大学教授2人、がん患者支援団体1人、PTA1人、校長2人、保健主事1人、
養護教諭2人、市教委1人、県衛生主管部局2人、県教委1人

2. 開催時期、検討内容

○第1回

- ・7月9日
- ・がん教育の推進に向けた計画の検討等
- ・がん教育普及推進協議会の設置及び開催、がん教育指導者研修会の実施、外部講師によるがんに関する講演会及び研修会の実施、先進的な取組事例の周知、がん教育指導者リストの作成等

○第2回

- ・1月30日
- ・今年度の事業報告、次年度事業計画の検討等

② 教育委員会としての取組

- ・がん教育推進の中心を担う管理職や保健主事及び養護教諭等の学校職員、外部講師となりうる保健所職員やがん患者支援団体を対象にがん教育指導者研修会を実施した。
- ・希望する学校へ外部講師を派遣し、地域のがん教育推進校として講演会等を実施した。
- ・地域内で連携してがん教育を推進することや外部講師を活用することについて、取組を始めるきっかけとなるよう、がん教育への取組が進んでいない地域にがん専門医を派遣し、がん教育推進の中心を担う保健主事や養護教諭に対して研修会を開催した。
- ・各学校における実践の参考となるよう、研修会において先進的な取組の事例発表を実施した。

③ 保健部局や地域の専門機関等との連携

- ・保健部局と連携し、外部講師リストの作成を進めた。
- ・学校に対する外部講師の派遣については、県教育委員会で希望をとりまとめ、講師の依頼調整は関係機関にお願いするようになっている。
- ・保健部局については、「がん診療連携拠点病院」からの外部講師（がん専門医、看護師等）の依頼について担当している。
- ・県医師会には講師の派遣を依頼できる関係ができています。
- ・がん患者支援団体とは情報交換が進み、講師の依頼ができる準備ができつつある。
- ・保健所からは研修会の参加者が増えてきているが、講師の依頼まではまだできていない。

(2) モデル校における取組

○雲仙市立愛野中学校

- ・ 外部講師による講演会の実施
- ・ 授業時数 4 時間
(アンケートは、別に短学活を 2 回利用し約 20 分)
- ・ 教科：保健体育
- ・ テーマ「中学校におけるがん教育について」

○雲仙市立吾妻中学校

- ・ 外部講師による講演会の実施
- ・ 授業時数 4 時間
- ・ 教科：保健体育 3 時間、特別活動 1 時間
- ・ テーマ「いのちの授業」～ちがいについて考える～

○雲仙市立小浜中学校

- ・ 外部講師による講演会の実施
- ・ 授業時数 2 時間
(アンケートは、別に短学活を 2 回利用し約 20 分)
- ・ 教科：特別活動
- ・ テーマ「がん」について考える



上記 3 校については、同じ小児科医を講師として派遣し、「がん」を知ることを通じて「違いを認め合うこと」や「命の大切さ」について、生徒、雲仙市内の教職員、保護者を対象に講演会を実施した。

各学校とも、事前に、家族にがん患者がいる生徒や家族をがんで亡くした生徒、がん既往のある生徒などがある場合が想定されるので、生徒に不安感や不快感等を抱かせることがないように十分に配慮するとともに、保護者に対しては事前に講演会の開催について周知した。また、外部講師との打合せを十分に実施した。

生徒には事前と事後に、職員には事後にアンケートを実施した。



○長崎市立長崎商業高等学校

- ・ 外部講師による講演会の実施
- ・ 授業時数 3 時間
- ・ 教科 特別活動
- ・ テーマ「がんと生活習慣病」

緩和ケア専門医を講師として派遣し、高校生、教職員を対象に、「がんへの正しい理解とがん患者への理解」について講演会を実施した。

事前に、家族にがん患者がいる生徒や家族をがんで亡くした生徒、がん既往のある生徒などがある場合が想定されるので、生徒に不安感や不快感等を抱かせることがないように十分に配慮するとともに、保護者に対しては事前に講演会の開催について周知した。また、外部講師との打合せを十分に実施した。

生徒には事前と事後に、職員には事後にアンケートを実施した。

(3) その他

- ・ 特記事項なし。

2. 事業の達成度について

- ・協議会については、委員の64%（14人中9人）が「学校の取組に対し、協議会として十分な支援が行えた」と回答しており、その役割はおおむね達成できた。
- ・がん教育指導者研修会については、2回実施したが、参加者の満足度は98.9%、99.8%であり、大きな成果があった。
- ・外部講師を派遣しての学校における講演会については、「がんの学習は、健康な生活を送るために必要だ」の問いに「そう思う」と答えた生徒が、実施前77.2%から実施後91.5%に増加した。「がんの学習は、健康な生活を送るために役立つ」の問いに「そう思う」と答えた生徒が、実施前77.1%から実施後90.9%に増加した。生徒の意識の改善が見られた。
- ・がん教育への取組が進んでいない地域にがん専門医を派遣し、がん教育推進の中心を担う保健主事や養護教諭に対して実施した研修会については、3市1県立学校において実施し、計103名の学校職員、2名の指導主事が参加した。報告書の中に「有用な情報を多くいただいた」、「正しい知識を持って取り組んでいくことの大切さを感じた」、「がん教育の充実につなげたい」などの記載が多く見られた。取組を始めるきっかけとなったことがうかがえた。

3. 今後の課題及びその取組の方向性（今回の事業により新たに見えた課題など）

- ・外部講師リストについては、令和元年度ではがん診療拠点病院のみのリストとなっているため、各学校や各市町教育委員会がより活用できるよう、令和2年度は県福祉保健部とさらに連携し、保健所やがん患者団体等のリスト作成に取り組む予定である。
- ・今後は、派遣を希望する学校等の数に対し、派遣する講師が不足することが予想される。各地域に一定の外部講師を派遣していくためには、各市町教育委員会や地域の学校保健会、医師会等と連携した取組を推進していく必要がある。
- ・令和元年度の協議会において、外部講師派遣については、対象を教職員なのか児童生徒なのか絞り込む必要があるとの意見が出ていた。令和2年度は、児童生徒を対象とし、県内で10校を基本に、公立の小中学校については、概ね3年間で各郡市1校以上に、県立の中学校・高等学校・特別支援学校については、大きく2つのグループに分け、各グループに年1校派遣できるよう計画している。

4. モデル校以外での取組について（課題や今後整理すべき事項など）

- ・保健体育科の授業の中でがんについて取り扱うことになっていることから、まずは保健体育科教員が、がんについての知見を広げる必要がある。令和元年度のがん教育指導者研修会の参加者は養護教諭や保健主事の参加がほとんどであったので、保健体育科教員の参加を増やすための取組が必要。
- ・令和元年度に、がん教育への取組が進んでいない地域にがん専門医を派遣し、がん教育推進の中心を担う保健主事や養護教諭に対して研修会を開催したが、参加した学校から、少しずつ取組が展開されていくよう働きかけたい。
- ・本来ならば、モデル校での取組をその地域で公開・共有することを原則としているが、令和2年度については新型コロナウイルス感染症の影響により難しい状況である。各学校における実践の参考となるよう、研修会やホームページ等において先進的な取組を紹介していく。

1. 事業の具体的内容について

(1) 自治体における取組

① 協議会について

1. 構成員

＜記載例＞ 全員で21人（構成員の内訳を記載）

- ・大分大学医学部小児科学講座 教授 末延 聡一氏
- ・大分こども病院 院長 藤本 保氏
- ・大分県薬剤師会 副会長 原尻 みどり氏
- ・リレー・フォー・ライフ・ジャパン大分 実行委員 山本克枝氏
- ・大分県PTA連合会副会長 赤嶺 慎太郎氏
- ・大分県小学校校長会 会長 板井 一哲氏
- ・大分県立学校長協会 代表 三代 順一氏
- ・大分県中学校保健体育研究会 代表 長野 由香里氏
- ・大分県高等学校保健体育研究会 代表 福浦 孝二氏
- ・大分県豊後大野市立清川小学校（実践校）校長 原尻 喜夫氏
- ・大分県杵築市立山香中学校（実践校）教諭 宮本 浩一氏
- ・大分県立情報科学高等学校（実践校）教諭 手嶋 貴博氏
- ・大分県学校保健会養護教諭部会部 会長 中村 みどり氏
- ・大分県高等学校教育研究会養護教諭部会 副部会長 甲斐 浩子氏
- ・大分県教育庁義務教育課 指導主事 佐田 香織氏
- ・大分県教育庁高校教育課 指導主事 矢田 幸恵氏
- ・大分県生活環境部私学振興・青少年課 代表 染谷 哲郎氏
- ・大分市教育委員会体育保健課 次長兼課長 西川 幸宏氏
- ・大分県市町村保健活動研究協議会 教育担当理事 多賀野 小津枝氏
- ・大分県福祉保健部参事監兼健康づくり支援課 課長 藤内 修二氏
- ・大分県教育庁体育保健課 課長 加藤 寛章氏

2. 開催時期、検討内容

【第1回協議会】

- ・日 程 9月13日
- ・出席者 18名
- ・内 容 がん教育の推進に向けた計画の検討、大分県版実践事例集の作成について協議、外部講師リ
ストの作成に向けての報告

【第2回協議会】

- ・日 程 2月12日
- ・出席者 20名
- ・内 容 実践校における報告と次年度の計画について協議、大分県版学校における外部講師活用ガイ
ドラインについて協議

② 教育委員会としての取組

がん教育研修会（教職員対象研修会）

- ・日 程 11月7日（木）
- ・内 容 「学校におけるがん教育の進め方」
- ・講 師 東海大学体育学部 教授 森 良一氏
- ・参加者 県内小・中・高等学校の教職員、教育委員会指導主事等 72名

がん教育研修会（外部講師対象研修会）

- ・日 程 1月18日（土）
- ・内 容 「学校におけるがん教育」
- ・講 師 東京女子医科大学 がんセンター長 化学療法・緩和ケア科 教授 林 和彦氏
- ・参加者 医師、看護師等医療従事者、社会福祉士、がん経験者、学校関係者等 61名

③ 保健部局や地域の専門機関等との連携

- ・外部講師リスト作成にあたり、大分県医師会、大分県薬剤師会、大分県看護協会、福祉保健部局等と連携を図り、がん診療拠点病院・協力病院を中心として外部講師リストへの登録を依頼、県内全域をカバーできるリストが作成することができた。

（2）モデル校における取組内容

実践校3校

①大分県豊後大野市立清川小学校

実践校教職員研修会

- ・日程 7月22日（月）
- ・内容 「がん教育の進め方」
- ・講師 福岡県立大学看護学部 教授 松浦 賢長氏
- ・参加者 大分県豊後大野市立清川小学校教職員



児童対象講演会

- ・日程 10月18日（金）
- ・テーマ：『いのちがうまれる・いのちをいただく』
- ・講師 畜産農家 武藤さゆり氏
- ・対象 1～3年生

- ・日程 10月18日（金）
- ・テーマ：『がん教育～がん患者の方々との出会いを通して～』
- ・講師 がん認定看護師 別府医療センター 吉村 幸永氏
- ・対象 4～6年生



がん教育に関する授業

- ・テーマ：『その思いをうけついで』：生命の尊さ（6年道徳科）
- ・授業時数：1時間

②大分県杵築市立山香中学校

実践校教職員研修会

- ・日程 8月20日(火)
- ・内容 「がん教育の進め方」
- ・講師 福岡県立大学看護学部 教授 松浦 賢長氏
- ・参加者 大分県杵築市立山香中学校教職員

生徒対象講演会

- ・日程 12月12日(木)
- ・テーマ:『がん教育』
- ・講師 杵築市立山香病院 副院長 石尾 哲也氏
- ・対象 3年生



③大分県立情報科学高等学校

実践校生徒教職員対象講演会

- ・日程 12月13日(金)
- ・テーマ 「がん教育講話」
- ・講師 ライフクリエイト研究所 鈴木 中人 氏
- ・対象者 大分県情報科学高等学校全校生徒、全教職員



2. 事業の達成度について

がん教育実践校の取組

・教職員研修

教職員研修会を実施することで、学校でがん教育を進めるにあたり。その意義や考え方を理解することができ、教職員の意識と意欲が向上した。実践校での既存の取組と関連させ、児童生徒の深い学びにつなげていく課題が明確になった。

・生徒対象講演会

がんの治療に従事されている医師から話を聴くことができ、がんに対する正しい知識を学び、がん検診をきちんと受けること、早期発見と早期治療の大切さに気付くことができた。家族にがん検診の受診を呼びかけたいという生徒の感想がとても多くあった。

娘さんを小児がんで亡くされた講師の話から、近親者が「がん」や他の病気等で亡くなったりしたことを思い出した生徒が多くいたが、命の大切さ、家族への思い、他人の命、関わる人全ての人に対する感謝、生きていることへの感謝を感じているという感想が多くあった。また、「がん」についてもっと知りたいという意見も多く見られた。

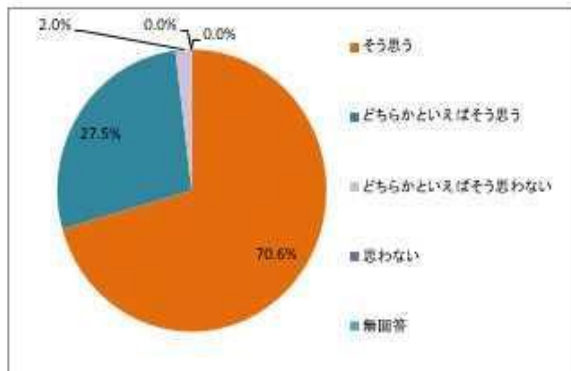
・外部講師リスト

2年間の取組により、県内全域をカバーできる外部講師のリストができた。今後も協力していただける方への周知と依頼を継続していく。

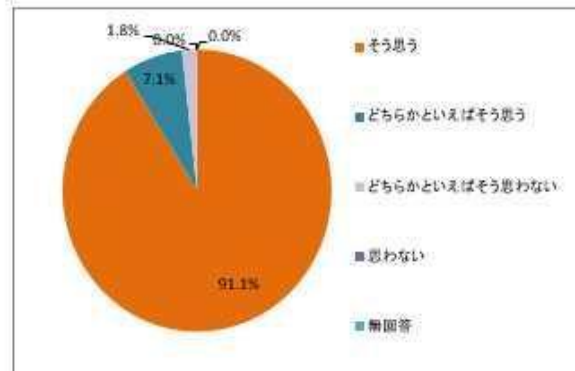
・講演会におけるがん教育

生徒に対するアンケート結果（抜粋）

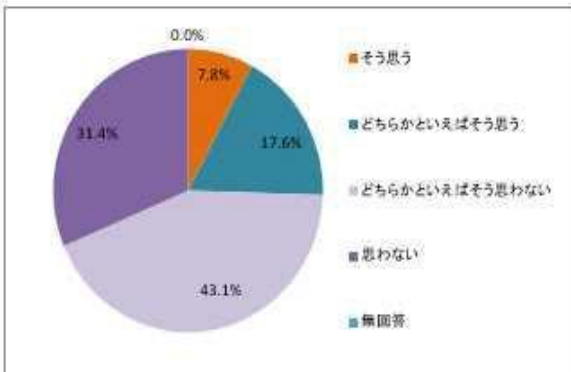
a がんの学習は、健康な生活を送るために重要だ（事業実施前）



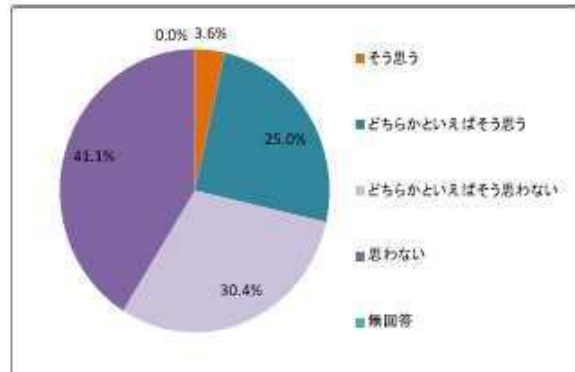
a がんの学習は、健康な生活を送るために重要だ（事業実施後）



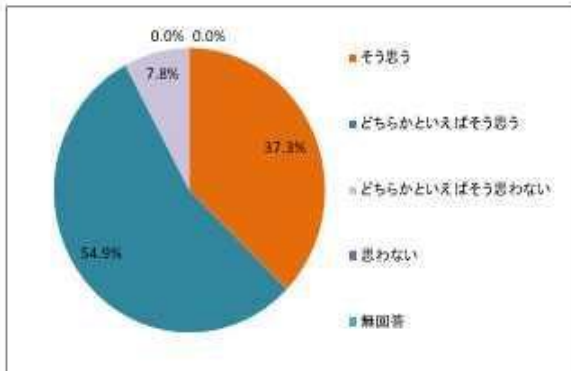
a 自分はがんにならないと思う（事業実施前）



a 自分はがんにならないと思う（事業実施後）



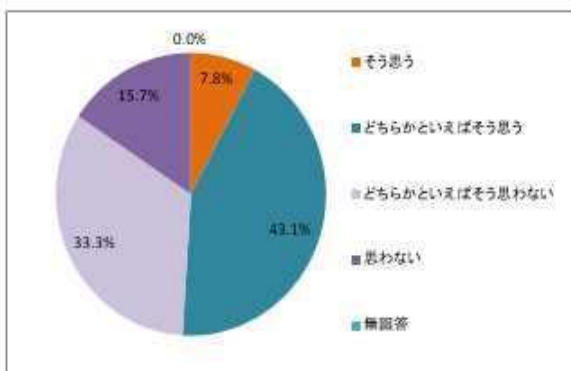
c 日頃から、バランスの良い食事や適度に運動を行うなど健康な体づくりに取り組もうと思う（事業実施前）



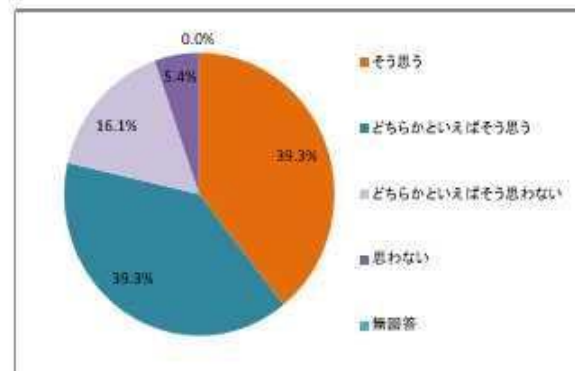
c 日頃から、バランスの良い食事や適度に運動を行うなど健康な体づくりに取り組もうと思う（事業実施後）



f がんになっても生活の質を高めることができる（事業実施前）



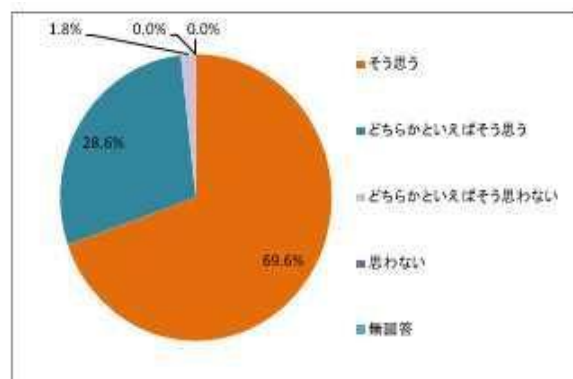
f がんになっても生活の質を高めることができる（事業実施後）



h がんと健康について、まずは身近な家族から語ろうと思う（事業実施前）



h がんと健康について、まずは身近な家族から語ろうと思う（事業実施後）



- ・生徒のアンケート結果から、「生活習慣への注意」「定期的ながん検診の受診」についての肯定的な回答の増加が見られ、がんに対する正しい理解や命の大切さに対する理解を深め、生活習慣の大切さの認識を改めることや身近な人との対話につなげたいという思いをうかがえた。

3. 今後の課題（今回の事業により新たに見えた課題など）

- ・事業2年目となり今年度は実践校2校（小学校、中学校）の取組がスタートし、小学校・中学校・高等学校の取組がどう関連し、系統性を想起できる学びのモデルとなるかが今後の課題の1つである。
- ・外部講師のリストはできたが、ほとんどの方は外部講師としての経験がない状態であることがわかった。今後も外部講師になっていただける方を対象とした研修を継続していく必要がある。
- ・次年度は実践校の取組の最終年度となる予定であり、県内全域の教職員を対象としたがん教育教職員研修会で実践報告をする計画となっている。また、次年度の取組までをまとめ、各校種の参考となる実践事例集を作成し、普及啓発に務めていく。

4. モデル校以外での取組について（課題や今後整理すべき事項など）

- ・県全体のアンケート結果から、がん教育に取組んだ学校は県内の半数近くだが、外部講師の活用が進んでいない現状があった。外部講師活用に向けた周知と取組例を提示していく必要がある。

1. 事業の具体的内容について

(1) 自治体における取組

① 協議会について

1 構成員

ア 委員：14人

【内訳】

医師(がん専門医)1人(内科)1人, 保健所長1人, NPO法人(がん経験者)1人, 実践校(学校長, 教諭)2人, 養護教諭代表2人, 県保健福祉部健康増進課係長1人, 関係市教育委員会指導主事1人, 県教育庁義務教育課指導主事1人, 人権同和教育課指導主事1人, 保健体育課長1人, 保健体育課指導主事1人

イ 事務局：5人

【内訳】

健康教育係長1人, 健康教育係指導主事4人

2 開催時期、検討内容

ア 第1回鹿児島県「がん教育総合支援事業」連絡協議会(令和元年8月22日)

医療関係者, 学校関係者, その他行政関係者からなる連絡協議会を設置し, 県内の実情を踏まえ, がん教育の推進を図るため, モデル校の「がん教育に関する計画」の作成に対し指導・助言を行った。

イ 第2回鹿児島県「がん教育総合支援事業」連絡協議会(令和2年1月30日)

実践校における授業実践や今後の進め方について助言した。また, 生徒や職員に実施した事前, 事後アンケートから成果と課題を検証した。

② 教育委員会としての取組

1 「がん教育総合支援事業」連絡協議会(以下「連絡協議会」とする。)の開催

医療関係者, 学校関係者, その他行政関係者からなる連絡協議会を設置し, 県内の実情を踏まえ, がん教育の推進を図るため, モデル校の「がん教育に関する計画」の作成に対し指導・助言を行った。

2 がん教育推進モデル校の指定

がん教育を推進するモデル校として, 枕崎市立立神中学校を指定し, がん教育を推進する取組を実施し, その成果や課題について検証した。

3 各種研修会の開催

○ 8月1日 モデル校の職員研修で, がん教育について説明
(講師: 保健体育課 担当指導主事)

○ 10月29日 モデル校においてがん教育授業研修会の開催
3年1組において, 外部講師を活用したがん教育の授業を行った。
(講師: NPO法人がんサポートかごしま三好氏, 野田氏)

○ 11月14日 モデル校においてがん教育講演会を開催
(講師: 県がん診療指定病院の院長奥村氏)

※ 参加者: 中学校全生徒, 保護者, 教職員, 地域住民, 学校医, 教育委員会職員等



モデル校職員研修

③ 保健部局や地域の専門機関等との連携

保健所長や県保健福祉部局の担当係長, がん経験者(NPO法人)を連絡協議会の委員として委嘱し, モデル校に対しアドバイスをいただくとともに, がん教育推進に当たっての配慮事項や外部講師のリスト化等の内容について検討を行った。

(2) モデル校における取組

○ 枕崎市立立神中学校

テーマ：自他の健康と命の大切さについて考え、生きる力を育むがん教育

【第3学年】

1 第1時授業実践（事前事業）

実施教科：保健体育科

授業者：担任、養護教諭

内 容：命の授業の事前学習として、がんについての基本理解を図るため、文部科学省教材を使って日本の現状やがんの発生と進行、予防や検診、患者の思いや共生について理解を図る授業を行った。



保健体育科の授業

2 第2時授業実践(外部講師を活用したモデル授業)

実施教科：道徳科

授業者：担任、外部講師（NPO法人講師）

内 容：がん患者として、自身の経験や最後までがんに向かい合い、命を燃やした方の事例をもとに、がんについて正しく理解するための知識理解と命の大切さや共生についての講話を行った。



道徳科の授業

3 がん教育講演会

参加者：中学校全生徒、保護者、教職員、地域住民、学校医、教育委員会職員等

講師：県がん診療指定病院の院長

内 容：「中学生からできるがん予防」というテーマで、がんについての基本的な知識をもとに、今後、自分たちができる予防法（生活習慣や検診等）について講演をいただいた。



がん教育講演会

(3) その他

がん教育総合支援事業をきっかけに、がんに関する掲示コーナーの設置や図書の整備等を行った。



保健室掲示



図書コーナー

【がん教育総合支援事業実施後の生徒の感想】

がんは、悪いイメージがあったけど、5年後には80%の人が治るということを聞いて、今は治る病気だということを知りました。また、がんができてから、がんが見つかるまでに30年～40年がかかるそうです。だから、今は健康に気をつけたいと思いました。今日は、たばこや飲酒、肥満ががんになる確率を高めるということを学びました。親にも伝えて、健康への意識を高めたいです。また、大人になったら健康診断をしっかり受けたいと思いました。

2. 事業の達成度について

【県連絡協議会】

- 連絡協議会では、医師、保健所長等の有識者による専門的立場からの助言をいただくことができた。また、NPO法人理事長からは、がん経験者の視点から貴重な意見等をいただくとともに、命の授業に関する様々な情報提供がなされ、事業推進の一助となった。

【県教育委員会】

- モデル校の事前授業の前に、職員研修を実施したことで、がん教育推進に向け教職員の意識を喚起することができた。
- モデル校の取組をまとめ、がん教育の内容や進め方などをホームページで公開することで、各学校に広めることができた。

【モデル校】

- 生徒のアンケートから

Q1-a がんの学習は健康な生活を送るために重要だ

(事業実施前) (単位：人)		(事業実施後) (単位：人)	
そう思う	73	そう思う	95
どちらかといえばそう思う	26	どちらかといえばそう思う	8
どちらかといえばそう思わない	3	どちらかといえばそう思わない	0
思わない	5	思わない	0
無回答	0	無回答	0

Q1-b がんの学習は健康な生活を送るために役に立つ

(事業実施前) (単位：人)		(事業実施後) (単位：人)	
そう思う	71	そう思う	91
どちらかといえばそう思う	31	どちらかといえばそう思う	12
どちらかといえばそう思わない	3	どちらかといえばそう思わない	0
思わない	2	思わない	0
無回答	0	無回答	0

- がん教育について保健体育科学習や道徳科学習、教育講演会等と関連付けながら実施したことで、「がん」への理解が深まり、生徒の意識の変容につながった。

3. 今後の課題及びその取組の方向性（今回の事業により新たに見えた課題など）

- 学校医をはじめとする医師や看護師、がん経験者等の外部講師との連携の在り方（学習内容の検討、人材確保等）とネットワークの構築
- 各種会議や研修会、広報誌、ホームページ等を活用した「がん教育」に対する普及・啓発の在り方
- 新規の外部講師の発掘、外部講師のリスト化

4. モデル校以外での取組について（課題や今後整理すべき事項など）

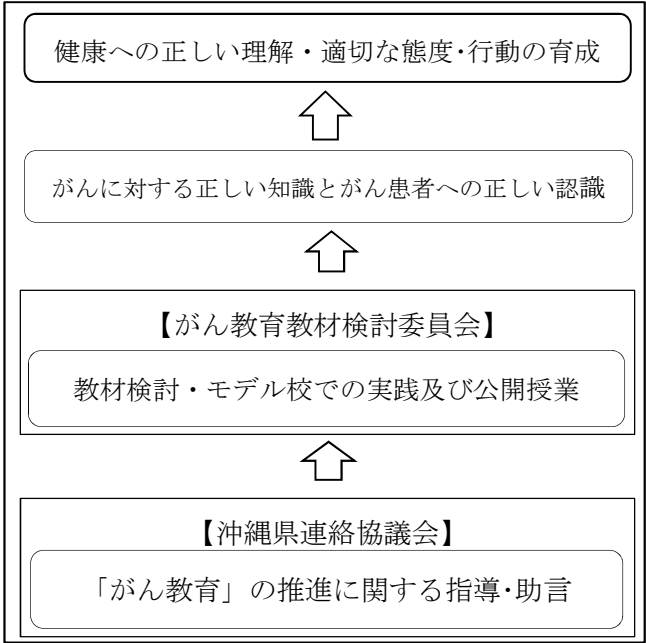
- 外部講師との事前打合せの時間確保
配慮すべき生徒の情報や事前の学習状況等については、講師と学校間でさらに細かい打合せの時間確保が必要である。
- 教職員の意識改革の場の設定
職員研修等で、がん教育推進の必要性や意義を伝えると、とても意欲的に参画するので、県が教職員への意識改革の場を広く設定する必要がある。
- 学習した生徒が、保護者のがん予防意識向上へ
がんについて学習した生徒が、家庭で話題にすることで、検診受診を含めたがん予防について、保護者の意識向上につながるような指導を目指す必要がある。

1. 事業の具体的内容について

- (1) 自治体における取組
① 協議会について

1. 構成員

全員で13人
〈内訳〉
医師2人（腫瘍内科1人、内科（学校担当）1人）
県保健医療部1人
県がん患者会1人
保健体育教諭2人（中学1人、高等学校1人）
校長2人（中学1人、高等学校1人）
県総合教育センター2人
県教育委員会3人



2. 開催時期、検討内容

月 日	検 討 内 容
第1回沖縄県連絡協議会 令和元年7月26日金曜日	1. 「沖縄県連絡協議会設置要綱」について 2. 沖縄県における「がん教育」の現状について (1) 県内でのがん教育に関する動向 (2) がん教育の実施状況（H29年度調査）より現状と課題 ①実施状況 ②実施しない理由 ③実施方法 ④外部講師活用 ⑤外部講師活用の課題 ⑥外部講師活用で効果的だったと思ったこと 3. がん対策に関する沖縄県の状況 ①受診率 ②精検査率 ③男女別の罹患率 ④他国との受診率の比較 4. 事業計画について (1) 趣旨 (2) 計画の期間 (3) 計画の体制 (4) 目標 ①県内の学校におけるがん教育実施率の向上 ②教職員・関係者等へのがん教育の普及・啓発 ③県の推奨するがん教育教材の作成

第2回沖縄県連絡協議会
令和2年1月22日金曜日

1. 令和元年度事業報告
 - (1) 連絡協議会について
 - (2) がん教育研修会について (3 地区)
 - ・八重山地区・・・令和元年 8 月 20 日 (火)
 - ・宮古地区・・・令和元年 8 月 27 日 (火)
 - ・本島地区・・・令和元年 10 月 30 日 (水)
 - (3) 教材検討委員会について (年 3 回)
 - ・第 1 回がん教育教材検討委員会・・・令和元年 8 月 30 日 (金)
 - ・第 2 回がん教育教材検討委員会・・・令和元年 10 月 21 日 (月)
 - ・第 3 回がん教育教材検討委員会・・・令和元年 11 月 27 日 (水)
 - (4) モデル校による取り組みについて
2. 他機関との連携について
 - (1) 沖縄県学校保健会との連携
 - ・沖縄県学校体育研究発表大会での実践発表・授業研究
 - (2) 沖縄県がん診療連携協議会、同小児・AYA 部会への参加
 - (3) 文部科学省主催研修会への参加
3. 事業成果
 - (1) 「がん教育」研修会
 - (2) がん教材検討会について
 - (3) モデル校による取り組みについて
4. 課題
5. 令和2年度の事業計画について

② 教育委員会としての取組

【がん教育研修会の実施】

教職員、外部指導者を対象にした「がん教育研修会」を開催し、効果的ながん教育の在り方について研修を行った。

ア 日時及び会場

令和元年 8 月 20 日 (火) 13:30～ 八重山合同庁舎 5 階 参加者 31 名参加
令和元年 8 月 27 日 (火) 9:30～ 宮古教育事務所 5 階 参加者 21 名参加
令和元年 10 月 30 日 (水) 13:30～ 県立総合教育センター参加者 77 名参加

イ 対 象

小・中・県立学校の保健体育担当教諭、保健主事、その他の教職員
各市町村教育委員会担当主事、各教育事務所担当主事、医師、学校医、がん経験者等

ウ 内 容

(ア) 行政説明 県教育庁保健体育課

(イ) 講義 「学校におけるがん教育の実践」

ーヘルスプロモーション実践事例から学ぶー

講師 日本女子体育大学 体育学部スポーツ健康学科教授 助友 裕子 (医学博士)

【がん教育教材検討委員会 (年 3 回)】

がん教育教材の効果的な指導方法を検討し、指導参考資料の作成を行った。

ア 構成員 モデル校授業者、総合教育センター研究主事、中学校保健体育科教諭
高等学校保健体育科教諭、保健体育課指導主事

イ 日時及び場所

- ・第 1 回がん教育教材検討委員会 令和元年 8 月 30 日 (金) 県庁 4 階
- ・第 2 回がん教育教材検討委員会 令和元年 10 月 21 日 (月) 県庁 13 階
- ・第 3 回がん教育教材検討委員会 令和元年 11 月 27 日 (水) 南部合同庁舎

【モデル校による取り組み】

中学校、高等学校のモデル校において、「がん教育公開授業」を開催し効果的な指導方法の検討と授業モデルの普及、指導参考資料の作成を行った。

ア 県立向陽高等学校の取り組み

(ア) 事前事業 2 学年集会での「がん教育」

(イ) 公開授業 令和元年 11 月 13 日 (水)

○参加者 全校種教職員 (教諭、養護教諭、保健主事等) 23 名参加

○単 元 科目保健 第 1 学年 生活習慣病とその予防

(ウ) 事後事業 保健委員会による展示

イ 八重瀬町立具志頭中学校での取り組み

(ア) 公開授業 令和元年 12 月 18 日 (水)

○参加者 全校種教職員 (教諭、養護教諭、保健主事等) 29 名参加

○単 元 保健分野 第 3 学年「(4) 健康な生活と疾病の予防」

イ生活行動・生活習慣と健康

(イ) 準備検討会 令和元年 12 月 11 日 (水)

③ 保健部局や地域の専門機関等との連携

(1) 沖縄県学校体育研究発表大会でのがん教育の実践発表・授業研究

ア 日時 令和元年 11 月 29 日 (金)

イ 場所 県立八重山商工高校 石垣市立白保中学校

ウ 対象者 小学校教諭、中学校・高等学校保健体育課教諭

(2) 沖縄県がん診療連携協議会、同小児・AYA部会への参加

(3) 文科省主催研修会への参加

ア がん教育研修会

日時 令和元年 10 月 25 日 (金)

場所 京都府 京都ガーデンパレス

参加者 県立向陽高等学校、八重瀬町立具志頭中学校 保健体育教諭

(2) モデル校における取組

1 【向陽高校の取り組み】

(1) 事前調査等

配慮が必要な生徒に対する担任への事前調査

①家族の状況 ②生徒の状況 ③養護教諭との既往歴確認 ④奨学金係との情報共有

⑤教育相談係との情報共有 *上記 1～3 で名前が挙がってきた生徒に対する個別面談の実施

(2) 具体的な取り組み

学年集会での「がん学習会」の実施

① 実施日：令和元年 10 月 23 日 (水)

② 対象者：2 学年

③ 学習会の内容

ア がんについての基礎知識

イ がん患者との接し方を考える

ウ がん患者が暮らしやすい社会とは

④ 学習会の目標

ア がんを正しく理解する

イ がんと向き合う人々に対する共感的な理解を深める。

【生徒の感想】

- ・がん患者が暮らしやすい社会とは、「患者」ではなく「自分」自身でいられる場所を周りの人が作り、支えてあげること。
- ・がんについて正しい知識を持つこと、周囲の理解があり、がん治療に協力を得られると、暮らしやすい社会となると思う。
- ・生活習慣を見直そうと思いました。
- ・がん患者だった人がする会社の対応や、周りの人々の心遣いなどがもっと広がり、皆が助け合って暮らしていけるような社会になればよいと思います。

がん学習会の様子



- ・大人になったら定期検診を忘れず、生活習慣は今からでも考えようと思いました。
- ・私の父は検診が嫌いなので、父親に検診を受けたかどうか聞いてみようと思いました
- ・がんはとても身近な存在であると痛感した。がんと聞くと生活習慣病を疑ってしまうが、それが必ずしも当てはまるわけではないということを心に留めておきたい。
- ・がん患者が暮らしやすい社会にするために、今私ができることはがんについて知ることだと思う。あらゆる機会の中で理解を深めていきたい。

(3) 保健体育科授業実践

① がんについてのアンケート実施

実施日：令和元年 11 月（授業前）

② 患者の思いや願いを考える動画（文科省教材）視聴（公開授業前時）

【生徒の感想】

Qがん患者が暮らしやすい社会とはどのような社会だろうか。

- ・ みんなでがん患者を支えていける社会
- ・ がんについての情報がたくさんある社会
- ・ みんなが病気について理解してくれる社会
- ・ 周りの人ががん患者を見守る社会

Qそのような社会つくるために、あなたができることやあなたがすべきことはなんだろうか。

- ・ がん知識増やすこと
- ・ 自分自身の健康管理をする。
- ・ がん患者へのサポートや理解
- ・ 定期検診の呼びかけ

③ 公開授業 授業者：保健体育科教諭 前城 優子

ア 日時：令和元年 11 月 13 日（水）5 時間目

イ 対象：1 年 3 組 40 名（男子 22 名女子 18 名）

ウ 本時の学習目標

（ア）がんという病気を理解し、健康的な生活の実践を考える

エ 本時の内容

（ア）導入

- 授業のはじめに、身近な方が、がんにかかっていたり、がんで亡くなったりしている生徒への配慮の言葉かけをおこなう。
- 日本・沖縄のがんの現状
- がんについてのイメージ

（イ）展開

- がんの原因
- がん発生のしくみ
- がん検診の重要性
- がんの危険性を減らす生活習慣について考える
- がんの治療法

（ウ）まとめ

- がんを予防するために「今できること」と「大人になってからできること」は何だろう
- 本時の感想（考えたこと・疑問に思ったこと・今後調べてみたいことなど）

【生徒の感想】

- ・ がんは自分にも身近な病気です。今から予防をしっかりとやっていこうと思ったし、がんで家族を失わないためにも、今日学んだことを家族にも教えようと思いました。
- ・ がんは生活習慣だけでなく細菌やウイルス、遺伝でも起こりうるのだとわかった。
- ・ がんは 2 分の 1 の人がかかる身近な病気であるからこそ、がんについての知識を増やし、自分だけでなく家族や周りの人と共有していくことが大切だと感じた

ペアでの話し合いの様子



グループでの話し合いの様子



【生徒の疑問・今後調べたいこと】

- ・ 遺伝的要因について（多数）
- ・ 小児がんなどについて
- ・ がんの細かいしくみ
- ・ なぜ痩せすぎもがんの一因なのか
- ・ 電子たばこは大丈夫ってお父さんが言っているけど、本当に大丈夫なのか
- ・ がんはどのように進行するのか
- ・ がんがでにくい臓器やできる過程

（４）生徒保健委員会による壁新聞作成・掲示

- ① 作成期間：１月中旬～２月初旬
- ② 掲示期間：２月中旬～３月中旬
- ③ 掲示場所：向陽高校事務室前広場



【具志頭中学校の取り組み】

（１）事前調査（配慮が必要な生徒の調査）

- ①担任への確認（家族・生徒）
- ②養護教諭と既往歴の確認



（２）保健体育科授業実践

授業者：保健体育科教諭 山口 珠里

①がんについてのアンケートの実施

実施日：令和元年 12 月（授業前）

②公開授業

ア 日時：令和元年 12 月 18 日（水）

イ 対象：3 年 1.2 組 34 名（女子）

ウ 本時の学習目標

（ア）がんという病気の理解を深め、健康的な生活の実践につなげる。

エ 本時の内容

（ア）導入

a 授業はじめに、身近な方ががんにかかっている、亡くなったりしてつらい場合は、養護教諭も待機していることを伝える。

b 日本・沖縄のがんの現状

c がんについてのイメージ

（イ）展開

a がんの原因

b がんの発生のしくみ

c がん検診の重要性

d がんになる危険性を減らす生活習慣について

【生徒の感想】（今の自分にできること）

- ・時間がある時はダラダラしないで運動する！がんについて家族と話す。お菓子ばかり食べない。適度に体重計にのり、体重にのる（維持するため）
- ・生活習慣病にならないように、部活動を引退した私たちは食事のバランスや適度な運動、ストレスをためすぎないことが必要だと思いました。

・がん細胞を少しでも早期発見することで95%治るということ伝えたい。

・家族みんなで最適な生活リズムにする。そのためにみんなで協力！

・家族にがんの検診について話す。

（大人になってからできること）

・定期的ながん検診を受けて、少しでもがんになる可能性を減らす。

・早期発見・早期治療できるように検診に行く。

・一人暮らしとかする時に、偏った食事や運動不足にならないよう意識する。

・たばこは吸わない。お酒もなるべく飲まないようにする。

(ウ) まとめ

- a がんを予防するために「今できること」
「大人になってできること」はなんだろう
- b 「がんと共に生きる社会」について考える。

2. 事業の達成度について

学校におけるがん教育の充実を図るためには、がんに関する正しい知識と正しい認識、命の大切さについて正しく理解させ、深めることが必要であることから、医療関係者等を含めた「沖縄県連絡協議会」を設置し、「がん教育に関する計画」の作成等に対し、指導・助言を行うことで、学校におけるより効果的ながん教育の在り方について理解を深め、県内への啓発を図ることができた。

(1) 「がん教育」研修会

- ア がん教育に関する指導に携わる教職員のがんに対する正しい知識と意識の向上、及び学校におけるがん教育に関する指導の充実を図るための研修会を実施したことで、がん教育の必要性が理解され、実践事例や指導教材等の普及啓発ができた。
- イ 行政説明の中で、学校におけるがん教育に関する内容の位置づけについて説明し、学校におけるがん教育の具体的な方向性を示すことができた。
- ウ 日本女子体育大学教授 助友裕子教授による講義「学校におけるがん教育の実践－ヘルスプロモーション実践事例から学ぶ－」より学校におけるがん教育の考え方、進め方について理解を深める事ができた。

(2) がん教材検討会について

- ア 各校種、発達段階に応じた適切な指導の在り方について検討を重ね、新指導要領の全面実施に向けて、文科省作成の指導参考教材や県の推奨する健康副読本等を用いた、指導用参考資料を作成することができた。
- イ 新指導要領の全面実施に向けて、モデル校として保健体育の保健分野、科目保健として、実践の参考となる指導案、ワークシートの作成ができた。

(3) モデル校による取り組みについて

- ア アンケート結果より（次ページ参照）
生徒へのアンケート結果より、日本人の死因1位や、早期発見すれば治りやすいなどの正しい知識の定着が図られた。また健康な体づくりへの取り組みや、がん検診の受診、がんの治療法の決定、がん患者の生活の理解、家族との対話等の意識についても変容が見られた。逆にたばこを吸わないでいようとする意識に関しては変容がみられなかった。この結果についても、授業の課題と成果と捉えたい。
- イ 中学校においては保健分野での授業実践を行い、健康な生活と疾病の予防において、がんについて理解を深め、がんの治療、がん患者への認識についても学ぶことができた。
- ウ 高等学校においては、学年集会におけるがん教育の実施、公開授業、生徒保健委員会活動による展示等の事業を展開し、学校全体としての取り組みの実践事例を示すことができた。

【生徒への事前・事後アンケート結果まとめ】

1) がんの学習について

※「そう思う」、「どちらかといえばそう思う」、「どちらかといえばそう思わない」「思わない」から選択

	[事前]	[事後]
a がんの学習は、健康な生活を送るために重要だ（そう思う）	89.9%	→97.3%
b がんの学習は、健康な生活を送るために役立つ（そう思う）	91.2%	→97.3%

2) 知識編 ※「正しい」「誤り」から選択

a がんは誰もがかかる可能性のある病気である（正しい）	98.0%	→100%
b がんは進行すると、今まで通りの生活が出来なくなったり、命を失ったりすることがある。（正しい）	98.0% ⁴	→94.6%
c がんは日本人の死因の第2位である（誤り）	<u>1.2%</u>	<u>→76.2%</u>
d たばこを吸わないこと、バランスよく食事すること、適度な運動をすることなどによって、予防できるがんもある（正しい）	96.6%	→98.6%
e 早期発見すれば、がんは治りやすい（正しい）	<u>75.0%</u>	<u>→99.3%</u>
f 体の調子がよい場合は、定期的に検診を受けなくてもよい（誤り）	95.9%	→98.0%
g がんの治療法には手術しかない（誤り） *高のみ	90.4%	→97.3%
h がんの痛みは我慢するしかない（誤り） *高のみ	92.1%	→97.3%

3) 意識編

※「そう思う」、「どちらかといえばそう思う」、「どちらかといえばそう思わない」「思わない」から選択

a 自分はがんにならないと思う（思わない）	46.6%	→53.7%
b 将来、たばこを吸わないでいようと思う（そう思う）	93.2%	→93.2%
c 日頃から、バランスのよい食事や適度に運動を行うなど健康な体づくりに取り組もうと思う（そう思う）	<u>66.2%</u>	<u>→83.0%</u>
d がん検診を受けられる年齢になったら検診を受けようと思う（そう思う）	<u>74.3%</u>	<u>→93.2%</u>
e がんの治療方法がいくつかあるが、医師が決めるものである（思わない）	<u>22.8%</u>	<u>→59.3%</u>
f がんになっても生活の質を高めることができる（そう思う）	<u>32.5%</u>	<u>→50.4%</u>
g がんになっている人も過ごしやすい世の中にしたい（そう思う）	87.2%	→89.8%
h がんと健康について、まずは身近な家族から語ろうと思う（そう思う）	<u>64.2%</u>	<u>→83.0%</u>
i 家族や身近な人が健康であって欲しいと思う（そう思う）	95.3%	→95.9%
J 長生きするためには、健康な体づくりに取り組もうと思う（そう思う）	88.5%	→91.8%

3. 今後の課題及びその取組の方向性（今回の事業により新たに見えた課題など）

（1）各学校の教育課程への位置づけの明確化

- ア 令和2年から移行される新学習指導要領の中学校、高等学校には「がんについても取り扱うもの」と明記された。同解説書においても、中学校、高等学校では「理解させる」、小学校では「触れるようにする」という文言が示されている事を、全面実施に向けて周知する。
- イ がん教育の目標を達成するためには、がんに対する正しい知識を保健体育の保健学習で身につけさせ、関連教科、特活等を通じて健康と命の大切さ、がん患者への正しい理解について実践していくことが必要である。まずは、体育・保健体育の保健学習を中核に他の教科と連携した指導（カリキュラム・マネジメントの視点）について、取り組みを継続して提案していくことが課題である。

（2）外部講師の活用について

- ア 本年度の第1の目標であるがん教育実施率の向上のためには、まずは教員による授業実践を推進しているが、平行して外部講師の活用についても研究を進めて行く必要がある。
- イ 学校での外部講師の育成に向けた研修会等を、保健医療部とも連携し進めていきたい

（3）研修会等の充実と普及・推進

- ア がん教育に対する教職員の不安感が大きく、がん教育についての理解を深める必要がある。そのためにも指導者研修会を充実させ、保健体育科教諭、養護教諭への積極的な参加を呼びかけていく必要がある。またがん教育実施状況調査が行われる事を管理職へも周知する必要がある。
- イ モデル校の取り組みを、できるだけ県内各地に偏りなく選定を行い、普及・推進していく。

4. モデル校以外での取組について（課題や今後整理すべき事項など）

（1）外部講師の活用について

- ア 本年度の第1の目標であるがん教育実施率の向上のためには、まずは教員による授業実践を推進しているが、平行して外部講師の活用についても研究を進めて行く必要がある。
- イ 学校での外部講師の活用に向けた、外部講師育成の為の研修会等を、保健医療部とも連携し進めていきたい。

月日	検討内容
第1回沖縄県連絡協議会 令和元年7月26日金曜日	「沖縄県連絡協議会設置要綱」について - 沖縄県における「がん教育」の現状について - 県内でのがん教育に関する動向 - がん教育の実施状況（H29年度調査）より現状と課題 - 実施状況 - 実施しない理由 - 実施方法 - 外部講師活用 - 外部講師活用の課題 - 外部講師活用で効果的だったと思ったこと - がん対策に関する沖縄県の状況 - 受診率 - 精検査率 - 男女別の罹患率 - 他国との受診率の比較 - 事業計画について - 趣旨 - 計画の期間 - 計画の体制 - 目標 - 県内の学校におけるがん教育実施率の向上 - 教職員・関係者等へのがん教育の普及・啓発 - 県の推奨するがん教育教材の作成
第2回沖縄県連絡協議会 令和2年1月22日金曜日	- 令和元年度事業報告 - 連絡協議会について - がん教育研修会について（3地区） - 八重山地区・・・令和元年 8月20日（火） - 宮古地区・・・令和元年 8月27日（火） - 本島地区・・・令和元年10月30日（水） - 教材検討委員会について（年3回） - 第1回がん教育教材検討委員会・・・令和元年 8月30日（金） - 第2回がん教育教材検討委員会・・・令和元年 10月21日（月） - 第3回がん教育教材検討委員会・・・令和元年 11月27日（水） - モデル校による取り組みについて - 他機関との連携について - 沖縄県学校保健会との連携 - 沖縄県学校体育研究発表大会での実践発表・授業研究 - 沖縄県がん診療連携協議会、同小児・AYA部会への参加 - 文部科学省主催研修会への参加 - 事業成果 「がん教育」研修会 - がん教材検討会について - モデル校による取り組みについて - 課題 - 令和2年度の事業計画について

1. 事業の具体的内容について

(1) 自治体における取組

① 協議会について

1. 構成員

全員で 25 名

医師 4 名（小児科・放射線科・産婦人科・呼吸器内科各 1 名）、大学教授 1 名、看護師 1 名、MSW 1 名、保健所職員 2 名、がん患者会関係者 1 名、PTA 関係者 1 名、学校長 4 名、教諭 2 名、養護教諭 2 名、教育委員会事務局職員 6 名



2. 開催時期、検討内容

(1) 第 1 回 令和元年 8 月 27 日（火）

- ・今年度のがん教育の方針及び取組について
- ・推進校の取組について
- ・新潟市保健所の取組について

(2) 第 2 回 令和 2 年 2 月 6 日（木）

- ・新潟市がん教育研修会の報告
- ・推進校の実践報告（大形小・巻東中・明鏡高）
- ・平成 29・30 年度がん教育実施調査結果報告（新潟市）
- ・外部講師リスト作成について
- ・児童向けパンフレットのについて
- ・今年度の成果と課題をまとめ、次年度の方向性を検討

② 教育委員会としての取組

ア がん教育推進協議会の開催（年 2 回）

推進校の実践事例を中心に、平成 29 年度からの取組の成果と課題を踏まえつつ、新潟市全体の学校におけるがん教育の一層の推進について検討した。

イ がん教育研修会の開催

推進校の実践発表や講演会を通して、具体的な取組内容を示し、学校におけるがん教育に対する理解を深め、自校におけるがん教育の取組について意識を高め、実践につながるよう取り組んだ。

【令和元年 12 月 12 日 新潟市がん教育研修会開催（会場：新潟市江南区文化会館）】

・144 名の参加（小学校 58 名、中学校（中等教育学校含）46 名、高等学校 4 名、特別支援学校 2 名、その他（がん教育推進委員・保健師・学生・事務局等）34 名）

・推進校 3 校の実践発表では、昨年に引き続き、新潟医療福祉大学健康科学部スポーツ健康学科の脇野教授から、推進校の取組の成果と推進校の取組を自校の実践に生かすためのポイントについて指導講評をいただいた。がん教育は、がんを扱うことを通して、他の様々な病気の予防や望ましい生活習慣の確立を含めた健康教育の充実を図ることである。それぞれの立場の人がチームとなり、地域や学校の実情に応じて、計画的・継続的な方法で着実に取り組むことが大切であり、チームがん教育で進める必要がある。

・講演会は、「学校におけるがん教育の考え方・進め方」と題して、聖心女子大学 現代教養学部 教育学科 教授 植田 誠治氏よりご講演いただいた。

「がん教育は新しい段階に入った」というところから、これまで示されている2つのがん教育の目標から一歩踏み込んだ目標が必要であるとし、「がんの概念、予防方法、検診の意義を正しく理解し、がんを予防する能力や態度を高め、がんに対するいたずらな不安や差別を払拭する。また、人間尊重の精神に基づき、がんやがんと向き合う人々について学ぶことによって、自他の健康といのちの大切さを知るとともに自己のあり方や生き方を考える態度を育成する。」という目標である。それは、児童生徒がもつがんに対する不安と小児がんの子供たちに対するいじめや差別につながる可能性があるためである。このような一歩踏み込んだ目標も視野に入れ、がん教育を推進していく必要がある。

また、教育課程におけるがん教育の位置付けや学習指導要領における内容の取扱いについても再確認できた。がん教育は、体育・保健体育を中心として、特別活動や道徳等関連する教科を通じて計画的に行われる。その場合、教科それぞれの特徴を踏まえ、どの内容をどの時間を中心に扱うのかを調整する必要があり、学校長等のリーダーシップがとマネジメントが求められる。

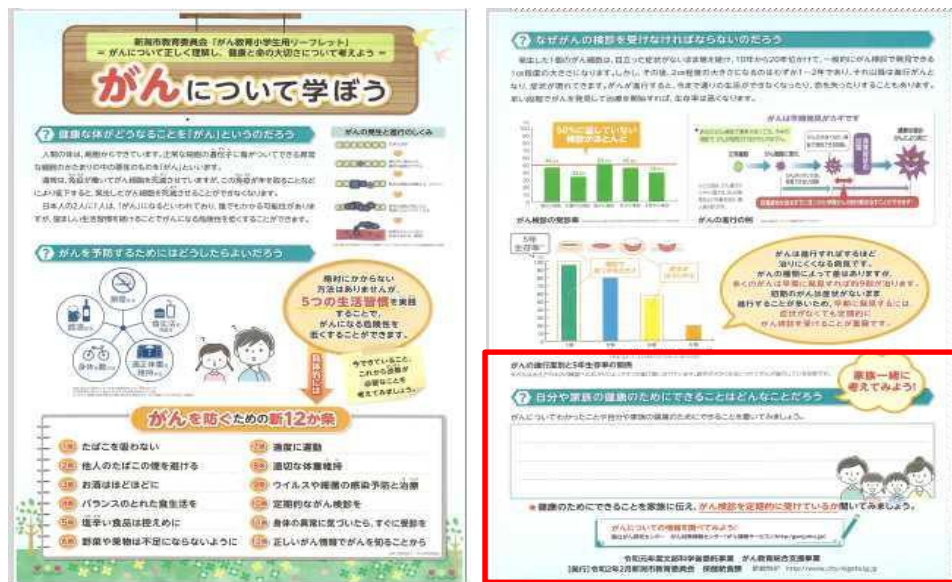
課題として、十分な知識を持たずに怖がることを払拭していくことが必要であり、がんを生活行動との関係だけでなく、現代の重要な健康課題として指導していくことが求められると結ばれた。

ウ 推進校の選定と取組への支援

市全体の学校におけるがん教育推進のモデルとなるような積極的な取組を進めた。また、外部講師の派遣を行った。

エ がん教育（小学校用）授業用リーフレット及びがん教育実践資料集の作成

文部科学省のがん教育教材の活用を進めるとともに、昨年度は中学校・高等学校の授業で活用できるようなリーフレットを作成した。今年度は、小学生用（高学年向け）のリーフレットを作成した。また、推進校で実践した指導案や資料、教材をおさめた資料集（CD）を各校に配布予定である。



〈小学生高学年向けリーフレット〉

小学生用のリーフレットの最後には、がんについての学習を通して、自分や家族の健康のためにできることはどんなことかを表現することで、家族と一緒に考える機会を設け、子どもの学びを家庭へとつなげるようにした。

③ 保健部局や地域の専門機関等との連携

新潟市医師会、新潟市健康づくり推進委員会を通して、学校におけるがん教育について周知した。また、

推進協議会や研修会への参加により学校でのがん教育の理解を深めた。

〈12月12日（木）新潟市がん教育研修会〉



〈 植田教授の講演 〉



〈 推進校3校の実践発表 〉

（2）モデル校における取組

①大形小学校・・・学校での学びを児童から保護者へ向けて発信

公開授業日：11月16日（土）で、「みんなで学ぼう がんのこと」（体育 保健領域「病気の予防」）

授業実践を中心にがん教育を推進した。単元型授業とし、第一次「がんについて正しく理解しよう」、第二次「がんの予防について理解し、自分ができることを考えよう」、第三次「検診の大切さやがん患者のおもいを理解し、家族や周りの人のためにできることを考えよう（本時）」の全3時間で構成した。

公開授業は、授業参観日に実施し、保護者にもがんについて関心をもってもらえるようにした。

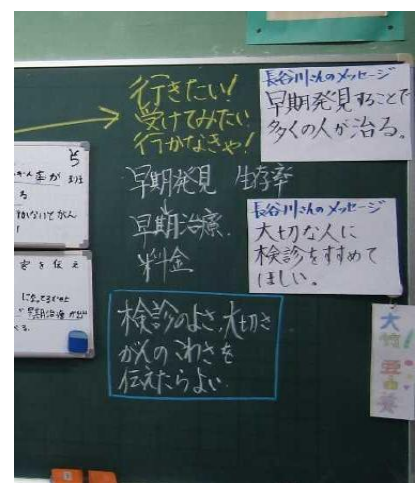
授業では、ねらいを「がんについて、がんの検診の受診率の低さを知り、検診に行かない理由やがんを経験した方の考えやおもいにについて考える活動を通して、家族に向けて自分のおもいや検診の大切さを伝えられるようにする。」とし、文部科学省のがん教育プログラムを活用して実施した。がん教育プログラムや映像教材を有効活用し、ねらいを達成する授業を進めることができた。

児童や保護者のアンケートや感想からも分かるように、児童も保護者もがんに対する関心が高まり、さらに、健康や命の大切さについて深く考えることができた実践であった。実践における成果と課題を次の通りである。

成果 ・がんについて正しい知識を学んだことで、児童一人ひとりが主体的にがんについて考えることができた。

- ・自分事から家族や大切な人を思う気持ちへ変わった。
- ・命の大切さを考えることができた。
- ・資料を有効に活用することでより学びが深まった。

課題 ・持続可能な授業づくりのための校内体制づくりが必要。
・ゲストティーチャーや外部講師の活用のしかた
・時数の確保
・評価の在り方





〈大形小学校 授業参観・公開授業〉

②巻東中学校・・・先進性よりも汎用性！どこの学校でも使えるモデル授業

公開授業日 10月21日（月）に3年1組・2組，授業後，協議会
 10月25日（金）に3年3組・4組，授業後、
 ※ 保健体育 保健分野「健康な生活と予防」に位置付ける
 ※ T1 校長とT2 養護教諭のT・Tで実施。

授業の流れは，導入で「がんはこわいだけか？」という質問に対する事前アンケート結果を提示し，展開前半でがんについての説明，後半でがんのイメージの確認，まとめと振り返りでは，ワークシートで将来の自分へのメッセージや今日の授業を家族にどう伝えるかを記入した。

使用教材については，文部科学省のがん教育教材を活用した。また，外部講師を専門医及びがん経験者の映像資料で代用したが，教師の説明を専門医が裏付けしたり，がん経験者の話を聞いたりすることで，がんに対する意識や知識の広がりがあった。

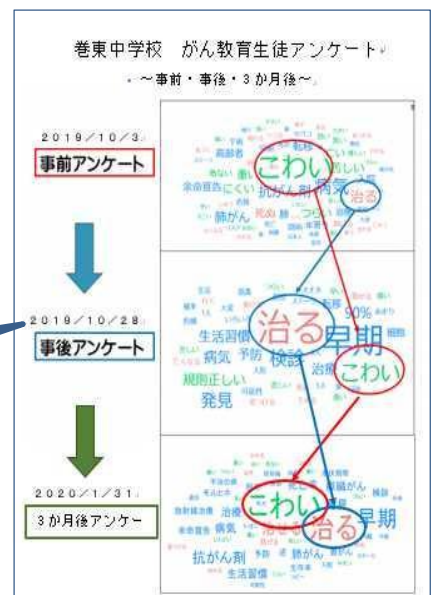
さらに，授業での学びを家族へのメッセージとして表現することで，生徒自身も家族もがんに対する関心を高めることができた。

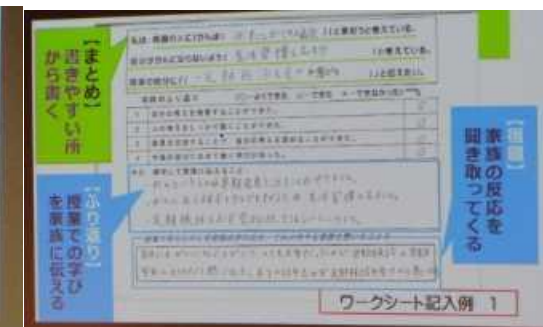
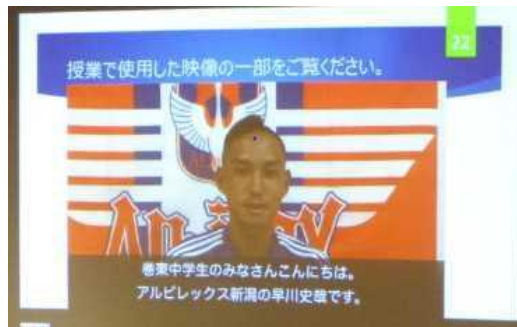
2日間の公開授業後には，テーマに沿って協議会を行った。1日目は，養護教諭を中心に39名の参加で，がん教育授業づくり研修会「自分ならどう授業するか」というテーマのもと，参加者が小グループになりファシリテーションを行い，改善策や提案を出し合った。この協議会で話し合われた結果については，2日目の授業に反映させた。2日目は，27名参加で，がん教育協議会「どうやったらがん授業が広まるか」というテーマで協議した。

参加者は，参観した授業を基に，自分の学校ならこう授業をするというイメージをもたせることで，がん教育を取り扱うことの難しさを打開する突破口とし，汎用性や実現性の高いモデル授業となった。

さらに，巻東中学校の授業を新潟市内の他の中学校での実践してもらおうと，授業者自ら他校の外部講師となり，保健体育教師や養護教諭と連携して，授業実践を行った。

授業前のアンケートをワードクラウドで作成し，授業の導入で「がんはこわいだけか？」と問い，提示した。
 生徒の授業後，直後と3ヶ月後にも，同様のアンケートを実施したため，がんに対する印象の変化が見える。





【明鏡高等学校】2年間の積み重ねによる工夫 ～リレーフォーライフへの参加を通して～

9月21～22日 リレーフォーライフ参加（希望者）

11月2日 文化祭でがん教育ブース設置，リレーフォーライフ参加のビデオ上映

11月6日 午前部 がん教育講演会「がんのち晴れ ～キャンサーギフトという生き方～」

講師 新潟医療大学 准教授 五十嵐 紀子 氏

フリーアナウンサー 伊勢 みずほ 氏

夜間部 がん教育講演会「キャンサーギフトという生き方」

講師 リレーフォーライフ実行委員会 竹田 篤志 氏

津森 佳子 氏

12月2日 公開授業「生活習慣とその予防」（1年生） ※保健体育 科目保健

明鏡高等学校は、学校の特性や生徒の実態を踏まえながら、2年間継続してがん教育を推進してきた。今年度は、「リレーフォーライフへの参加，参加したことを発信，リレーフォーライフに関わった人の話を聞く，授業に生かす」という計画から実践を進めた。

がん教育を通して，がんに対する正しい知識と情報を得ることはもとより，命の大切さや生き方についても考えることができるように取り組んだ。

授業では，本時まで，文部科学省のがん教育教材を活用した授業を実施した。本時では，前時までの学習，リレーフォーライフへの参加及びリレーフォーライフに関わっているがんサバイバーやケアギバーの方々の思い，外部講師による講演会等をもとに生徒自身がより自分事として「がん」に向き合えることをねらいとした。

生徒の実態と命・心・病気というデリケートな問題であることを配慮し，一人1台のパソコンを活用した調べ学習とした。また，評価については，教師との個別面談の形式で実施した。

成果 ・リレーフォーライフに参加したことで，文化祭や授業に関連させたがん教育を推進することができた。また，年間を通して計画的に進めることができた。

・外部講師の活用により，生徒自身ががんを身近に感じたり，がんに対して関心を高めたりすることができた。

・がん教育を通して，命の大切さや生き方について考えることができた。

課題 ・外部講師の活用方法

・リレーフォーライフへのような活動への参加についての理解

・がん教育への評価方法



〈明鏡高等学校 リレーフォーライフ参加〉



〈明鏡高等学校 文化祭におけるがん教育ブース〉



〈明鏡高等学校 公開授業〉

授業のまとめには、「象の背中
旅立ちの日」の映像を視聴し、
命と向き合うということについ
てそれぞれが考えた。

〈外部講師の講演後の生徒の感想〉

- ・苦しさを明るく語ってくれて感謝します。楽しかった。(午前部)
- ・実際にがんになった方の話は、すごかったし、ためになった。
- ・がんになっても不幸ではない。
- ・戦う仲間の存在は大切。
- ・これから興味を持っていこうとおもった。
- ・普段考えることができない貴重な時間をもらえることができた。(夜間部)
- ・感動しました。役に立つと思う。
- ・ありがとうございました。生きるということは素晴らしい。

2. 事業の達成度について

(1) がん教育研修会の成果

①がん教育において、教材や資料、授業の進め方について具体的に知ることができ、自校での実践への意識向上や理解の深まりにつながった。

②推進校の実践をパッケージに配布することにより、推進校での取組を市内の学校に広め、市内全体にがん教育実践のハードルが下がり、推進校以外の各校におけるがん教育への取組の意識向上につながった。

③外部講師は多様な活用方法があることが分かった。

④研修会アンケート結果

ア 実践発表は、今後のがん教育実践の参考になりましたか。

とても参考になった	90. 5%
まあまあ参考になった	8. 6%
あまり参考にならなかった	0%

未回答 0. 9%

イ 実践発表で最も参考になったことはどんなことですか

- ・教材や資料の活用方法
- ・具体的な授業の進め方
- ・外部講師の活用方法の工夫
- ・教育課程の工夫
- ・がん教育における小～高までの系統性

ウ 講演は、今後のがん教育の参考になりましたか。

とても参考になった	79. 3%
まあまあ参考になった	18. 1%
あまり参考にならなかった	0. 9%

未回答 1. 7%

⑤研修会の感想や意見等

- ・研修会には、養護教諭以外の管理職や教諭を対象に実施してほしい。
- ・研修会に参加してがん教育を行う意欲が高まった。学校全体で取り組みたい。
- ・推進校の実践発表、講演会がとても参考になった。
- ・それぞれの校種での発表がよかった。特に、小学校でどのように実践すればよいか分からなかったが、とても参考になった。
- ・カリキュラムマネジメントを考えている中で、がん教育をどの教科で使って実践していくのか具体的に知ることができてよかった。
- ・児童生徒や保護者の反応のプラス面だけでなくマイナス面をより詳しく知りたかった。

3. 今後の課題（今回の事業により新たに見えた課題など）

(1) 学校全体でがん教育に取り組み、新潟市全体で確実にがん教育を実施できるようにするために、推進校の巻東中学校の実践事例資料や新潟市のリーフレット（小及び中・高用）の活用を啓発していく必要がある。

(2) 研修会の参加については、今年度も養護教諭がほとんどであった。養護教諭からの要望も多かったが、学校全体でがん教育を推進するために、管理職・保健体育科の教諭・学級担任等への参加を増やし、チームでがん教育を実施することへの理解を深める。

(3) 外部講師の確保や活用について、単にリストを作成するのではなく、教育委員会が相談窓口となり対応できるような体制を整備する。

4. モデル校以外での取組について（課題や今後整理すべき事項など）

- （1）推進校である巻東中学校の実践を参考に，市内の 3 校の中学校でも自校の実態に合わせながら授業を実践することができた。次年度へつなげる取組となった。
- （2）明らかになった課題を踏まえ，より自校の実態に合った内容・教材・ワークシート等の工夫を検討し，それを他校にも普及してくようにする。
- （3）がん教育をすべての学校で取り組むことができるように，文部科学省から示されている通知やガイドライン等や教材，新潟市のリーフレットの周知と活用。

1. 事業の具体的内容について

(1) 自治体における取組

① 協議会について

1. 構成員

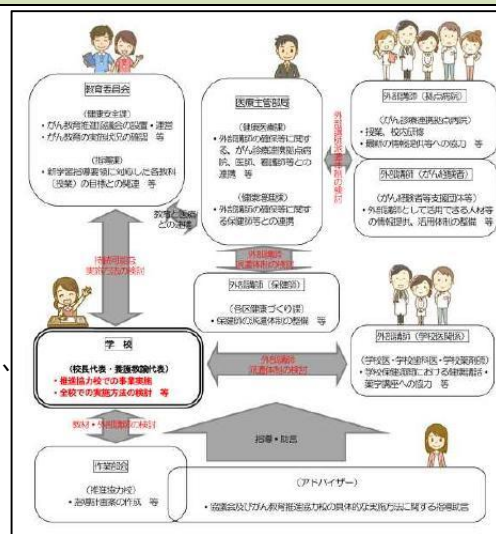
委員 16名、アドバイザー 1名 全員で 17名

【委員】

拠点病院医師 3名〈臨床腫瘍学教授、乳腺科、緩和支援治療科〉、
 拠点病院看護師 1名〈がん看護専門看護師〉、
 がん患者の会支援者代表 1名〈大学教授〉、学校医 1名〈小児科〉、
 学校歯科医 1名、学校薬剤師 1名、校長 2名、養護教諭 2名
 自治体の健康医療主管部局 2名、教育委員会 2名

【アドバイザー】

大学教授 1名〈教育学部〉



2. 開催時期、検討内容

令和元年 7月19日 第1回がん教育推進協議会

がん教育推進事業計画の確認、協議会での役割分担と検討事項の確認、推進協力校の選出検討

令和元年 9月6日 第2回がん教育推進協議会

推進協力校の指導計画案の検討、外部講師の派遣体制整備の検討

令和2年 1月10日 第3回がん教育推進協議会

がん教育推進事業計画や取組の検証、外部講師派遣に関する体制の決定

② 教育委員会としての取組

(1) 外部講師派遣体制の整備

推進協議会を通じて、「浜松市外部講師派遣協力団体等一覧表（連絡先、テーマ、対象、留意事項等）」を作成し、各学校からの外部講師派遣要望を、市教委を通して関係機関に依頼する体制を構築した。

(2) 教職員及び外部講師等を対象とした「がん教育」研修会の開催

がん教育を実施する上での指導方法や留意点への理解を図るため、東京女子医科大学 がんセンター長 化学療法・緩和ケア科教授 林 和彦氏をお招きし、がん教育研修会を実施した。

(3) 推進協力校の選出及び指導計画案作成作業部会の開催

市立小中学校から5校の推進協力校を選出し、各校における持続可能ながん教育実践のため、指導計画案作成作業部会を開催した。また、実践研究を通じた成果（取組みの評価・課題、指導計画・教材等）は次年度以降のがん教育推進に向けて各校へ周知した。

上記のような取り組みを通じて、学校が積極的にがん教育に取り組むことができるよう体制を整備することのできるがん教育の推進を図った。

③ 保健部局や地域の専門機関等との連携

推進協議会を通じて、「浜松市外部講師派遣協力団体等一覧表（連絡先、テーマ、対象、留意事項等）」を作成し、外部講師派遣に係る協力体制を構築できた。また、外部講師派遣依頼の窓口を教育委員会に一本化することで、学校のニーズに応じた様々な外部講師を紹介することや、一部の関係機関に過度な負担がかからないよう派遣依頼を調整することが可能になっている。

（２）モデル校における取組

推進協力校名	テーマ	講 師	授業時数	実施科目
事例 A： 浜松市立入野小学校	がんの要因、予防法、がん検診	学校薬剤師	1	薬学講座
事例 B： 浜松市立新津中学校	命の大切さ、がんの基礎知識	がん患者家族	1	道徳
事例 C： 浜松市立笠井中学校	がんの基礎知識、がん患者等への理解・対応	医師	2	学活
事例 D： 浜松市立鹿玉中学校	がんの要因、健康管理、がん検診	保健師	1	学校保健委員会
事例 E： 浜松市立水窪中学校	がんの要因、がんの基礎知識	教員（医師が事前に教員向けに研修）	1（事前研修は2時間）	保健体育

上記のように推進協力校 5 校それぞれで異なる実施科目、外部講師を用いて持続可能ながん教育を目指して実践を行った。

事例 A では、学校薬剤師が薬学講座の中でがんの要因・予防法やがん検診等について講話を行い、飲酒や喫煙の害、健康な生活や自他の命の大切さについて学習した。

事例 B では、がん患者家族が道徳の中で命の大切さやがんの基礎知識等について講話を行い、がんは身近な病気であり、がんを正しく理解した上で自他の命を大切にすることについて学習した。

事例 C では、医師が学活の中でがんの基礎知識やがん患者等への理解・対応等について講話を行い、がんの正しい知識を身に付け、今後よりよく生きるためにどうしたらよいかということについて学習した。

事例 D では、保健師が学校保健委員会の中でがんの要因や健康管理、がん検診等について講話を行い、がんの早期発見には日頃の健康管理やがん検診を受けることが重要であることを学習した。

事例 E では、校内研修で医師の講話を聞いた教員が保健体育の中でがんの要因、がんの基礎知識等について講話を行い、生徒・教員が一体となってがんについて正しい知識を身に付けることの重要性について学習した。



写真左上から
事例 A 事例 B 事例 C
事例 D 事例 E

(3) その他

2. 事業の達成度について

(1) がん教育推進協議会の開催

がん教育を推進するための取組方針及び計画の作成、外部講師を活用できる体制の整備、事業成果の検証等を行うことを目的とし、年3回のがん教育推進協議会を開催した。「学校の取組に対し、協議会として十分な支援を行えたか」という協議会委員に対するアンケートでは、委員全員が「はい」と回答した。

(2) 教職員及び外部講師を対象とした「がん教育」研修会の開催

養護教諭、保健体育教諭、管理職等の教職員及び医師等の外部講師を対象に、がん教育の進め方について理解を深めるための研修会を開催した。(教職員152人、外部講師3人、市健康医療主管部局5人が参加)後に養護教諭等に対して別途行ったアンケートでは、「不安感が軽減された」、「身近なことから始めてみる」といった前向きな意見が多くみられた。

(3) 推進協力校によるがん教育の効果的な実施方法に関する実践研究

市立小・中学校から5校のがん教育推進協力校を選出し、各校の実情に応じたがん教育の効果的かつ円滑な指導方法に関する実践研究を行った。また、アドバイザー(養護教育専攻教授)の指導助言を受けることができるよう、作業部会を実施した。推進協力校の児童生徒に対して行ったアンケートでは、「がんの学習は、健康な生活を送るために役に立つ」という設問に「そう思う」と回答した児童生徒が授業実施前は67.3%であったのに対し、授業実施後では94.2%(26.9%上昇)となり、児童生徒たちががん教育を行う意義について強く認識できたことがうかがえた。

3. 今後の課題及びその取組の方向性(今回の事業により新たに見えた課題など)

(1) がん教育推進に向けた校内の理解や組織体制づくり(教職員への研修)

⇒養護教諭だけではなく、教職員がそれぞれがん教育の必要性を考えることができるよう、教職員向けの研修会を計画した。(新型コロナウイルス感染症の影響により中止)今後も時期を見据えながら計画していく予定である。

(2) 各学校の教育課程におけるがん教育の位置付け(学校保健計画における位置付け)

⇒各学校の学校保健計画にがん教育を位置付けることができるよう養護教員研修会等において、日頃の学習から関連してがん教育につなげる事例について紹介した。

(3) 教材の確保及び選定

⇒推進協力校での実践事例で使用した指導計画案や教材を全校に共有し、実際にごん教育で使った生きた教材として活用するよう周知した。

(4) 外部講師への謝礼予算の確保

⇒外部講師の謝礼予算を市費で予算措置し、学校が活用しやすい環境づくりに努めた。今後も継続して市費で一定の予算確保をしていく予定である。

4. モデル校以外での取組について(課題や今後整理すべき事項など)

・がん教育導入に対する学校の不安感

⇒他校での実践事例の紹介や教職員向けの研修会等を通じて、その不安感を払拭していく必要がある。

・がん患者を家族に持つ児童生徒に対する授業内での配慮

⇒がんに関する授業を通じて、気持ちが辛くなってしまう児童生徒に寄り添いながら、教材や授業内で使用する文言等を授業前に丁寧に精査しておく必要がある。

1. 事業の具体的内容について

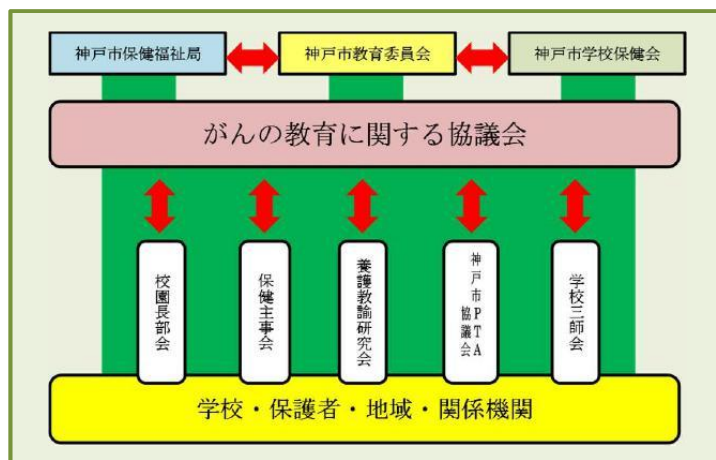
(1) 自治体における取組

① 協議会について

1. 構成員

16人

内訳：医師(内科)2人(学校保健会会長1)
 歯科医師1人
 薬剤師1人(学校薬剤師会副会長)
 PTA2人
 がん患者の会1人
 校長3人(小1、中1、高1)
 養護教諭1人
 神戸市保健福祉局2人
 神戸市教育委員会3人



2. 開催時期、検討内容

○第1回協議会：6月13日(木)

- ・平成30年度がん教育の取組報告
- ・令和元年度がん教育の推進「がん教育総合支援事業」の実施についての説明
- ・平成30年度がん教育の計画について
- ・教職員向け研修会の実施について
- ・学校における取組、推進校の選定について
- ・外部講師の活用に対応できる条件整備について
- ・神戸市作成リーフレットの活用について

○第2回協議会：2月6日(木) 塩屋中学校での学校保健委員会を参観した後に実施

- ・令和元年度の取組について
- ・推進校(塩屋中学校)でのがん教育の実践(授業等)についての話し合い
- ・今年度作成した「がん教育 外部講師 協力団体紹介一覧」について
- ・令和2年度の取組の方向性についての協議

② 教育委員会としての取組

- ・あらゆる機会をとらえ、がんに関する教育の必要性、国の動向、今年度の取組等を説明し、教職員の意識づけを図ると共に、課題となる内容の把握に努めた。
- ・研修会の実施 8月22日(木)
 がん教育研修会(養護教員・中学校保健体育担当教員・保健主事等対象)288名参加
 ◇講演会：NPO法人腺友倶楽部(前立腺がん患者・家族の会)理事長 武内 務氏
 「今、知っておきたいがんのこと ～がんと遭遇しても慌てないために～」
- ・神戸市作成リーフレット … 保健福祉局と協力して作成し、全市の中学2年生に配布した。
- ・実践事例集 … 推進校における取組をまとめ、全市の学校園に配布した。

③ 保健部局や地域の専門機関等との連携

保健福祉局主催の「神戸市がん対策懇話会」が2回開催された。関係部局として出席し、がんに関する教育も含め、神戸市のがん対策を進めるにあたり、がんの専門家、学識経験者や関係機関から、がん対策の在り方等への助言をいただくことができた。

また、保健福祉局と連携して、リーフレット(中学生・家庭向け)を作成した。《後に詳細を記述》

(2) モデル校（推進校）における取組

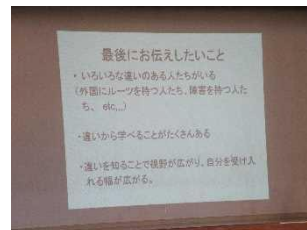
① 本山中学校の取組

○学校保健委員会：がんについて知ろう 10月31日（水）に実施

- ・テーマ：がんに対する正しい知識をもち、自分や周りの人の健康、命の大切さについて学ぶ。
- ・対象：全校生徒、教職員、学校医、保護者（希望者）
- ・内容：保健委員の発表 ①アンケートの結果のまとめより ②平均寿命やがんの豆知識 ③小児がんについて

講演会 演題 「がんになっても笑顔で育つ」

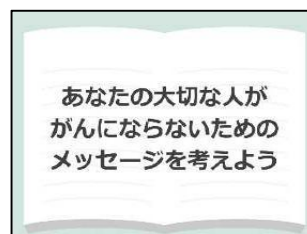
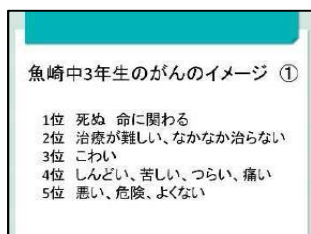
講師 チャイルド・ケモ・ハウス 副理事長 田村 亜紀子氏



② 魚崎中学校の取組

○総合的な学習の時間：「がん」について中学生の今、知っておきたいこと 12月9日（月）に実施

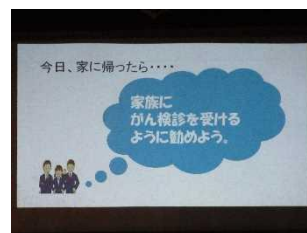
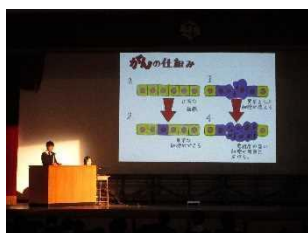
- ・テーマ：がんの予防や検診について、自分自身や家族などの身近な人についても考えられる力を身に付ける。
- ・対象：3年生生徒、教職員、学校薬剤師
- ・内容：養護教諭が指導：文科省スライド教材「がんという病気」を使用
 - ・がんへのイメージについて
 - ・がんという病気について
 - ・がんの発生と進行について
 - ・検診を受ける意味について
 - ・「私から皆さんへ伝えたいこと」 など



③ 塩屋中学校の取組

○学校保健委員会：「がん」について知ろう 2月6日（木）に実施

- ・テーマ：
 - ・「がん」に対する正しい知識を得る。
 - ・予防のためにできることを知り、意識して生活する。
 - ・対象：1年生生徒、教職員、保護者（希望者）、学校医
 - ・内容：
 - 1部：クラス発表・保健委員会発表
 - ・「がん」という病気
 - ・「がん」の進行と症状
 - ・「がん」の現状
 - ・「がん」の治療と検診
 - ・「がん」の予防
 - ・「がん」クイズ
 - 2部：校医さんへの質問コーナー（毎年、実施）
- ※生徒からの一般的な質問に校医の船影が回答



(3) その他

○リーフレットの作成

- ・ねらい：このリーフレットを通して、家庭でがんについて話す機会をもつことで、がんについての正しい知識をもち、がんの予防、がん検診の受診に努め、早期発見、早期治療の意識につなげるとともに、がんに向き合い、誰もが暮らしやすい社会にしていくことを願って作成した。
- ・対象：中学2年生全員
- ・内容：「がん教育の目標」「望ましい健康習慣とは」「日本におけるがんの原因は」「がん罹患数、がん死亡数が多い部位」「がんはどのように進行するのか」「がん検診の受診率」「がんの進行度別にみた5年生存率」「神戸市のがん検診」「がん患者の思い・ともに生きる社会をめざして」



2. 事業の達成度について

①がん教育研修会（講演会）でのアンケート結果

- ・当事者の方のご講演は説得力があってよいと感じた。暗く悲しいものではなく、希望と明るさを持って話されている姿がとても印象的だった。がん教育は、子供に、こわいイメージを持たせてはいけななと思った。
- ・きっと辛いこともたくさんおありだったでしょうに、自分のために、仲間のために前向きに様々な活動をされていることに感動しました。
- ・両親ががんで亡くなった子供たちもいる中でのがん教育は、言葉や内容にもものすごく配慮する必要がある。でも、知っておくべきことなので、もっと身近になればと思う。触れてはいけないものではなく、もっと誰もが知識としてもっておくべきものになってほしいと思います。

②協議会においての評価

塩屋中学校での学校保健委員会を参観した後に協議会をもち、塩屋中学校のがん教育への取組についてや神戸市の取組について、各方面の関係者による意見交換や評価を行った。

- ・子供たちが自分で調べたことを工夫してまとめ、発表しているのがよかった。
- ・がんについて考えるきっかけになってくれればと思う。
- ・情報の取捨選択が子供たちには難しい部分があると思う。教師が適切な助言を与えることが大切ではないか。
- ・正しい情報を教えるという視点から見ると、今回のような「調べ学習→発表」という形式にはリスクがあると考える。知識1時間、道徳1時間の計2時間でできる教材があると、もう少し取り組みやすいのではと思う。
- ・本校では、がん教育に対して長年の積み上げがあるので、その年の生徒の状況等に合わせてマイナーチェンジ、バージョンアップをしてきたものを、今後もさらに深めていけたらと考える。刻々と変わる新しい情報をアップデートしていく教師の研修も必要。
- ・外部講師協力団体紹介一覧が作成できたことは一歩進んだことになるが、できたからいいのではなく、更新をしていかなければならない。

③がん教育に関するアンケートの結果

- ・文科省のスライド教材は、モジュールで分かれていて活用しやすい。コピーしてパワポをつくるのができてよい。アニメーション等を自由に操作したりアレンジしたりできたのでよかった。中学校も映像教材があればいいと思う。（視覚に訴える）
- ・中学校においては、次期学習指導要領で生活習慣病（がん含む）は第2学年で実施するので、保健の授業と総合的な学習の時間をタイアップして「がん教育」を実施することが中学校においてはやり易いと

考えられる。よって、保健体育科の教師と2年総務の協力が必要である。その職に就く教員への事前の説明会を行い、実施の協力をお願いすることが大切である。

- ・学校でがん教育を展開するにあたっては、体育科、道徳などとの年度当初からの打ち合わせがないと、年間計画には入らないと考える。そのため、教科総会、教科外総会で、がん教育の根拠、展開例、活用できる資料などの紹介があれば、各校でも実施しやすくなるのではと感じた。
- ・「KOBEGANガイド2020」はとても見やすく、「がん教育」の資料として、中学校現場では役に立つと思う。また、学年や学校で一斉に体育館等で「がん教育」を実施する際に、神戸市で統一されたパワーポイントや動画があればとも思う。
- ・各種専門職種からの情報提供や知見、患者団体の動向などを協議会等で集約し、それを各学校の授業内容に反映させ、より正しい知識を児童生徒に習得させていきたい。

3. 今後の課題（今回の事業により新たに見えた課題など）

- ・がん教育を実施することに対する、教職員の意識向上
- ・教職員に対する、がん教育への理解を更に深め、指導の手立てを学ぶための研修会の実施
- ・新学習指導要領の内容を踏まえて、中学校では、令和2年度が移行期にあたるが、その中での実施計画さらに、小学校では、新学習指導要領全面実施におけるがん教育の実施計画
- ・外部講師の人材確保と学校現場への紹介の仕方
- ・外部講師協力団体紹介一覧の更新
- ・文科省、対がん協会、保健福祉局、医師会等関係機関との連携強化
- ・がん患者やその家族への配慮等、がん教育を行ううえでの留意点について

4. モデル校以外での取組について（課題や今後整理すべき事項など）

全市の学校での実施状況を把握し、中学校を中心に実施を促す。

- ・中学校は令和3年度からの新学習指導要領の改訂に伴い、全ての中学校でがん教育を行うことを継続する
- ・小学校、高等学校では、各校の実情に応じた取組を促す
- ・神戸市作成のスライド教材、指導の手引き（小・中学校用）の活用
- ・推進校での公開授業への参加要請

がん教育総合支援事業
アンケート集計結果（令和元年度）

令和元年度 がん教育総合支援事業 評価アンケート

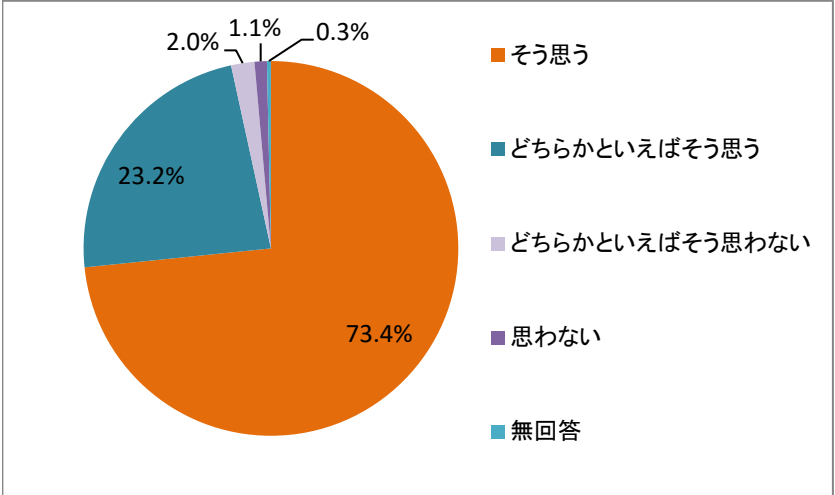
(1) 児童生徒に対するアンケート

1) がんについて当てはまるもの

a がんの学習は、健康な生活を送るために重要だ (事業実施前)

(単位：人)

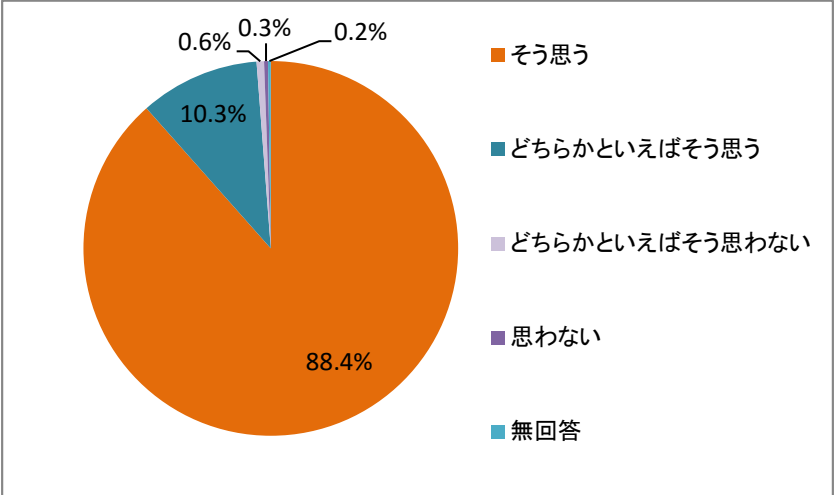
そう思う	12715
どちらかといえばそう思う	4019
どちらかといえばそう思わない	349
思わない	184
無回答	59



a がんの学習は、健康な生活を送るために重要だ (事業実施後)

(単位：人)

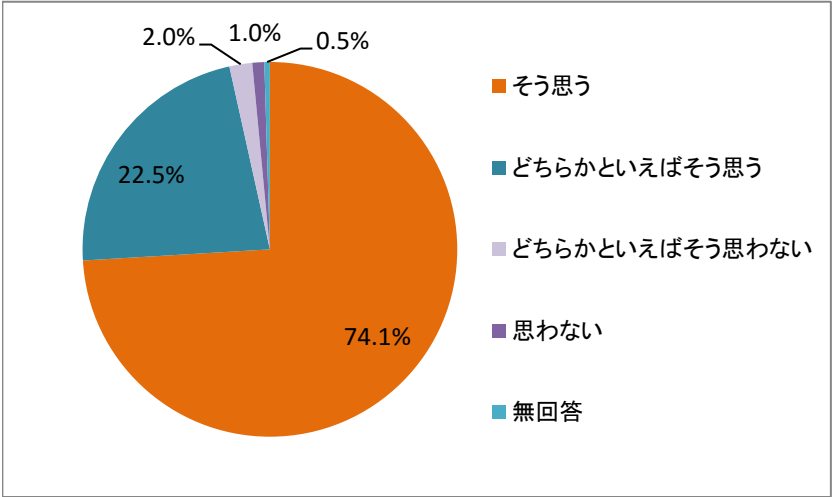
そう思う	15228
どちらかといえばそう思う	1779
どちらかといえばそう思わない	111
思わない	58
無回答	41



b がんの学習は、健康な生活を送るために役に立つ (事業実施前)

(単位：人)

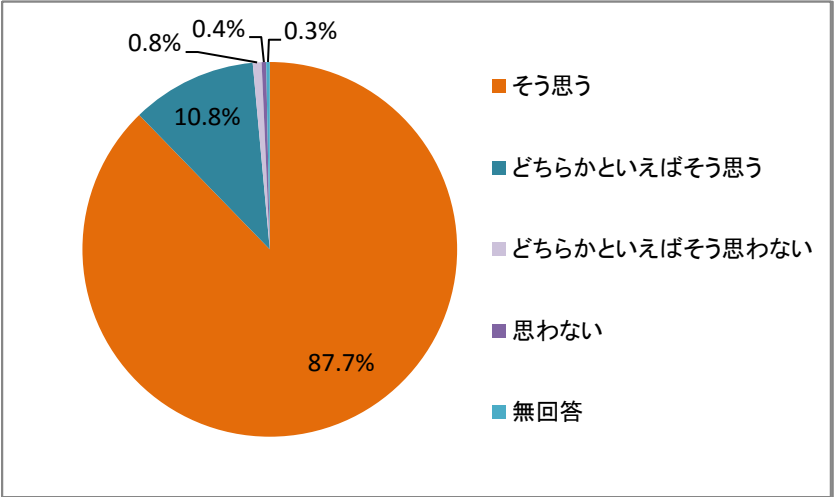
そう思う	12830
どちらかといえばそう思う	3894
どちらかといえばそう思わない	341
思わない	178
無回答	83



b がんの学習は、健康な生活を送るために役に立つ (事業実施後)

(単位：人)

そう思う	15102
どちらかといえばそう思う	1862
どちらかといえばそう思わない	131
思わない	67
無回答	53

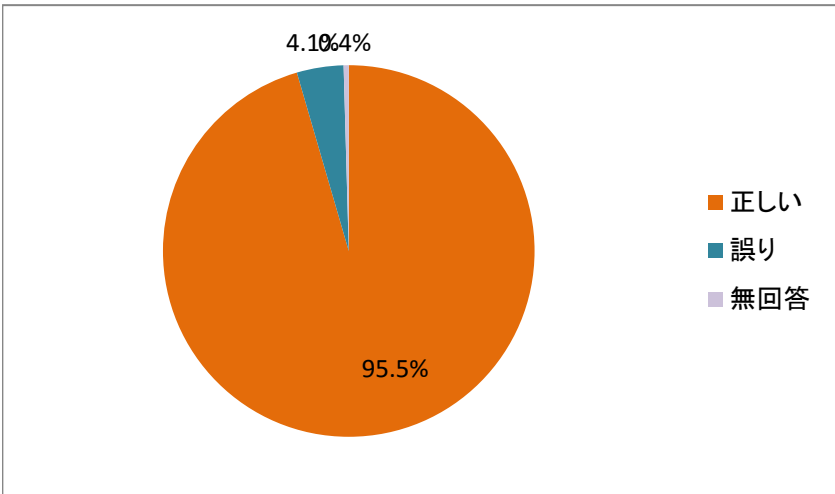


2) がんについて当てはまるもの

a がんは誰もがかかる可能性のある病気である (事業実施前)

(単位：人)

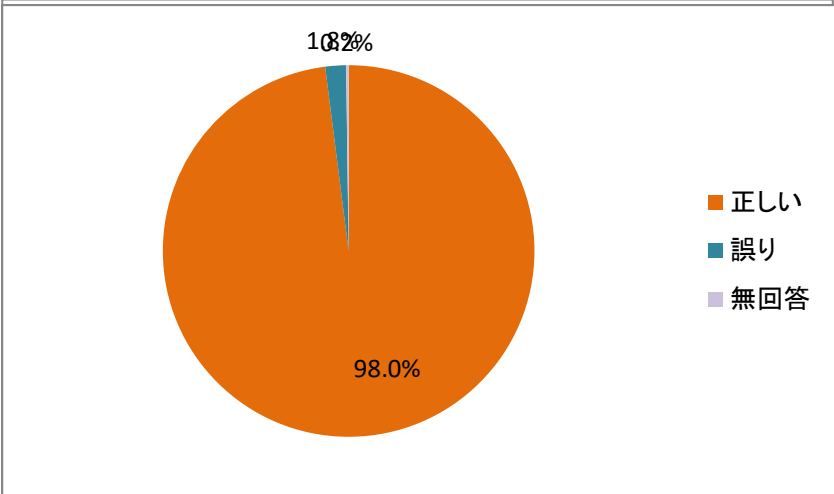
正しい	15960
誤り	679
無回答	74



a がんは誰もがかかる可能性のある病気である (事業実施後)

(単位：人)

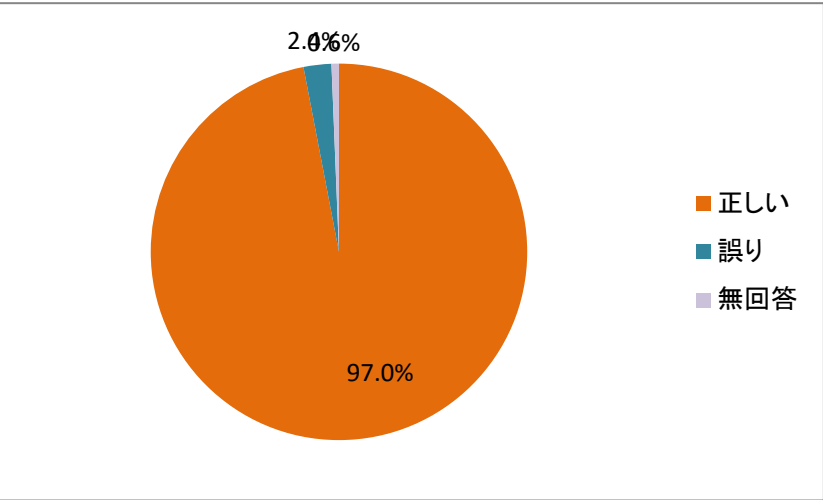
正しい	16268
誤り	299
無回答	36



b がんは進行すると、今まで通りの生活ができなくなったり、命を失ったりすることがある（事業実施前）

(単位：人)

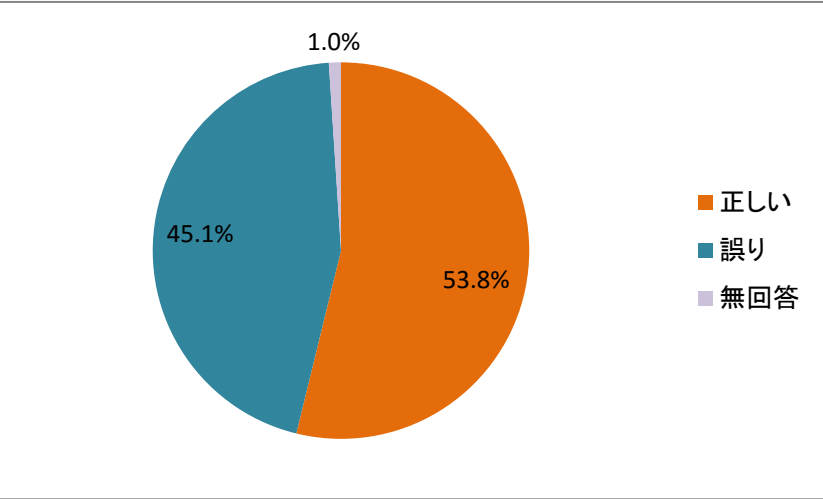
正しい	16078
誤り	395
無回答	106



c がんは日本人の死因の第2位である（事業実施前）

(単位：人)

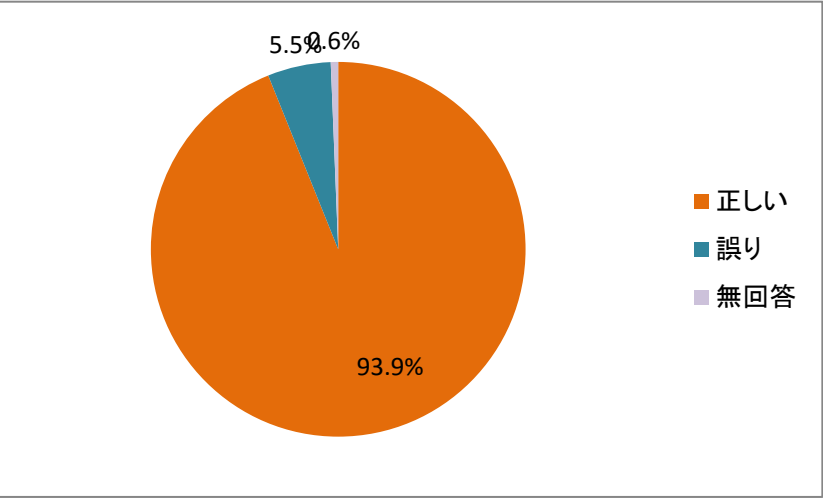
正しい	8939
誤り	7499
無回答	172



d たばこを吸わないこと、バランスよく食事をする、適度な運動をすることなどによって、予防できるがんもある（事業実施前）

(単位：人)

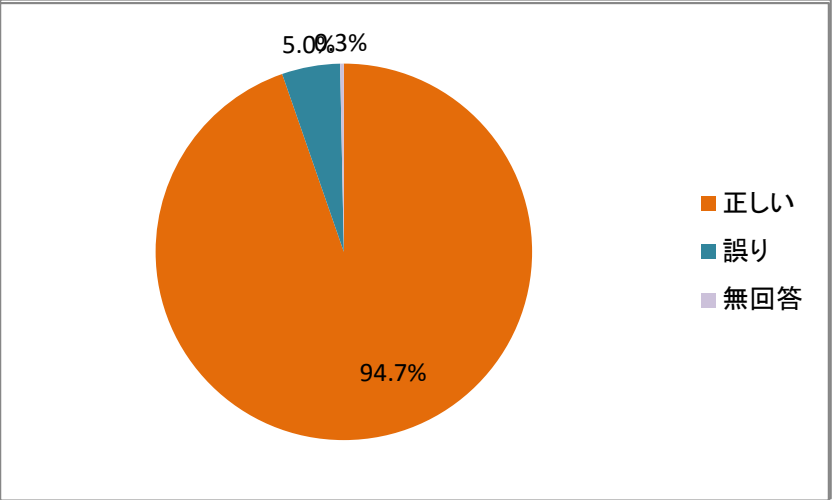
正しい	15599
誤り	906
無回答	106



b がんは進行すると、今まで通りの生活ができなくなったり、命を失ったりすることがある（事業実施後）

(単位：人)

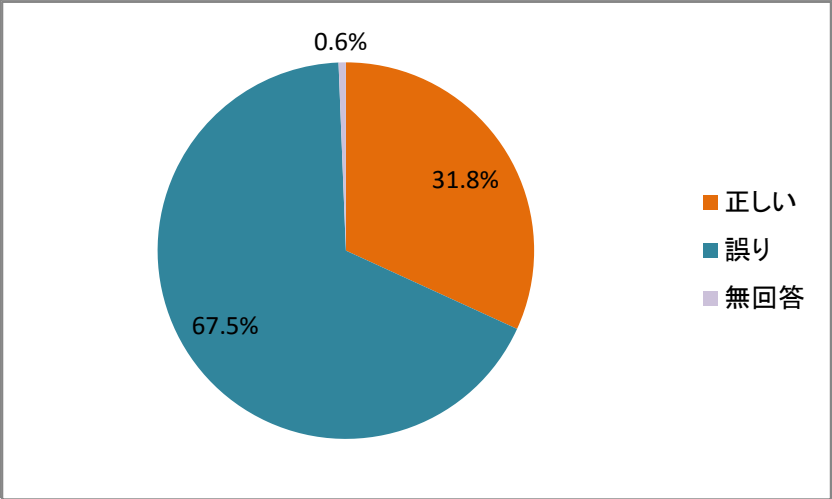
正しい	15592
誤り	823
無回答	52



c がんは日本人の死因の第2位である（事業実施後）

(単位：人)

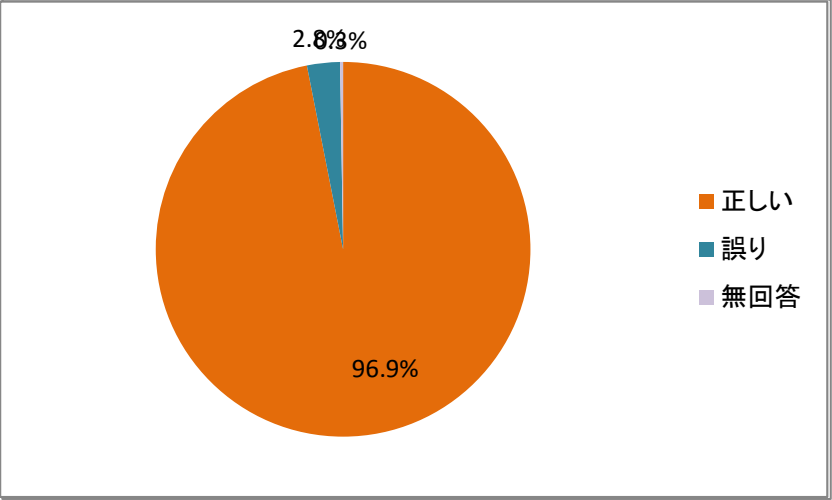
正しい	5252
誤り	11146
無回答	103



d たばこを吸わないこと、バランスよく食事をする、適度な運動をすることなどによって、予防できるがんもある（事業実施後）

(単位：人)

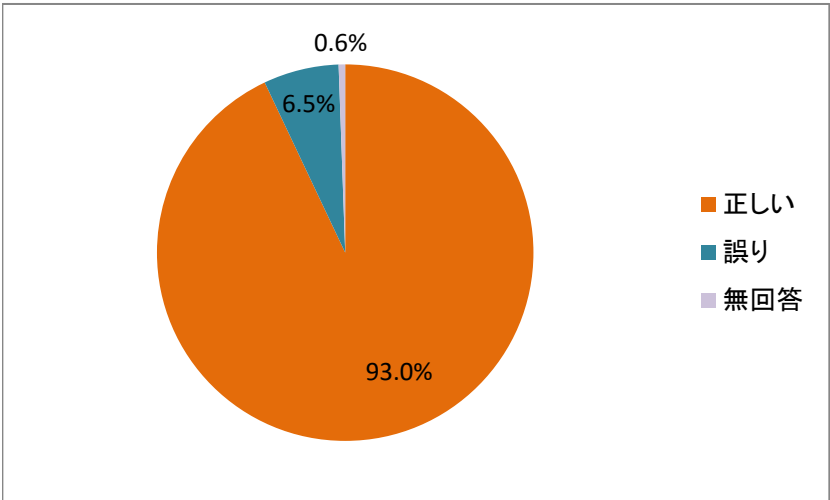
正しい	15990
誤り	468
無回答	43



e 早期発見すれば、がんは治りやすい（事業実施前）

(単位：人)

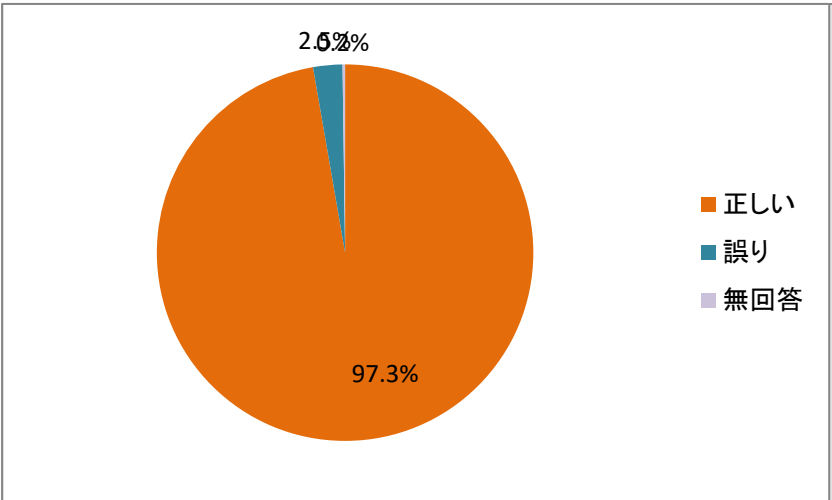
正しい	15388
誤り	1071
無回答	93



e 早期発見すれば、がんは治りやすい（事業実施後）

(単位：人)

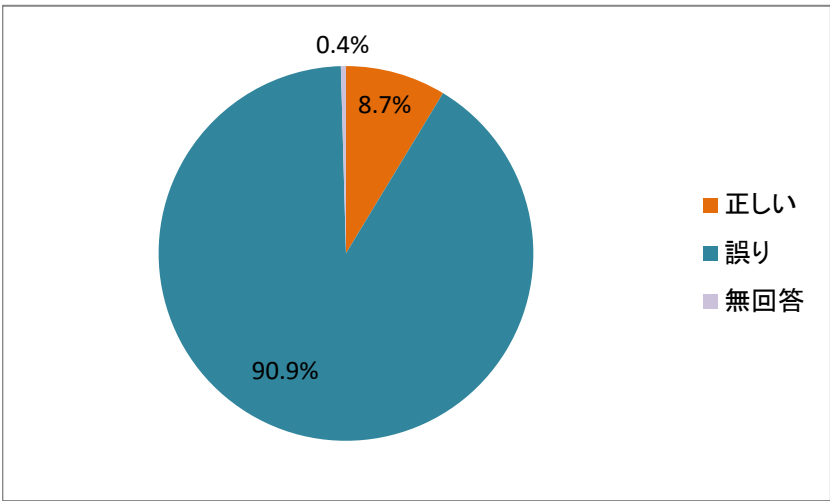
正しい	16000
誤り	413
無回答	36



f 体の調子が良い場合は、定期的に検診を受けなくても良い（事業実施前）

(単位：人)

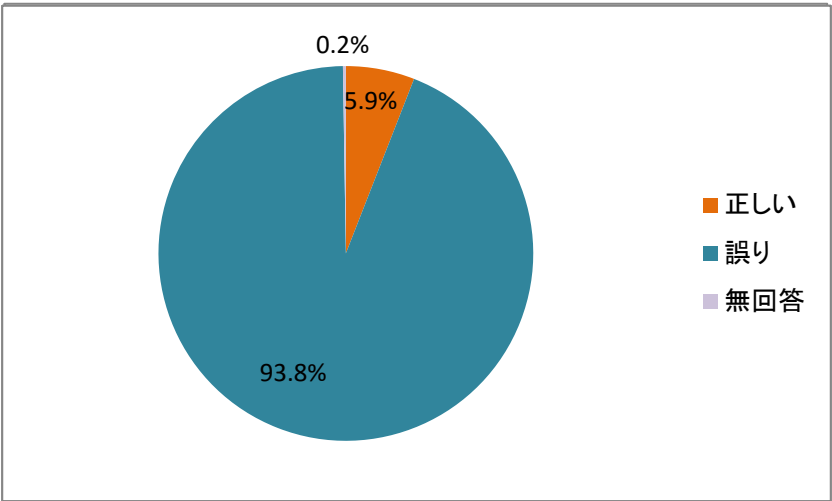
正しい	1435
誤り	15049
無回答	72



f 体の調子が良い場合は、定期的に検診を受けなくても良い（事業実施後）

(単位：人)

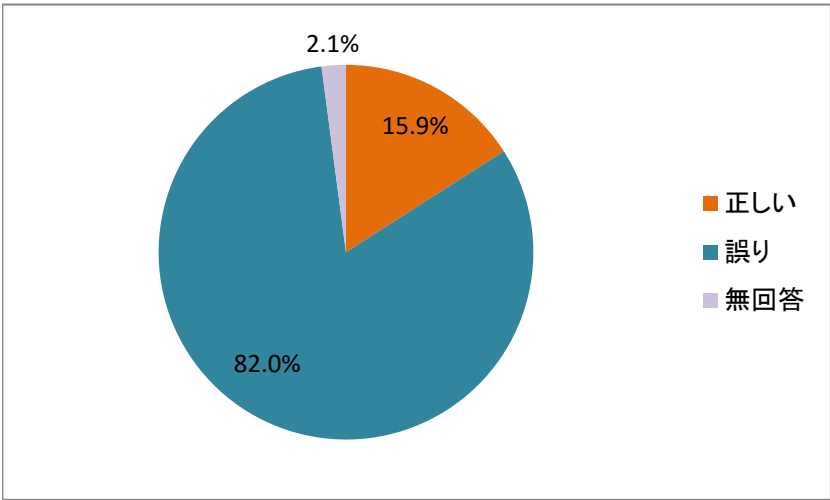
正しい	976
誤り	15432
無回答	41



g がんの治療法には手術治療しかない（事業実施前）

(単位：人)

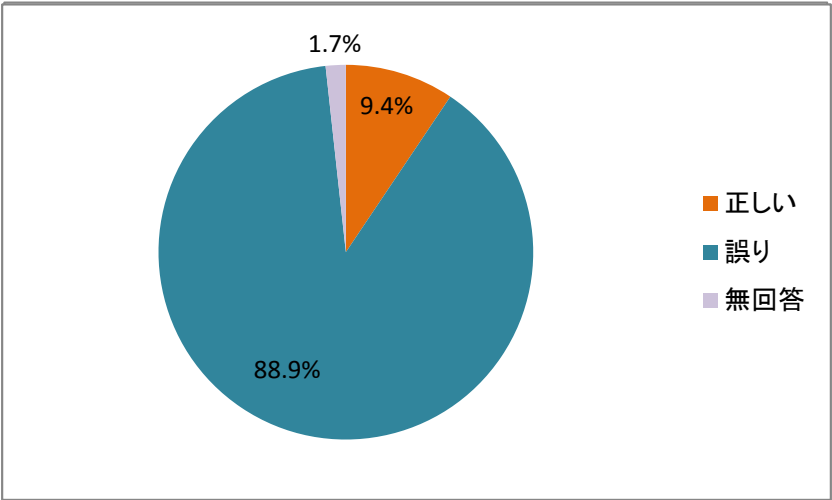
正しい	2539
誤り	13049
無回答	332



g がんの治療法には手術治療しかない（事業実施後）

(単位：人)

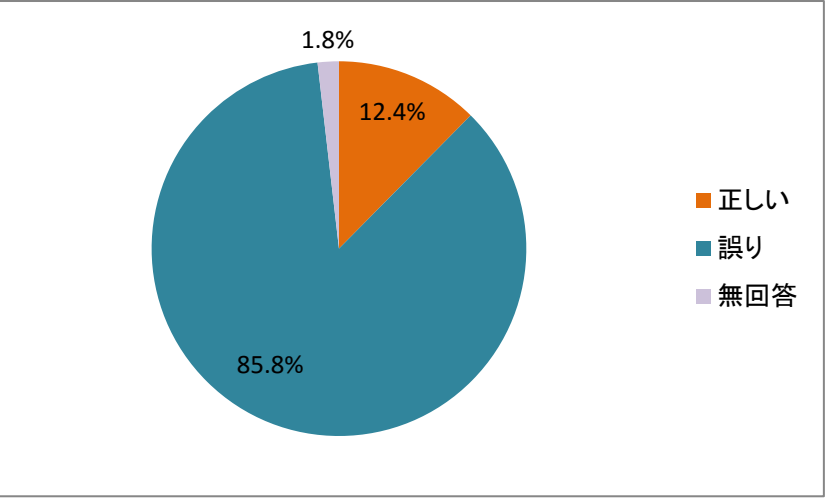
正しい	1491
誤り	14067
無回答	274



h がんの痛みは我慢するしかない（事業実施前）

(単位：人)

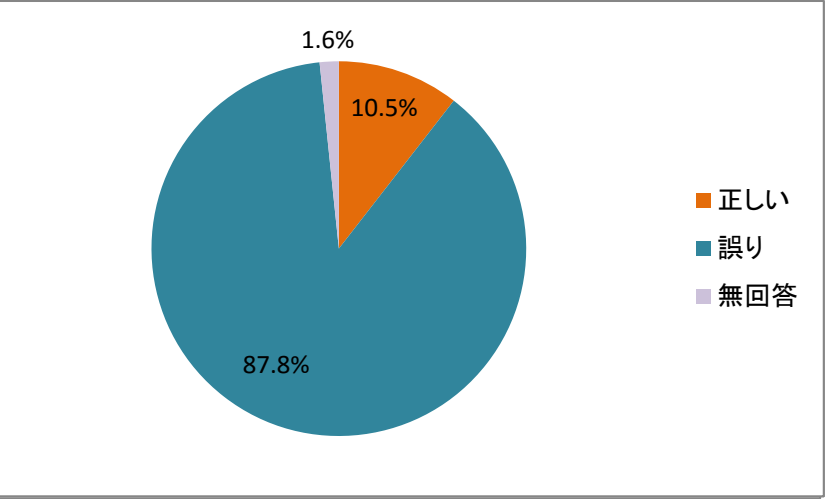
正しい	1908
誤り	13184
無回答	281



h がんの痛みは我慢するしかない（事業実施後）

(単位：人)

正しい	1606
誤り	13420
無回答	251

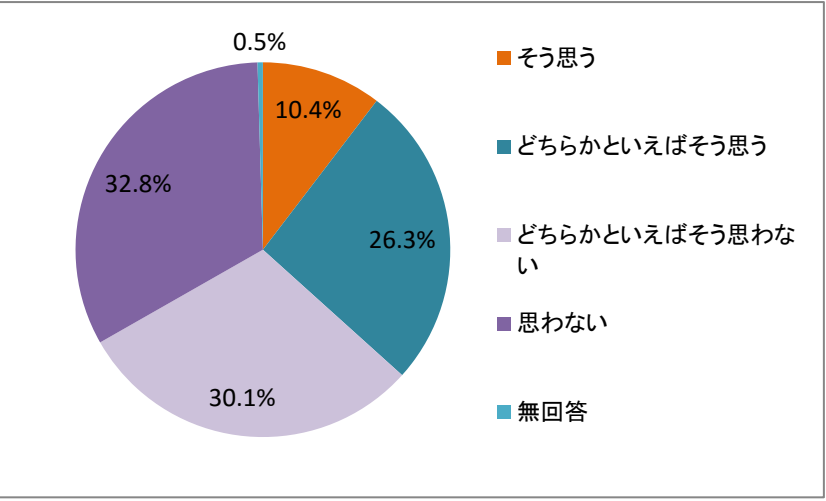


3) がんについて当てはまるもの

a 自分はがんにならないと思う（事業実施前）

(単位：人)

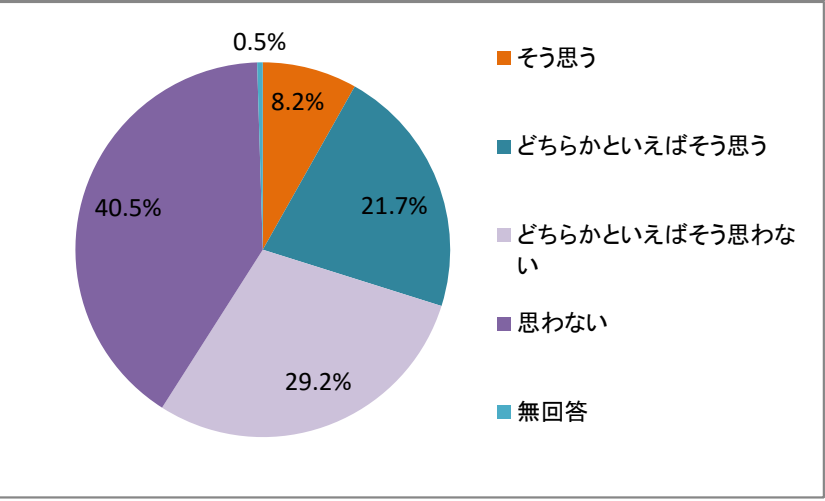
そう思う	1752
どちらかといえばそう思う	4435
どちらかといえばそう思わない	5076
思わない	5530
無回答	78



a 自分はがんにならないと思う（事業実施後）

(単位：人)

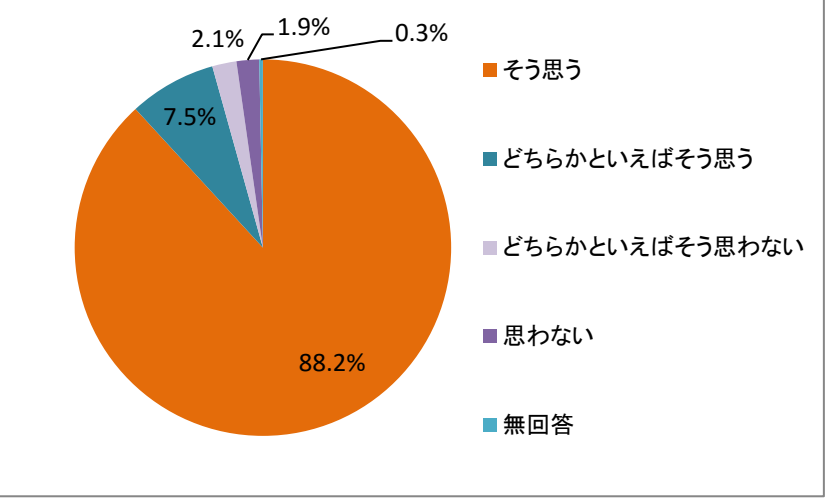
そう思う	1369
どちらかといえばそう思う	3636
どちらかといえばそう思わない	4891
思わない	6786
無回答	81



b 将来、たばこは吸わないでいようと思う（事業実施前）

(単位：人)

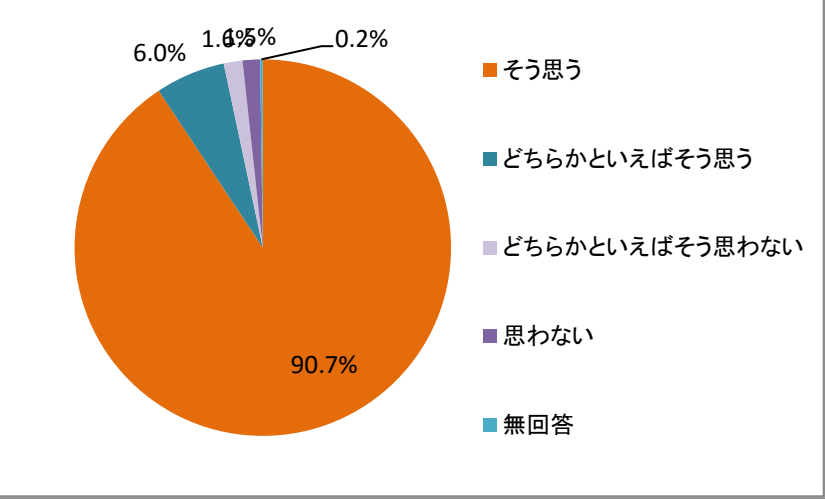
そう思う	14646
どちらかといえばそう思う	1245
どちらかといえばそう思わない	346
思わない	322
無回答	52



b 将来、たばこは吸わないでいようと思う（事業実施後）

(単位：人)

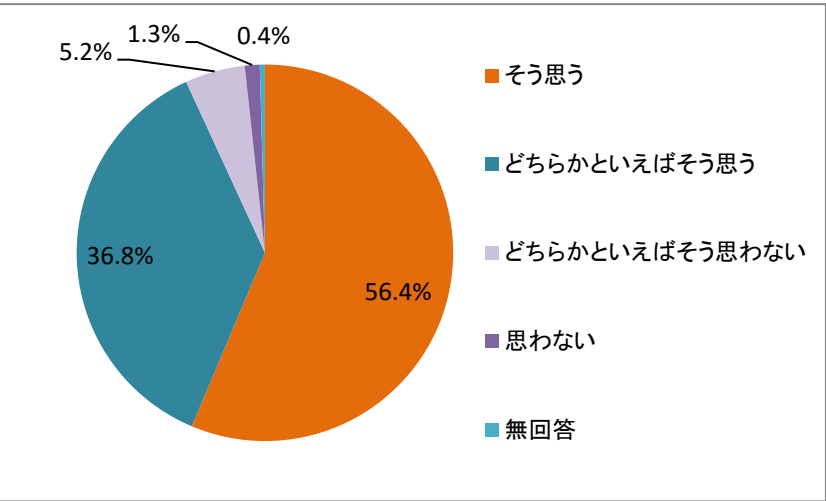
そう思う	14962
どちらかといえばそう思う	989
どちらかといえばそう思わない	266
思わない	247
無回答	37



c 日頃から、バランスの良い食事や適度に運動を行うなど健康な体づくりに取り組もうと思う（事業実施前）

(単位：人)

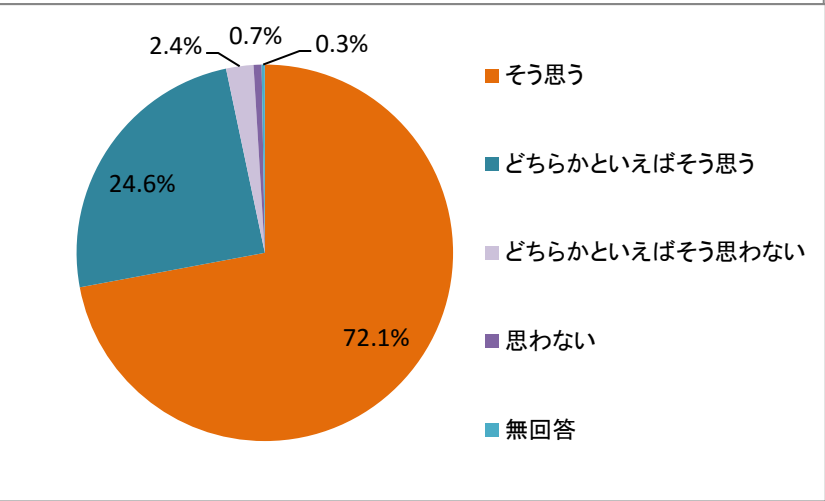
そう思う	9361
どちらかといえばそう思う	6108
どちらかといえばそう思わない	857
思わない	212
無回答	73



c 日頃から、バランスの良い食事や適度に運動を行うなど健康な体づくりに取り組もうと思う（事業実施前）

(単位：人)

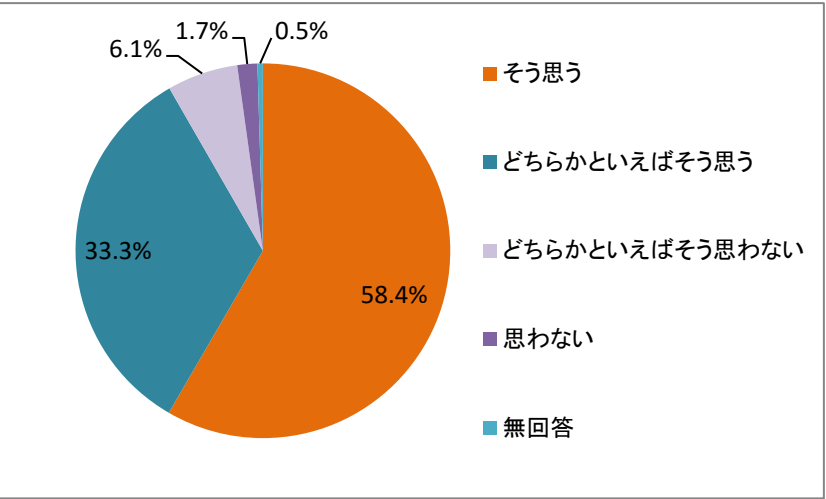
そう思う	11892
どちらかといえばそう思う	4064
どちらかといえばそう思わない	388
思わない	113
無回答	45



d がん検診を受けられる年齢になったら、検診を受けようと思う（事業実施前）

(単位：人)

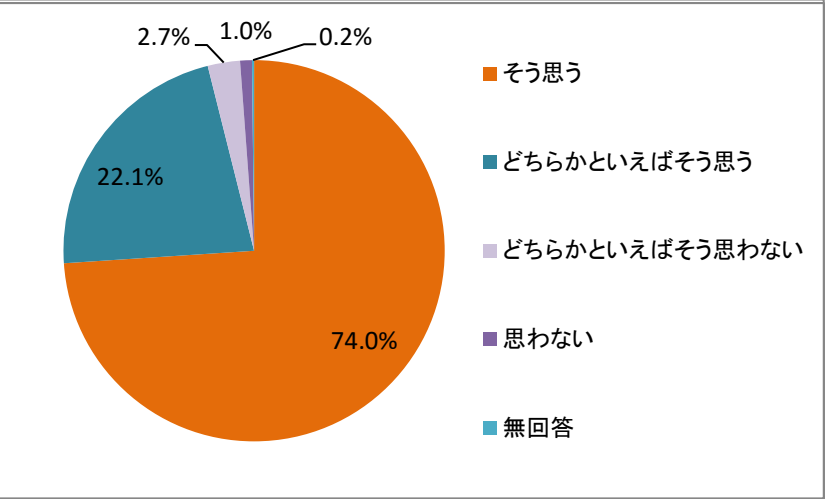
そう思う	9754
どちらかといえばそう思う	5566
どちらかといえばそう思わない	1022
思わない	289
無回答	78



d がん検診を受けられる年齢になったら、検診を受けようと思う（事業実施後）

(単位：人)

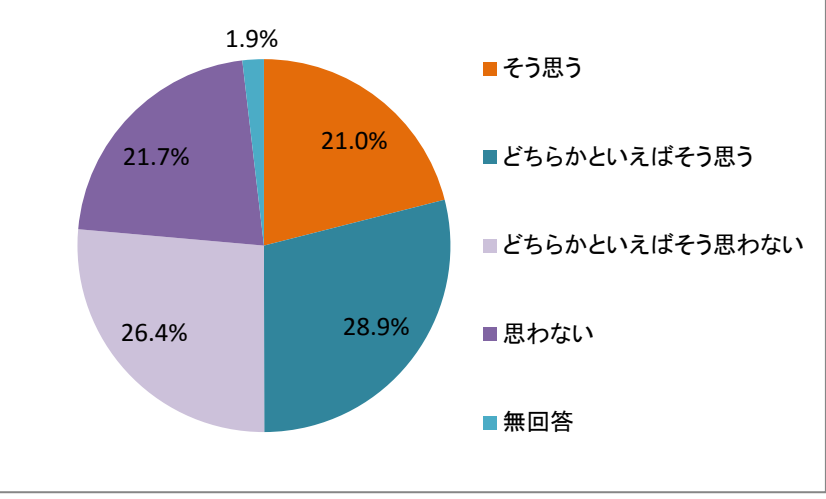
そう思う	12257
どちらかといえばそう思う	3668
どちらかといえばそう思わない	454
思わない	166
無回答	29



e がんの治療方法はいくつかあるが、医師が決めるものである（事業実施前）

(単位：人)

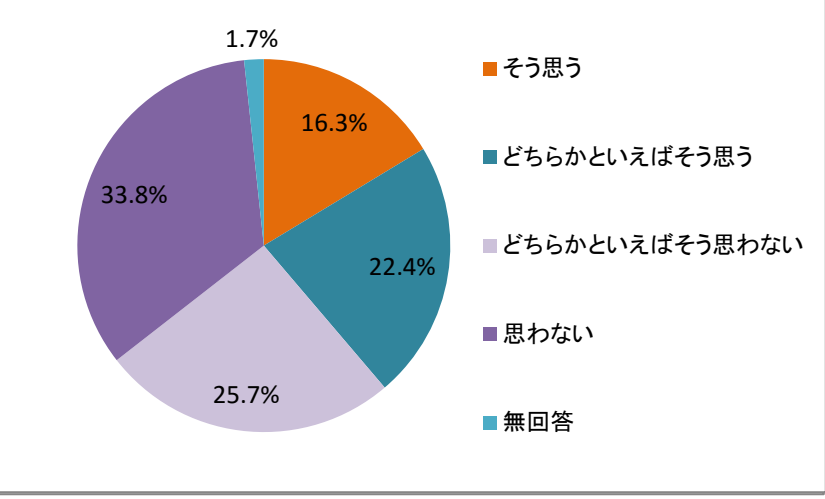
そう思う	3495
どちらかといえばそう思う	4806
どちらかといえばそう思わない	4390
思わない	3612
無回答	308



e がんの治療方法はいくつかあるが、医師が決めるものである（事業実施後）

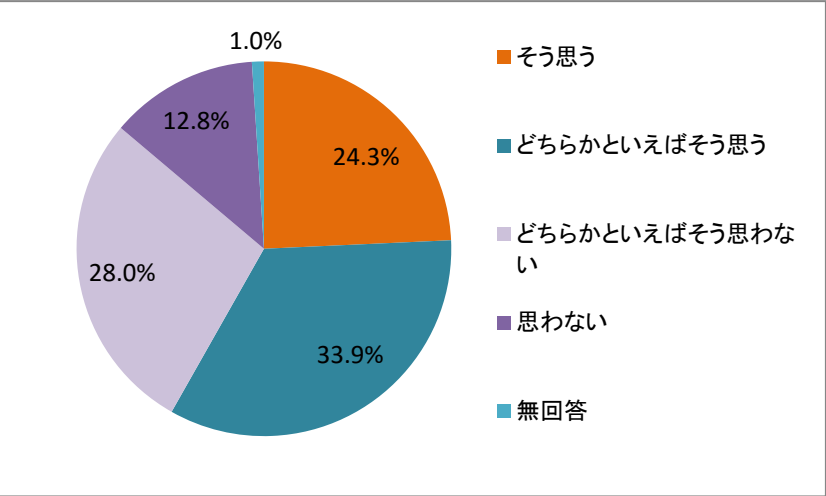
(単位：人)

そう思う	2695
どちらかといえばそう思う	3704
どちらかといえばそう思わない	4241
思わない	5585
無回答	279



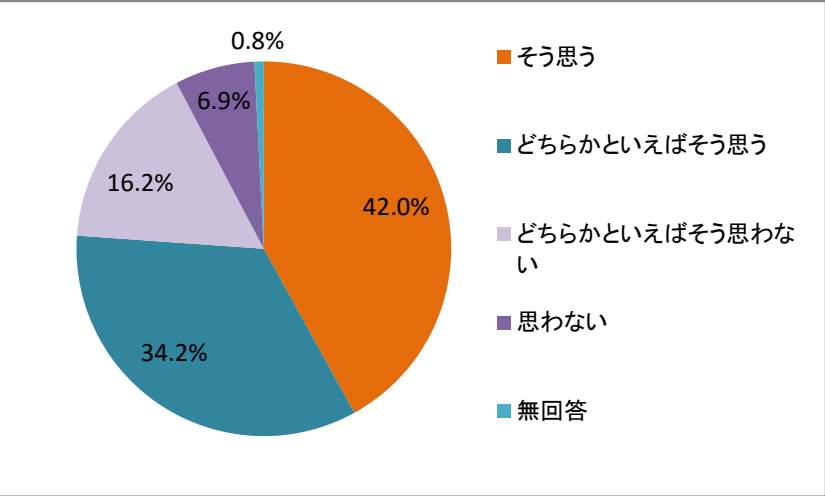
f がんになっても生活の質を高めることができる（事業実施前）

(単位：人)	
そう思う	3869
どちらかといえばそう思う	5407
どちらかといえばそう思わない	4456
思わない	2042
無回答	164



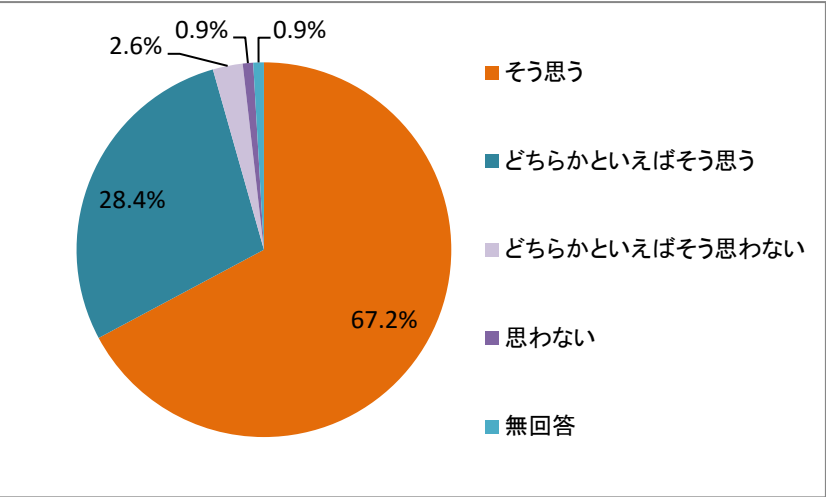
f がんになっても生活の質を高めることができる（事業実施後）

(単位：人)	
そう思う	6645
どちらかといえばそう思う	5409
どちらかといえばそう思わない	2561
思わない	1093
無回答	128



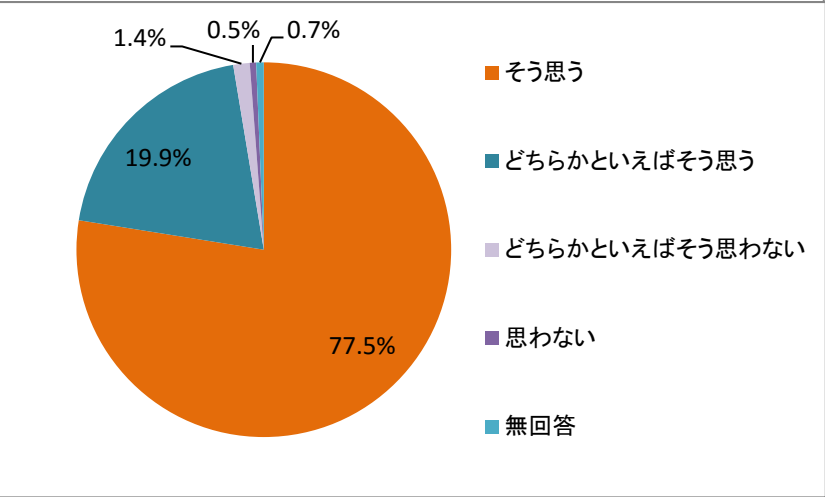
g がんになっている人も過ごしやすい世の中にしたい（事業実施前）

(単位：人)	
そう思う	10953
どちらかといえばそう思う	4631
どちらかといえばそう思わない	421
思わない	146
無回答	149



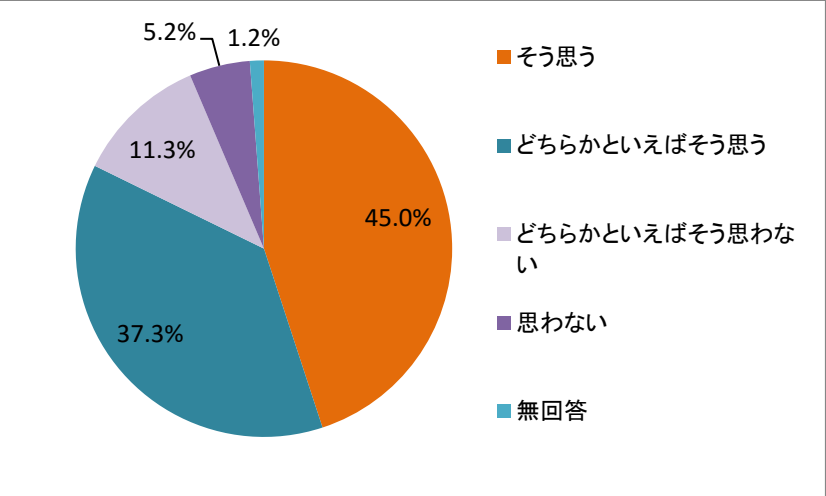
g がんになっている人も過ごしやすい世の中にしたい（事業実施後）

(単位：人)	
そう思う	12553
どちらかといえばそう思う	3217
どちらかといえばそう思わない	230
思わない	88
無回答	106



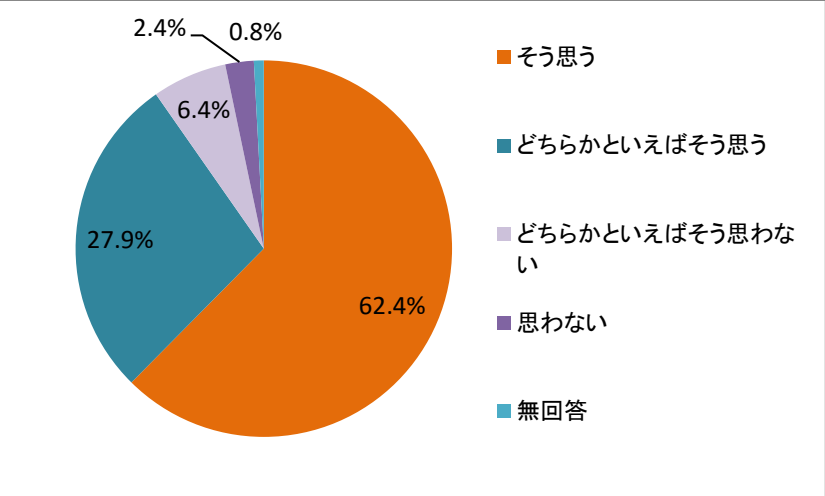
h がんと健康について、まずは身近な家族から語ろうと思う（事業実施前）

(単位：人)	
そう思う	7504
どちらかといえばそう思う	6223
どちらかといえばそう思わない	1893
思わない	870
無回答	200



h がんと健康について、まずは身近な家族から語ろうと思う（事業実施後）

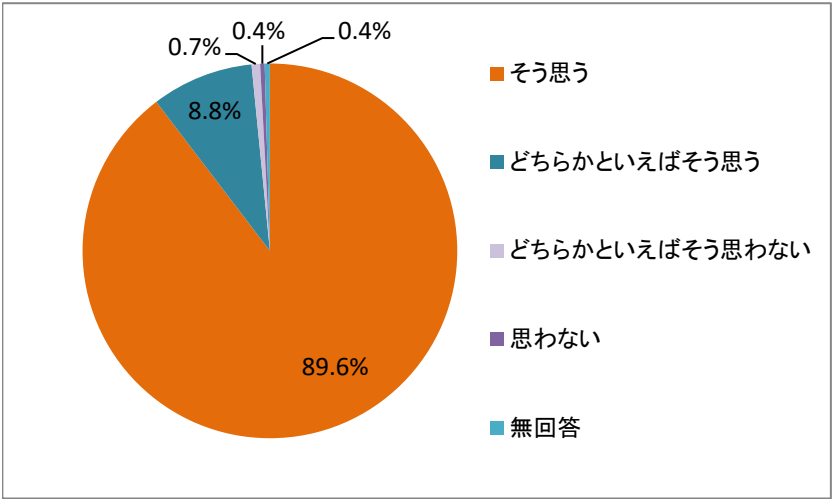
(単位：人)	
そう思う	10241
どちらかといえばそう思う	4574
どちらかといえばそう思わない	1053
思わない	401
無回答	139



i 家族や身近な人が健康であってほしいと思う（事業実施前）

(単位：人)

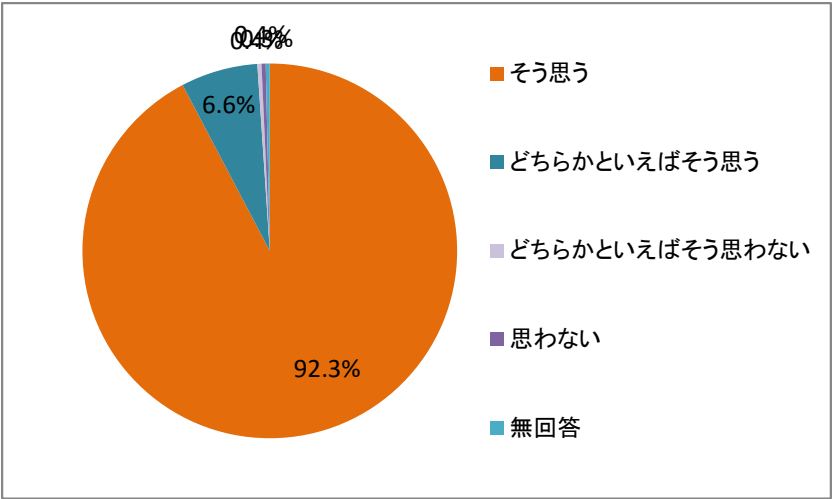
そう思う	14803
どちらかといえばそう思う	1454
どちらかといえばそう思わない	121
思わない	64
無回答	74



i 家族や身近な人が健康であってほしいと思う（事業実施後）

(単位：人)

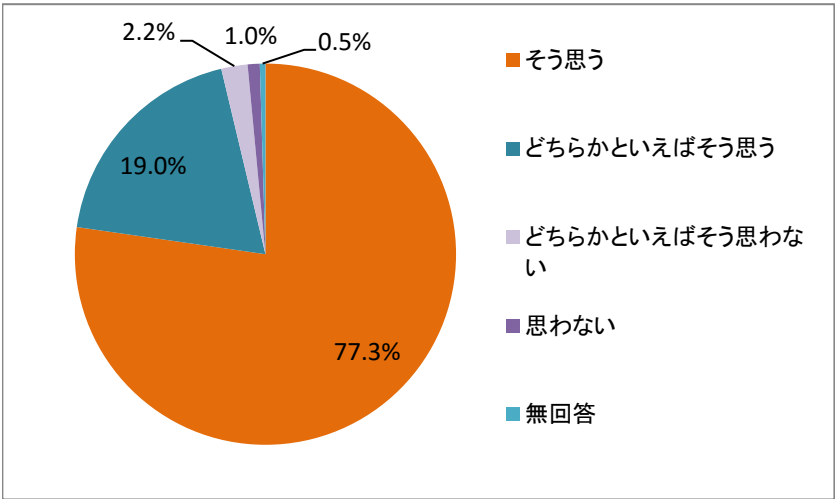
そう思う	15172
どちらかといえばそう思う	1091
どちらかといえばそう思わない	59
思わない	59
無回答	57



j 長生きをするために、健康な体づくりに取り組もうと思う（事業実施前）

(単位：人)

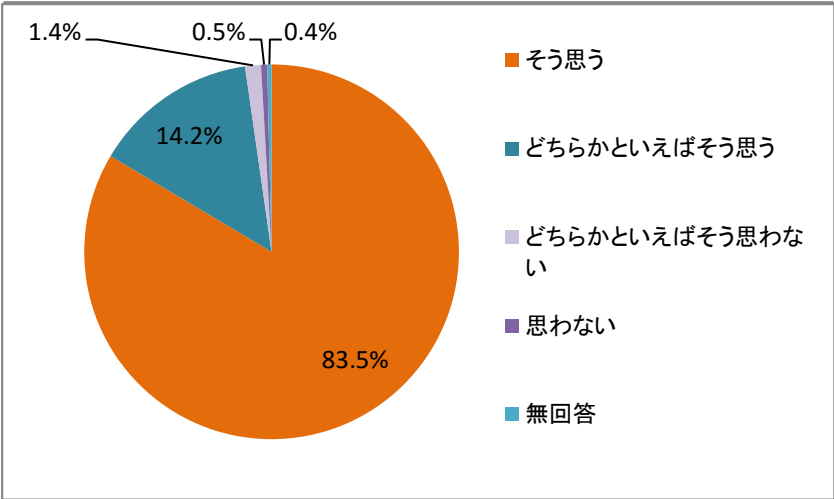
そう思う	12901
どちらかといえばそう思う	3172
どちらかといえばそう思わない	372
思わない	171
無回答	79



j 長生きをするために、健康な体づくりに取り組もうと思う（事業実施後）

(単位：人)

そう思う	13731
どちらかといえばそう思う	2333
どちらかといえばそう思わない	225
思わない	86
無回答	62

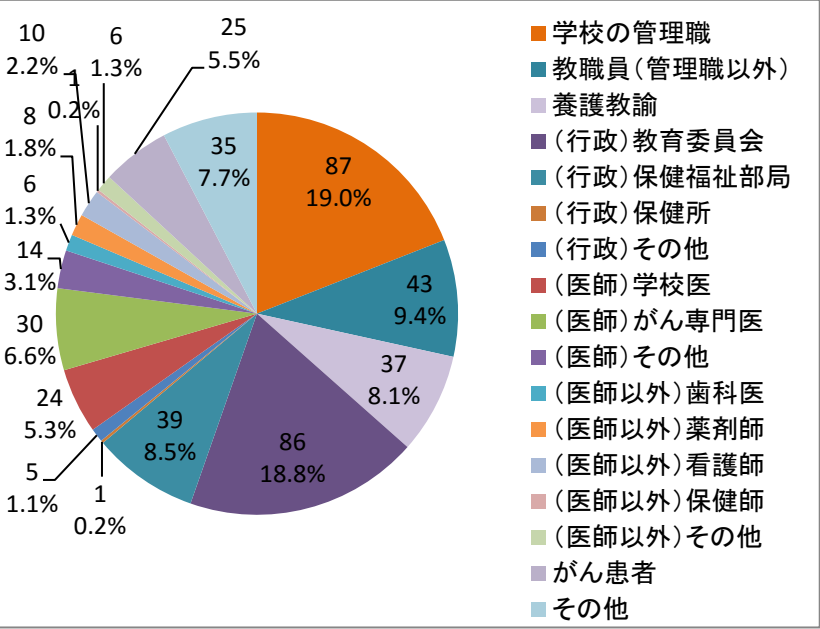


令和元年度 がん教育総合支援事業 評価アンケート

(3) 協議会に対するアンケート

1) あなたの職種をお答えください。

(単位：人)	
学校の管理職	87
教職員（管理職以外）	43
養護教諭	37
（行政）教育委員会	86
（行政）保健福祉部局	39
（行政）保健所	1
（行政）その他	5
（医師）学校医	24
（医師）がん専門医	30
（医師）その他	14
（医師以外）歯科医	6
（医師以外）薬剤師	8
（医師以外）看護師	10
（医師以外）保健師	1
（医師以外）その他	6
がん患者	25
その他	35
計	457



2) 協議会として十分な支援を行えたか

(単位：人)	
はい	334
いいえ	54
無回答	48

